紫紺の詩

明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会

2019年総明会会報

総明会

つなぐ

～ Meiji の薫りを令和へ～

明治中學校 校歌

作詞　武島　羽衣
作曲　楠見恩三郎

一章
帝都の真中駿河臺
　遙かに望む富士のねの
高きに理想の影追ひて
　集る健児勇ましや

二章
学びの高嶺文の海、
　嶮しく荒き行末を
懼れず笑みて進みゆく
　我等が意氣は天を呑む

三章
忠と孝の大糸を、
　色どる正義、愛、誠
我等が胸をかざるべき
　大和錦の美ならずや

四章
世界に王たる日の本の
　國民の基と身をなして
我等が校の名を揚けむ
　我等が國の威を揚けむ

校　歌

作詞　児玉　花外
作曲　山田　耕筰

一、白雲なびく駿河台
　眉秀でたる若人が
　撞くや時代の暁の鐘
　文化の潮みちびきて
　遂げし維新の栄になふ
　明治その名ぞ吾等が母校
　明治その名ぞ吾等が母校

二、権利自由の揺籃の
　歴史は古く今もなほ
　強き光に輝けり
　独立自治の旗翳し
　高き理想の道を行く
　我等が健児の意気をば知るや
　我等が健児の意気をば知るや

三、霊峰不二を仰ぎつつ
　刻苦研鑽他念なき
　我等に燃ゆる希望あり
　いでや東亜の一角に
　時代の夢を破るべく
　正義の鐘を打ちて鳴らさむ
　正義の鐘を打ちて鳴らさむ

揮毫（きごう）

筆　向殿 政男

「紫紺の詩」は総明会設立50周年を記念して総明会会員の皆様から寄せられた意見を基に決定し、総明会名誉会長向殿先生に揮毫いただきました。
「紫紺の詩」の「詩」という文字は「歌（音）」ではなく、総明会会員の皆様の心に残る「詩（言葉）」、「会報」を表す言葉を意味しています。

総明会とは

総明会とは、旧制、新制明治中学校、明治大学八丈高等学校、明治高等学校の卒業生ならびに同校に在籍したことがあるものの同窓会組織である。

総明会の設立の起源は、１９１２年（明治45年）開校時にあった「学友会」にまで遡ることができ、１９２６年（大正15年）１月の「同窓会」設立へと続く。その後中断の時期を経て１９６４年（昭和39年）有志による「明治中学校・高等学校同窓会設立発起人会」が設立、１年間の準備期間を経て１９６５年（昭和40年）に第１回同窓会が開催され現在の総明会へと続いている。

総明会の活動は、「会員相互の結束と親睦を図り、且つ母校のためにこれを賛助すること」を目的としており、総明会会員を対象とした年に１回開催される総会・懇親会を中心に、各委員会が企画する行事、「総明会チャリティーゴルフ大会」・「評議員・班・クラブＯＢ・ＯＧ会」・60才以上の会員を対象とした「明朗会」等を開催している。

その他、母校に対する活動として、卒業する高校３年生を対象とし、『明治大学付属明治高等学校建学の精神にのっとり、伝統ある校風のもとに学業に励んで優秀な成績を収めたことを賞する』、２００７年度（平成19年度）からは、成績優秀者のみならず、班部活動、対外活動、学校行事など、学校生活全体を通した活躍や貢献したものへの総明会賞の授与、母校記念行事への寄付活動、クラブ活動への支援を行っている。卒業生に対しては、大学在学中の若手を通じての総明会活動紹介、同窓会開催支援や就職相談会の開催等を行っている。

この他、総明会会員である明治大学、明治高校の教職員を通じての組織基盤の強化、「法曹部会」による高校在校生を対象とした司法試験向けの各種支援も行っている。

なお、「総明会」の名称であるが、１９７０年（昭和45年）の第20回総会において、初代校長鵜澤総明先生の名前をいただき、且つ明治中学校・高等学校同期会と同窓生総体の連帯を意味するものとして命名されたものである。

絆 継 つなぐ 網 繋

～Meijiの薫りを令和へ～

今年度幹事学年テーマ
『つなぐ』～Meijiの薫りを令和へ～について

「薫」の文字は、いわゆる香気の他に「薫化」「薫風」といった“良い雰囲気”や“徳”の意味を持っております。
では「Meijiの薫り」とは如何なるものでしょうか。明治大学建学の精神は「権利自由・独立自治」。
それは歴史や伝統に甘んじることなく、時代に沿って改革を推進する。
そして世界を『つなぐ』ために「個を強める」こと。
時代や学校のシステムが変わっても、各々が同じ校舎で仲間達と過ごしたことは変わりません。
神田駿河台にて生まれた、旧制明治中学校時代から続く「薫り」は平成の校舎移転を経ても脈々と続いております。
現役の「若き血潮に燃ゆる花」達、これから幹事学年を迎える後輩達に伝えたいのはそんな「Meijiの薫り」です。
自ずと豊かな情操が養われ、無意識のうちに「薫り」をつなぐことが出来る場所、
そんな「学びの高嶺、文の海」を笑顔で進んで欲しい。
これが我々「快汗、どすこい塾」がテーマに込めた願いであります。

特集1 繋ぐ

激動の平成時代 明高クロニクル

平成の世の30年間は、創立107年の明治高校の歴史の中で忘れられない時代になると共に、明治高校にとっても激動の時代となりました。駿河台から調布への移転、そして共学化。この時代に明治高校の転機となった幾つかの出来事や、懐かしいネタをピックアップしてみました。卒業したOB・OG、幹事学年の話題もお楽しみ下さい。令和の時代へ、猿楽町校舎時代の記憶や、明治高校の新しい薫りを「繋ぎ」、明治高校の益々の「繁栄」を謳歌して行きましょう！

1989年（平成元年）

制帽の自由化

現役生には、死語であろう「制帽」。自由化以前の1974年（昭和49年）、中学生の短髪規定の廃止により、生徒は髪型を気にして帽子を被らなくなる傾向となる。制帽着用規定は実効性を失い始め、制帽を被る被らないで、生徒と先生方とのいたちごっこが続く。1989年前後は全国的に制服への価値観が従来から変化をしていくタイミングで、制服の種類を増やし生徒の選択の幅を広げたり、制服を一新してイメージアップを図る公私立校の新しい動きがあった。

明治高校は「校内の秩序を守る為」という理由で、教員はきちんと帽子を着用させようと生徒協議会に強く働きかけていたが、生徒協議会では生徒の意見を反映させようと制帽の自由化を打ち出して、それが職員会議へ提出され、ついに1989年7月、当時の保坂校長より方針が正式発表され制帽着用が自由化となったのである。制帽が残っていたらどうなっていたか。そんな母校のもう1つの今を想像してみるのも面白いであろう。

～1991年（平成3年）

昔の後夜祭

紫紺祭の最終日の夜、猿楽町校舎の校庭の真ん中に薪を集め、キャンプファイヤーを囲み皆で肩を組んで歌った校歌や応援歌の想い出が懐かしい。

用務員の島さんに指南頂きながら組み立てたやぐらに火をつけた瞬間は、本当に感動的であった。時代と共に、後夜祭名物が姿を消してしまったのは大変残念である。キャンプファイヤーは1991年が最後であった。

1990年（平成2年）

『快汗、どすこい塾』都市伝説

今年の幹事学年の同期会の名称「快汗、どすこい塾」に含まれる「快汗」。そのルーツは、1990年の高Ⅱの体育祭のテーマ「快汗」から来ている。

当時の体育祭パンフレットの表紙に、男子が旗を掲げているスケッチが施されているが、その絵のタッチから一体誰が、いや誰の彼女が書いたのかという噂が当時流れ、結局誰の作か分からずじまいになっている。

当時の実行委員長は絡んでいないことは最近確認出来ているが、卒業して27年たったこの機会に、ぜひ作者には名乗り出て貰いたいと思う。

1992年（平成4年）

猿楽町校舎校庭の人工芝化

どすこい塾が卒業した後の1992年（平成4年）に、猿楽町校舎校庭が砂を混ぜた人工芝化された。前年迄は全面コンクリートで、体育や部活の時、こけたら膝がズル剥けることが当たり前だっただけに、在校生は相当喜んでいたようである。

2001 明治魂～男明治に惚れてみな～	2007 07 紫紺祭	2013 紫紺旋風 ～明治101～/テーマ 明治鉄道101
2002 攻めろ！！	2008 再誕	2014 May genius
2003 REVOLUTION	2009 ※新型インフルエンザの世界的な流行で中止	2015 紫紺笑祭～この祭り、いとをかし～
2004 INFINITY	2010 百花繚乱	2016 The image of Meiji ～明校の架橋～
2005 極	2011 100周年への架け橋	2017 われら紫紺の革命児
2006 DASH`	2012 for the NEXT	2018 明治維新、再び。～今年の紫紺祭はんぱないって～

2020 令和2年 | 2019 令和元年 | 2015 平成27年 | 2010 平成22年 | 2005 平成17年 | 2000 平成12年

1990年（平成2年）

史上最年少マンドリン独奏コンクール日本一

1990年名古屋市で開催された第12回日本マンドリン独奏コンクールにて、当時高Ⅲの山室繁央氏（平成3年卒明仁会）が伴奏の同級生、笠村強氏（剣道部OB）とともに最高位の第1位入賞を果たし、史上最年少の日本一となる。選曲は、ヴァイオリンの難曲であるサラサーテ作曲のツィゴイネルワイゼン。この曲で使われるヴァイオリンの特殊奏法を、卓越した技術によってマンドリン演奏に置き換えつつ、ジプシー独特の哀愁をマンドリンのトレモロ奏法で表現したその演奏は、「天才現る」との評価を得て世に衝撃を与えた。

1991年（平成3年）

NHK青春メッセージに出演『頑張れスワローズ』

1991年「成人の日」に、どすこい学年メンバーの吹奏楽班OB牛島伸介氏が、NHK青春メッセージに出演。地元神宮が本拠地のヤクルトスワローズ（現：東京ヤクルトスワローズ）への熱い想いを、応援ハッピを着てメガホンを持ちアピールした。スワローズが当時万年Bクラスでも応援している事、めったに勝てないからこそ勝利の喜びが大きい事、新しく就任した野村監督へ「優勝が見たい」という願いの内容だった。牛島氏は当時のビデオを紛失しており、この番組を録画している人がいたら、ぜひダビングさせて欲しいとのこと。

1996年（平成8年）

明大明治にサッカー部が設立

今やサッカー部は、中・高あわせて100名を超える大所帯に成長し、運動部の勢力図を塗り替える部活となった。猿楽町時代の1996年にサッカー部が設立されたが、その前身は有志サッカーで始まっている。当時の過程によると、1991年から1993年にサッカー部創設案が初めて生徒から出されたようである。

当初は堀切の日の出緑地が活動場所で、顧問になる先生もいなかった為、創設廃案に追い込まれた。その後1995年から有志サッカーは24名で活動を再開し、明治高校OBを含んだ明大生との練習試合や、体育祭や紫紺祭でのPR活動等を地道に継続し、3学期に田中徹太郎先生より入部希望者へ正式にサッカー部創立が伝えられた。

平成に入ってからは、1994年の陸上競技部、2008年の硬式テニス部など新しい部活が設立された。今回ピックアップ・クラブ（24ページ）と題して、文化部の活動も取り上げているので見て頂きたい。

1990年代前後

紫紺祭 バンド天国

紫紺祭と言えば、バンド。1980年代から1990年代のロックバンドの一大ブームの中で、多くのバンドが紫紺祭ステージを飾った。

洋楽・邦楽関係なく、どすこい塾の学年だけでも4～5バンドが存在したが、先生と生徒のバンドや、先生バンドもあり、視聴覚教室は熱気につつまれていた。なお、バンドブームで盛り上がったTV番組に「いかすバンド天国」という、1989年から1990年迄放映されたバンドオーディションの人気番組があった。その司会者が、明治高校出身の三宅裕司氏（昭和45年卒）であったことを改めてお伝えしておこう。

1993年（平成5年）

中高体育祭の分離開催

1993年10月2日に高校体育祭、翌日に中学体育祭が行われ、この年から分離開催となった。分離開催は、中高合同で行うことによる一人当たりの競技数不足や、盛り上がりに欠ける応援などに対応すべく、体育祭の充実を図る目的で教員側から提案された。「中学生だけでは準備や片づけが大変」「盛り上がりにかけた」等の反対意見がある一方で、「場所が広くなった」「参加出来る競技が増えた」等の賛成意見もあり、全体的に分離開催が「成功」の評価を受け、以後継続する。現在は中学校が体育祭として、高校は2004年に球技大会に姿を変えて実施されている。

今年、男子はバスケットボール・バレーボール・サッカー、女子はバレーボールと新種目ドッジボールが追加され、6月に開催された。その昔、高校の種目だった棒倒しは、もはや時代に合わないものだが大変盛り上がった。あの様な種目がないのはやはり寂しいものである。

紫紺祭のテーマの歴史

今年の幹事学年の同期会名は「快汗、どすこい塾」であるが、そのルーツは、高Ⅱだった1990年の紫紺祭のテーマが由来である。平成の間で29のテーマがあったが、表を見て頂くと分かるとおり、時代や世相を反映したもの、共学化後は女子が中心に考えたであろうテーマも見られる。30年間殆ど被ることもなく、各々の代の色が反映されているのが分かる。令和最初のテーマは果たして何になるか？

1989　革命児/核明治	1995　新党明治
1990　**どすこい'90**	1996　強行突破
1991　原点を守り　頂点へ翔ける	1997　ENDLESS（自分だけの終わらない何かを。）
1992　破天荒	1998　CONTACT
1993　考え中	1999　Discovery　（発見）
1994　燃える闘魂	2000　Explosion　（爆発）

1995 平成7年　1990 平成2年　1989 平成元年

特集1 繋ぐ

激動の平成時代 明高クロニクル

2011年（平成23年）明治高校の歴史上初の女子団長就任

応援団チアリーディング部にて、押田華穂さんが第66代目で初の女子応援団長となる。

当時も放送中だったザ・ノンフィクション『花の中学生応援団』（2005～2016年迄全5話）でも取り上げられた。

その後の67代目の男子団長へ引き継ぎの際に送った言葉「敢為邁往」（困難に屈せずひたすら前進すること）は、令和の時代へもつないでいきたい言葉である。

2006年（平成18年）マラソン大会終了

1968年（昭和43年）6月に、狭山多摩湖畔で第1回大会が開催された。明治高校・中学合同の大会で、高校10km・中学6kmで争われていた。昭和記念公園、河川敷などで行われることもあったが、基本は狭山多摩湖のコースであった。

過呼吸を起こす生徒もいて、きつい学校行事であったが、どすこい塾の代ではマラソン大会がきっかけで有志駅伝部が出来た。調布へ移転する前、2006年（平成18年）11月が最後のマラソン大会となってしまったが共学となった明治中学・高校での復活はあるのであろうか・・・。

2011年（平成23年）初の女子卒業生の誕生

2011年3月10日、共学化して明治高校初の女子が卒業した。2008年に入学した生徒282名のうちの64名である。先生達は特別な思いで卒業式に臨まれたのだろうと思われる。この歴史的な卒業式の翌日11日に東日本大震災が起きたことを考えると、卒業後の気持ちは穏やかではなかったと想像出来る。

なお100周年を目前にし、明治高校内も自粛ムードはあったようだが、この年は中国上海建平中学（高等学校）と協定（初の海外協定）を締結。男子4人・女子7人の生徒が建平中学で、一週間の国際交流研修を実施している。

2008年（平成20年）明治高校 移転共学化スタート！

2008年4月の猿楽町校舎から調布校舎への移転にあわせて、明治中学・高校共に女子が入学した。中学は入学者187名のうち57名が女子、高校は入学者282名（130名は明治中学から）のうち64名が女子であった。全体では、中学9クラスが15クラスへ、高校15クラスが21クラスへ増えた。

教務主任を務めていた関根正人先生（「27年目の授業」（16ページ）にご登壇）の調布移転の当時の談話だが、共学化にあたり先生達は名簿の順番は男女か女男にするか、はたまた混合にするか、スカートが短かった場合に男性教諭は注意していいのかなどを真面目に、尽きることなく議論し、考えたようである。しばらくは、どう女子と接したらいいか分からない男子と女子との間には壁があり、先生と生徒の探り合いも続いたようである。

2010年には、完全共学化となり各学年に女子が入って来たことによって、明治高校に様々な新しい変化が起きたのは事実である。応援団チアリーディング部の活躍、女子のみのクラブ活動としてダンス部も設立され、現在も人気の部活となっている。

卒業生ではブラバンOGが明治大学ラグビー部へマネージャーとして入部し、今年の明治大学日本一の縁の下の力持ちとなっており、これも共学化がなかったら起きえなかったことである。

2012年（平成24年）明治高校創立100周年

for the NEXT
100th Anniversary

テーマを「for the NEXT」とし、年間を通じて創立100周年記念事業が展開された。式典・祝賀会、校舎内ラッピング、ラッピングバス等の広報戦略、校内行事、記念誌の発行などがあった。紫紺祭の閉会式では、明治高校では初であろう芸能人（オリエンタルラジオの藤森慎吾さん、キマグレンさん）が調布校舎に訪れて最高の盛り上がりを見せ、次の100年に向けての新しいスタートとなった。また、この100周年で生徒会長や過程編集長が明治高校史上初の女子生徒となったことは歴史的転換点である。

村野圭吾 校長
1992～1993

金井照治 校長
1990～1991

保坂吉彦 校長
～1989

2020 令和2年 | 2019 令和元年 | 2015 平成27年 | 2010 平成22年 | 2005 平成17年 | 2000 平成12年

2018年（平成30年）

芸術祭復活

昭和50年代は、プロやセミプロの演奏する音楽の鑑賞が中心で「音楽祭」という名前で11月に実施されていた。

1986年（昭和61年）に、東京芸術座による演劇を鑑賞して以降、音楽に限らず広く芸術一般を鑑賞することになった為、名前が「芸術祭」と改められた。毎年、音楽鑑賞と演劇を交互に実施していた中、退任された安部先生談話となるが、高校の同級生だった俳優の石丸謙二郎さん（「世界の車窓から」のナレーションでも有名）に紹介された劇団の演劇も鑑賞する機会があったとのこと。しばらく途絶えていたこの芸術祭は、2018年11月に校舎内の鵜澤総明ホールにてマンドリン部OBである堀雅貴さん（平成14年卒）がリーダーを務める「Mandolicks」を迎えて復活した。

2012年（平成24年）

鵜澤総明教育振興・奨学金プログラムの創設

創立100周年記念事業の1つだったこのプログラムの最大の狙いは、募金による寄付金（積立金）を原資とする奨学金を活用して、海外留学・体験学習、受け入れ留学生との交流等様々を通じて、グローバル社会におけるリーダーを育成することであった。2013年2月には、100周年記念第1回英語スピーチコンテストが開催されており、今年で第8回目を迎えている。2012年以降、他にイングリッシュ・プレゼンテーション大会も実施され、これらのコンテストの入賞者やファイナリストが語学研修へ行くようになった。研修先はアメリカ・フランス・カナダ・オーストラリア等多岐に渡り、当初の狙い通りグローバル人材育成が進んでいる。

2018年（平成30年）

『過程』の編集について

写真は2018年度『過程』の第67号である。過程自体に興味を持って貰う為に、あえて手描きにしたという表紙が非常に印象的である。

近年、過程編集委員に、男子生徒が携わらなくなってしまったのは非常に寂しい状況である。

時代の流れや価値観の変化なのかも知れないが、ぜひ、また男子生徒の編集委員が戻って来ること、そして継続していくことを願ってやまない。

2018年（平成30年）

安部先生談話　棟朝銀河さんの想い出

国語科の安部先生との退任インタビュー時に聞けたエピソードで、記事には含んでいない為、先生の談話をほぼそのままの内容でお伝えする。

「猿楽町校舎の最晩年、俺が中学の教頭をやっていた時、トランポリンの棟朝銀河が中学に入学して来たんだよ。

実は、入学前に母ちゃんが電話をかけてきてな、「明治と立教とどちらにしましょうか」って聞かれたもんだから、俺が「そりゃ明治でしょ」って言ったんだよ。それで明治に入って来たんだけど、トランポリンなんて学校にはねえよな。

だから、しょうがねえからトランポリンを買ったんだよ。でもここで指導するってのも難しいじゃん、危険な技もあるし。それで、結局は朝日生命に行って練習してたんだけどな。彼はその後リオデジャネイロオリンピックに出場するんだけれど、オリンピックに行くような選手は彼が最初だったな。残念ながら彼は明治大学には進学しなかったんだけれど、東京オリンピックでも頑張って欲しいよな」。

今もこのトランポリンは調布校舎に眠っているらしい。

2019年（平成31年）

石崎章生元校長 叙勲授与される！

都立高校の校長を経て平成6年から平成9年度の間、明治大学付属明治高等学校・中学校の校長を務められていた石崎章生先生（85歳）が、2019年（平成31年）4月、春の叙勲で瑞宝小綬章を授与されました。

長年の教育功労が認められたこと、ここにお祝いの言葉と共にご報告させていただきます。

おめでとうございます。

《明治高校平成歴代校長》

安藏 伸治 校長
2014 ~ 現在

金子光男 校長
2009 ~ 2013

小林正三郎 校長
2007 ~ 2008

吉田善明 校長
2004 ~ 2006

栗田健 校長
2002 ~ 2003

清水紀夫 校長
1998 ~ 2001

石崎章生 校長
1994 ~ 1997

1996年の第33回ラグビー全国大学選手権以来、
22年ぶり日本一になった明治大学

明大ラグビー部を陰で支えた明高OGにズームイン!

古岡 奈緒（平成27年卒）

明治中学・高校経て明治大学政治経済学部政治学科へ進学
クラブ活動：吹奏楽班 ユーフォニアム
好きな音楽：クラシックや邦楽（Mr. Childrenや尾崎豊）、洋楽（The ChainsmokersやQueen）など、幅広いジャンルの音楽が好き。
明治高校の学生生活：吹奏楽班での活動が学生生活の9割位を占めている中、100周年記念事業委員会で委員を経験。吹奏楽以外で、バンド活動もしていた。
明治中学・高校思い出の先生：吹奏楽班顧問 鈴木正人先生、社会科 駒形先生、生物 西村先生、数学 石倉先生

縁の下の力持ちのマネージャーとして、重戦車軍団を支えた4年間の先に待っていたものは、『日本一』の栄冠

―明治大学では、政治経済学部政治学科に行かれたとのことで、専攻は何でしたか？

政治体制論のゼミです。卒業論文は、先生の意向で政治体制論に限らず自分の好きなテーマでという事だったので、スポーツチームのマネジメントをテーマにしました。

―大学に入って吹奏楽を選ばずに、ラグビー部のマネージャー業に転身した理由は？

ラグビー部と言うよりも、マネージャーをやりたいという理由で入部しました。この道を選んだ理由は3つあり、1つ目は全く別の世界で何か活動したいという気持ちがありました。幼いときの習い事もピアノ、中学高校も吹奏楽と、ずっと音楽だけだったので、最後の学生生活では全く別のことをやるのも良いのではないかと考えました。

2つ目は、吹奏楽班で高校Ⅱ年生からマネージャーの係をやらせて頂いていて、そこで組織のマネジメントの面白さを感じたので、大学で本格的にやりたいなと思いました。3つ目は、最後の学生生活も中高同様で部活動に打ち込みたいと考えたからです。

―数ある大学のクラブ・サークルの中、なぜ体育会ラグビー部を選びましたか？

体育会を選んだ理由は、中高の部活動でホントに一生の思い出というか、一つのことに打ち込むのはホントに良いなと感じたので、最後の学生生活も同じように部活動に打ち込みたいと思って選びました。

ラグビー部を体育会の中でも選んだのは、監督と先輩達の人間性にとても魅力を感じたからです。体育会のマネージャーをやろうと決め、入学してから4月、新勧活動とかたくさんあって色んな部活の見学に行ったのですけれども、その中でもラグビー部が唯一、見学に行ったときに監督（丹羽政彦氏：当時）が直接お話してくださいました。他の部活はそんなことがなくて、この監督の下で仕事をさせていただけたらいいなと思いました。他の部活と比べてマネージャーの先輩方が熱心にお話ししてくださったことも決め手となりました。

―4年間のマネージャー業で、大変だったこと、嬉しかったこと等を教えて下さい。

抽象的ですが、選手、監督、コーチと違ってマネージャーは絶対いなければチームが成り立たない役割ではないと思うので、如何にチームにプラスの働きが出来るかとか、自分がチームに所属している価値を創って行かなければならないというところが大変でした。私の場合は、仕事が早いところを監督が評価してくださり、仕事を振っていただきました。信頼してくださったので、期待を裏切らない為にも任せていただいていた仕事はなるべく早くやろうというところを意識しておりました。

嬉しかったことは、「仕事が早いね」と評価をいただいた時で、やりがいに繋がっていました。他には試合にお越しいただいた明治ラグビーのファンの方とお話した際に、「大変だね」とか「頑張っているね」と労っていただけたことです。

裏側のマネージャーの仕事まで見てくださっているファンの方がいるということが嬉しかったです。しかし何より嬉しかったのは、毎回の試合の勝利です。

―ちなみに悔しかったことは？

2年生の時、業務上でミスをしてしまい、監督からの信頼を失ってしまったことです。それが悔しくて、もう一度信頼関係を築くために自分の行動や業務を見直しました。

―ラグビー部のない明治高校を卒業し、ラグビー部に入り、ラグビー部のある明大中野・明大中野八王子の付属生と過ごした中で、古岡さんから見て、明治高校と明大中野・明大中野八王子を比べて、感じたことは？

全然違うと思います。明治高校は部活動よりも勉強重視、それに比べて明大中野、明大中野八王子は文武両道を目指しているイメージが強いです。明大中野、明大中野八王子はラグビー部や野球部といった運動部が強いという話もよく耳に入ります。

―22年前の優勝常連校だったラグビー部と今年優勝したチームを比べて、雰囲気や、活動に違いがあったとか、この辺が一緒だったとか分かる範囲で教えてください。

練習時間、人間関係、寮の食事といった細かいところも含めて雰囲気が大きく変わったとうかがっています。練習時間に関しては、現在は大学の授業時間に重ならないよう組まれています。昔はラグビー優先だったそうですが、現在は学業をチーム全体で重視しています。

人間関係は、現在は学生間の上下関係があまりなくて風通しが良い環境ですが、昔は大変厳しい先輩後輩の上下関係があったそうです。寮の食事も、現在は管理栄養士付きでバランスの良い食事が提供されていますが、昔は『白飯にちくわ』といった簡素な食事もあったとのことです。

―ちょうど優勝直後のNHKの特集を見て、がむしゃらに毎日とことん練習しているというよりも、効率よく練習しているという印象を受けました。スマートフォンで約束事を決め、毎日それにフィードバックをするという取材映像を見て、根性・体力だけではなくインテリジェントな雰囲気も受けましたが、どうでしたか？

人間として成長することが優勝に繋がっていたのは確かだと思います。私生活で、ほんの小さなことでも約束事を決めて身に付けることで、ラグビーに対する姿勢も大きく変わったのではないかと思います。

―洗濯はマネージャーがやるのですか、後輩がやるのですか？

マネージャーは洗濯しません。選手が全て自分たちでやっています。選手は全寮制で1部屋に各学年1名ずつ、計4人部屋で生活しています。

私が2年生の時までは、各部屋の1年生が部屋全員の洗濯を担当していました。私が3年生の時からチームの方針が変わり、全員自分のものは自分で洗濯するようになりました。現在でも公式戦で着用する紫紺のジャージだけは、1年生が全員で手分けしながら手洗いでやっています。

―故・北島元監督の名言でもある「前へ」、これは明大明治の学校案内にも「Ｍｏｖｅ Ｆｏｒｗａｒｄ」と書いてあります。４年間ラグビー部を支えてきた中で、今の時代は先輩とか監督は、どういう風に表現したり語り継いでいますか？

入寮式にOBの方が「『前へ』セッション」と称して「前へ」という言葉の由来や歴史について説明してくださっています。全ての戦術の根幹にはこの言葉があるのではないかなと思います。

―「前へ」で古岡さんが心掛けていたこと、染みついている事があれば教えてください。

物事がうまくいかないとき、きついときは「前へ」を意識していました。在部中にきつかった具体的なエピソードは、昨年の関東大学対抗戦で、慶應義塾大学と早稲田大学の試合で負けてしまったことです。大学選手権出場は決まったものの、対抗戦4位の枠でかなり厳しい対戦カードとなっていました。しかしチームの目標である大学選手権優勝は、ここからでも達成できる可能性があるというところでチーム全体で強い意識を持ち、最後までやりきりました。私もチームを支える一員という意識を強く持って、やれることは全部やろうと「前へ」を意識して業務に取り組みました。

―吹奏楽班を経験した中で、どんなことが役立っていましたか？

直接的なことだと、吹奏楽班でマネージャーをやっていたことです。定期演奏会のスケジュール作成を担当させていただいていて、そのタイムマネジメントの経験がラグビー部でも役立ちました。ラグビー部では試合のスケジュール作成を担当しませんでしたが、身に付いていたマネジメント能力は他の業務にも役立っていました。

―無事卒業されて社会人になられました。新社会人になっていく中で改めてチャレンジしたいこと、目標があれば教えて下さい。

まずは会社の仕事に慣れることが当面の目標です。今後の昇格に必要な資格試験の合格も目指したいです。また、仕事とは別で会社のラグビー部のマネージャーもさせていただいています。大学の経験を活かして、より良い練習環境作りにチャンレジしたいです。

―今年の聡明会のテーマは『つなぐ』～Ｍｅｉｊｉの薫りを令和へ～」となりました。先輩からつないできたこと、後輩につないでいって欲しいこと、古岡さんにとって明治の薫りは、何でしょうか？

「愛校心の強さ」です。なんだかんだ明治が大好きな人が多いのではないかなと、感じています。後輩達にも、明治を大好きになって、母校に誇りを持ってほしいと思います。

今回お話をいただけたこのインタビューもですが、歳の離れた大先輩とも関わりを持たせていただき、世代を超えた繋がりがあるのが明治の良いところかなと思いますし、これからも、その明治の良さを先輩後輩で繋いでいけたら素晴らしいと思います。

私個人で感じている明治の薫りは、良い意味での「泥臭さ」です。私が明治中学に入学してから、最初に全校生徒が集合した1学期の始業式は今でも忘れられません。その時はまだ中学3年生と高校Ⅲ年生が男子生徒のみだったのですが、とにかく勢いやノリがすごくて、衝撃を覚えました。

こういう雰囲気が嫌いな人もいるかと思いますが、私はむしろ好きで、共学が進んでそのような空気がなくなっていくことに寂しさを感じていました。中高から大学のラグビー部までの10年間、明治という「泥臭い」薫りの中で過ごすことができ、感謝しています。

同窓会旗・部旗・横断幕
作成しませんか？

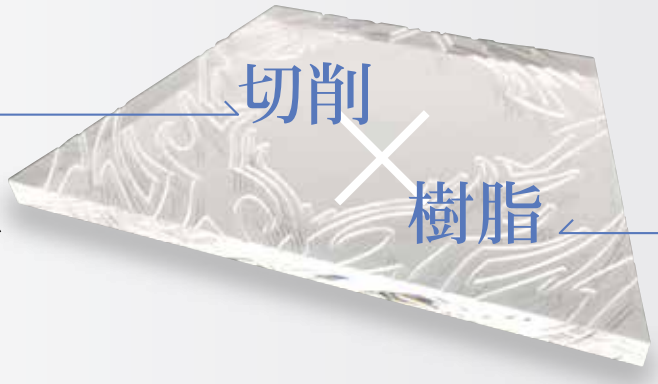
創業明治 41 年 信頼の 株式会社 トマック 大相撲懸賞幕製作実績多数あり

〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-7-1　電話：03-3862-7351　FAX：03-3863-2319
www.//tanakahatateN.co.jp（HP よりカタログダウンロード出来ます）mail:info@tanakahatateN.co.jp
★総明会会報誌を見たとお伝えください。特別サービスあり！★　（平成２年卒　小山和久扱い）

アクリル板を削る、曲げる

TAIYO SEIKO CO., INC

成形
切削は金型が不要なため
イニシャルコストが低い。
小ロットの試作から量産まで
同一品質での生産が可能。



ガラス
アクリル樹脂はガラスに
比較して透明度が高く、
ガラスの約半分と軽量。

事業内容　プラスチック切削加工、曲げ加工、成形品追加工
ディスプレイ保護パネル、前面パネル、レンズ、導光板、銘板加工

アクリル樹脂板の切削加工・曲げ加工
太陽精工株式会社
長野県茅野市宮川 10705-1　〒391-0013
TEL 0266-72-1263　FAX 0266-72-0533
E-mail：info@taiyo-seiko.co.jp
HP：http://www.taiyo-seiko.co.jp/

平成4年卒　快汗、どすこい塾　代表取締役　小畑　啓

CONTENTS

特集1「繋(つな)ぐ」

繋

2 激動の平成時代 **明高クロニクル**

6 明大ラグビー部を陰で支えた**明高OGにズームイン！**

16 **関根正人先生 27年目の特別授業**

20 明治高校 **平成四年卒×平成二十四年卒** OB・OG対談

特集2「継(つな)ぐ」

継

24 **ピックアップ・クラブ**

・書道部・映画部・新聞班・ダンス部

・記憶をつなぐ 伝説の「明治高校相撲部」

・鉄道研究部 鉄道がつなげた明高現役生徒とOB・顧問先生の心の旅

36 **江戸文化の伝統と薫りを継ぐ明高OB**

38 **Copiaインタビュー**

10 **第55回総明会総会・懇親会のご案内**

14 **総明会会長・校長挨拶**

46 2019年度 学校報告

58 OB・OG活動報告

90 令和元年度 総明会活動報告

97 前年度・次年度・本年度 幹事学年挨拶

99 第55回総明会 御寄付者一覧

100 総明会会則

104 編集後記

学校法人明治大学
理事長
柳谷 孝

明治大学長
土屋恵一郎

明治大学付属
明治高等学校・中学校 校長
安藏伸治
（明治大学 政治経済学部教授）

第55回『総明会』総会・懇親会のご案内

令和元年11月24日（日）

ハイアット リージェンシー 東京

『つなぐ』～Meijiの薫りを令和へ～

総明会 総会・懇親会企画

第五十五回 総会 式次第（案）

一、開会の辞
二、会長挨拶
三、議長選出
四、書記選出
五、議事
　第一号 議案 会務報告
　第二号 議案 会計報告
　第三号 議案 監査報告
　第四号 議案 会長及び副会長選任
　第五号 議案 その他
六、閉会の辞

令和最初の総明会は、今回のテーマである『つなぐ』にある通り、世代を超えて恩師・卒業生、先輩後輩、そして現役生がつながる会を目指しました。会報記事にも平成4年卒と平成24年卒の対談がありますが、これからの若手OB・OGも参加しやすい、趣向を凝らした懇親会となっております。

なお、今年の総会・懇親会は、明高卒の明大アナウンス研究会の3人が仕切ります！

そして、ラブコールにお応えして、昨年の懇親会を大いに盛り上げていただいたCopiaを招請。パフォーマンスも乞うご期待！

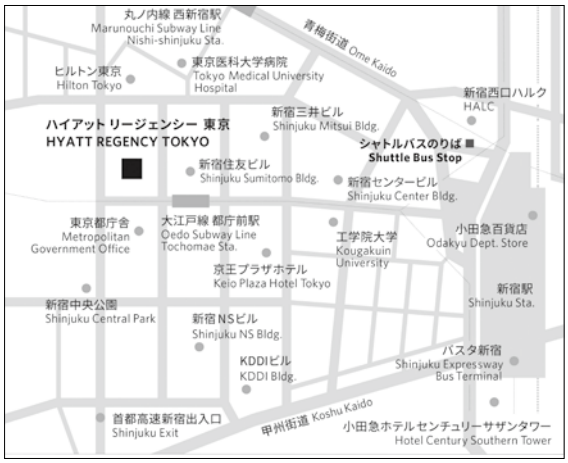
さぁ、卒業生の皆さん、総明会に「Meijiの薫り」を感じに行きましょう！

日時：令和元年11月24日(日)

総　会　16：00～
懇親会　17：00～(受付開始 16：00～)

場所：ハイアット リージェンシー 東京 B1F

〒160-0023 東京都新宿区西新宿2-7-2
TEL.03-3348-1234(代表)
http://www.tokyo.regency.hyatt.jp/
※都営大江戸線「都庁前」駅直結



幹事学年からの挨拶

秋麗の候、旧制明治中学校、明治大学付属明治中学校・高等学校卒業生の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。早いもので本年の総会懇親会をご案内させていただく季節となりました。

本年開催の第55回総会懇親会は、私たち平成4年卒業「快汗、どすこい塾」が幹事を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

『つなぐ』～Meijiの薫りを令和へ～

総明会は旧制明治中学校、明治大学付属明治中学校・高等学校に1日でも在籍した方全員の会です。よって、本校にゆかりのある方々は老若男女どなたでも懇親会にご参加いただけます。皆様にお気軽にご参加いただき、世代を超えて「薫り」を次の時代に繋いでいく場、そんな会を目指します。

会場は、昨年に引き続き新宿の「ハイアット リージェンシー 東京」です。懇親会では、若いOB/OGである後輩の皆さんに司会や企画をしていただく予定です。若者たちの活躍ぶりをご覧いただくとともに、同窓の皆さんと旧交を温め、世代を超えて校歌を歌いあげる。そんな楽しい時間をお過ごしいただきたいと思います。

年に一度の機会です。先輩・後輩・同期の仲間、そしてご家族の皆様のお越しを心からお待ち申し上げます。

会費のご案内

今年もあります！
便利な事前納付がお得です！

《ヤング会員は5,000円》
※平成20年から27年までご卒業の社会人

《学生会員は2,000円》
※大学生・大学院生

今年も会費事前納付制度を実施いたします。当日のお支払いにくらべ、**1,000円割引**させていただきます。ぜひ、ご利用ください。
事前納付のお振込み先につきましては、下記をご覧ください。

	当日払い	事前納付
一般会員(昭和53年から平成19年までのご卒業)	10,000円 >	**9,000円**
シニア会員(昭和52年以前のご卒業)	8,000円 >	**7,000円**
ヤング会員(平成20年から27年までご卒業の社会人)	6,000円 >	**5,000円**
学生会員(大学生・大学院生)	3,000円 >	**2,000円**
ご同伴者(上記会員が同伴する会員以外の方)	5,000円 >	**4,000円**

ホームページからも事前申込が可能です。
http://www.meiji-soumeikai.com/entry/

会費 事前納付振込先

11月5日(火)までに納付をお願いいたします。入金確認のため、氏名の前に卒業年を付記してください。ATMでも振込名義の変更は可能です。個人名義で同行口座間のインターネットバンキングを利用した場合は手数料無料です。
ATMご利用の場合、振込手数料や時間外手数料が発生するケースもございます。

例：　昭和年代卒業の方：62 メイジ タロウ
　　平成年代卒業の方：ヘイ 11メイジ ジロウ

ゆうちょ銀行 振替口座
記号番号：00250-2-106661
名義：第55回総明会総会懇親会
名義カナ：ダイゴジュウゴカイ
ソウメイカイソウカイコンシンカイ
※他行から振込の場合は、店名：029(ゼロニキュウ)店
当座0106661でお願いします。

三井住友銀行
支店：小手指支店(店番516)　普通預金
口座番号：7459921
口座名義：第55回　総明会総会懇親会　代表者　天野智充
名義カナ：ダイゴジュウゴカイ ソウメイカイ ソウカイコンシンカイ ダイヒョウシャ
アマノ　トモミツ

※なお、一旦納付された会費につきましては、お返しできません。予めご了承ください。当日欠席された場合も、同様にご返金できません。
貴重な浄財といたしまして、総明会活動に利用させていただきます。
※誠にお手数ながら、出欠につきましては、同封のはがきにて又は、総明会ホームページよりご連絡をお願いいたします。
なお、出席のお知らせをいただいていない方でも、直前に出席可能になった方など、ご連絡をいただかなくても出席可能ですのでお気軽にお運びください。

総明会ホームページ：http://www.meiji-soumeikai.com

総明会は、明治高校・中学校のOB・OGを応援します！

大好評だった『あの企画』今年もやります！

有名企業OB・OG紹介、カジュアルOB訪問！

先着50名限定!

就職への近道は『総明会』

～就活生のための有名企業OB・OG紹介～

ハイアットリージェンシー東京 B1F「白鳳」

令和元年11月24日（日） 14時30分～ 16時30分（受付14時00分開始）

こんなに親身で熱い『就活会』に参加希望の方は、今すぐアクセス！

http://www.meiji-soumeikai.com/shukatsu

アクセスしたらフォームに登録！

※詳細については後日メールにてご連絡を差し上げる関係上、登録するメールアドレスは
PCからもメールを受信できるメールアドレスをご登録ください。
キャンセルは可能です。meiji.someikai.soshiki@gmail.com（組織委員会）までご連絡ください。

合同OB・OG訪問会スタイルで、多業界、多業種のOB・OGの話が聞けます。
聞きにくい質問にもざっくばらんに答えてくれます。
人事／採用担当のOB・OGに、就活／面接について聞けます。
明治高校・中学OB・OGの方で、事前登録いただければ、誰でも参加可能です。
昨年は空前絶後の盛り上がりとなり、懇親会が終わるまでなんと4時間以上も！

❶ 就活会参加費 一律2,000円（総明会懇親会費含む）
❷ 会場の都合上、当日参加はできません。
❸ 事前に総明会HP上の就活会参加希望登録ページにて参加登録をした方のみ参加できます。
❹ 総明会・懇親会に出席すればさらに有名企業の先輩に質問できます！（懇親会17：00～19：30）

皆さんのご参加を心よりお待ち申し上げております！

総明会

会　長　吉田耕太郎　昭和四五年卒　獅子の会

副会長　山崎　秀樹　昭和五〇年卒　明紫会

副会長　井家上哲史　昭和五一年卒　明々会

専務理事　熊倉　章雄　昭和五四年卒　明誠会

常務理事　近藤　敏彦　昭和五〇年卒　明紫会

会　計　吉武　孝生　昭和五〇年卒　明紫会

事務局長　平野　一哉　昭和五九年卒　明心会

副事務局長　土田　正昭　昭和六一年卒　新世輝

昭和45年卒
総明会
会　長

吉田耕太郎

獅子の会

昭和50年卒
総明会
副会長

山崎　秀樹

明紫会

昭和51年卒
総明会
副会長

井家上哲史

明々会

昭和54年卒
総明会
専務理事

熊倉　章雄

明誠会

昭和50年卒
総明会
常務理事

近藤　敏彦

明紫会

昭和50年卒
総明会
会　計

吉武　孝生

明紫会

昭和59年卒
総明会
事務局長

平野　一哉

明心会

昭和61年卒
総明会
副事務局長

土田　正昭

新世輝

昭和54年卒
総明会
企画委員長

志村　和哉

明誠会

総明会　顧問

山崎　敬生

（昭和32年卒・明治会）

市原企業株式会社
代表取締役　市原市青柳2-1-23

総明会 顧問　総明会元会長

弁護士 **佐久間　洋一**

昭和43年卒 紫讃会

事務所
〒104-0061 東京都中央区銀座6-12-1　第2寿ビル7階
電話 03-5568-6646　ファックス 03-5568-6648
URL http://www.ginzamiyuki-law.com

学校法人
明治大学

総務担当
常勤理事

大田原 健司

昭和36年卒
総明会 名誉会長
明治大学顧問・名誉教授

向殿　政男

TEL.03-3701-1691
E-mail: masao@g03.itscom.net

登録商標　ゼイタク煎餅
東京名物　重盛の人形焼

明治高校ＰＴＡ顧問
明治白駿会

重盛元也

〒一一六－〇〇〇三
荒川区南千住二－三四－四
電　話（三八〇一）六八三〇
ＦＡＸ（三八〇七）三七三七

第55回総明会総会・懇親会

総明会顧問（昭和41年卒・41明友会）
学校法人明治大学 評議員

尾島　育四郎

〒150-0001　渋谷区神宮前5丁目41-6

明治大学付属明治高等学校・中学校
校 長
安藏 伸治

明治の血脈

第55回総明会総会ならびに懇親会の開催、おめでとうございます。幹事学年となられた平成４年卒業生の皆様、これまでの準備に加え、当日の運営、本当にありがとうございます。

さて、本年のテーマは**「『つなぐ』～Meijiの薫りを令和へ～」**とのことですので、明治中学と明治高校、そして総明会の皆さんに、これからも是非繋いでいただきたい想いを述べたいと思います。

旧制明治中学から新制明治中学・高校へ、そして男子校であった猿楽町時代から共学の調布での現在まで、107年の歴史を本校は刻んできました。その間、約２万人を超える優秀な人材を輩出しています。107年の歴史の中、社会から求められた本校の存在意義もそれぞれの時代で異なっておりました。総明会のみなさんが在籍された母校の想い出は、その時代、仲間達、先生方やご父母という特異な空間と人間関係によって築かれていったものです。各々の卒業生に固有の想い出が存在し、それが積み重なり、受け継がれて現在の総明会が成り立っています。

私は前校長の金子光男先生の後任として6年前に着任しました。明治大学の理事会や学部長会から明治中学・明治高校の教育力の強化を任された前校長は、5年の月日をかけカリキュラムや大学推薦基準等の教務改革を進め、教員の増員、創立100周年事業や教育基金の設立など、様々な改革案を企画・立案されました。

後任の私は、そうした改革案の実行を任されたのです。2015年に明治高校を卒業した生徒達が新制度での最初の学年でした。英語と数学の授業時間の増加、読み書きに加え、聞き話すといった英語力の強化、中学から高校、高校から大学への推薦基準の厳格化とその運用など、それ以前の学年とは異なる要件を求められました。最初は不可能と思われたことも、生徒個々人の努力に加え、教員の献身的なサポートにより、現在ではほとんど全ての生徒が目標を達成できるようになりました。もともと優秀な明治中学・明治高校の生徒達が、真剣に勉強をし始めたのですから、その効果は素晴らしい結果となって現れてきます。大学進学後の難関資格の取得、協定校留学、学部卒業生総代や成績優秀者などなど、各学部から是非、明治高校の生徒をと求められる状況です。

卒業生の方々が、「全く違う学校だ」と時々言われますが、ご安心下さい。みんなしっかりと紫紺色の血が流れています。それぞれの時代に育まれた「明治愛」が、明治中学・明治高校の生徒達、ご父母、先生方、そして卒業生達の共通の精神としていつの時代にも受け継がれているのです。

明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会
総明会会長
吉田 耕太郎

皆様ご承知の通り今年の5月1日より改元され平成から令和になりました。改元により新たな一歩を踏み出すという感があります。今回の学年幹事は平成4年卒「快汗、どすこい塾」、なんとも頼もしい学年ネーミングです。学年幹事による本年のテーマは、**「『つなぐ』～Meijiの薫りを令和へ～」**であります。

母校も先年100周年を迎え、金子前校長から安藏現校長へと移り、大変優秀な学校へと発展して参りました。総明会も心機一転して発展していきたいと念じております。昭和から平成へ、そして令和となり、その間、猿楽町校舎から調布キャンパスへ、男子校から共学校へと時代背景は流れました。当然、明治高校気質の変化もみられるでしょう。気質の変化は、時代の流れと環境の変化、社会的・政治的背景で変わるのはやむを得ないと思います（8050問題でもわかるように）。しかし、明治高校にはその根底に一本の筋があると思えてなりません。

それは授業での先生方から伝わるものもあるだろうし、学校全体の雰囲気というのもあるでしょう。しかし、それを強く伝えるものはクラブ活動や、紫紺祭・体育祭のような授業外行事ではなかろうかと考えます。男女共学といえどもしっかりと受け継がれているように推察されます。私たち卒業生も当然、明治中学・明治高校で学んだ時に、いわゆる学問ではなく体に叩き込まれたように感じます。

青春時代とは中学～高校・大学位を言うのでしょう。手っ取り早く青春時代の雰囲気に浸れるのは、校歌・応援歌を歌うことだと思います。時おり、つい口ずさむ。そういう時は青春の気持ちが湧き出てくる。現役時代には「気合を入れろ」などとよく言われたものです。ところで、気合の「気」とは何だろう？ 体を流れるというか、腹から盛り上がってくるワクワクとしたもの･･･言葉では言えないが、そこには何かが存在しています。青春の血潮と喜び、燃える何かを気と呼びたい。それを瞬時に呼び戻すのは校歌であり応援歌であると思います。卒業すると校歌応援歌を歌う機会がめっきり減りますが、その機会の一つが総明会でしょう。一人で口ずさむのもよいが、皆で肩組み合って歌うほうがより強く「気」を上げられます。共に歌おう！ 明治高校精神を！

《お詫び》 体調不良で昨年末より約半年にわたり総明会活動並びに行事を務めず、誠に申し訳なくお詫び申し上げます。その間、山崎・井家上両副会長に業務委任し、また、平野事務局長はじめ各理事諸スタッフが協力し合い業務を推進してくれました。併せて、評議員の皆様には絶大なるご協力を賜り紙面をお借りして深くお詫び申し上げますと共に厚く御礼申し上げます。皆様の叱咤激励により、おかげ様にて体調も順調（？）に回復しつつあり、皆様にはご心配戴き重ねて厚く御礼申し上げます。

プルデンシャル生命は世界最大級の金融サービス機関
プルデンシャル・ファイナンシャルの一員です

プルデンシャル生命は1987年10月に設立されました。
1875年米国で創業、140年以上の歴史を誇るプルデンシャル・ファイナンシャルグループの一員として「人間愛・家族愛」の基本理念を受け継ぎ、生命保険の専門家であるライフプランナー®がオーダーメイドの生命保険をお届けするということにこだわってまいりました。

※「ライフプランナー」はザ・プルデンシャル・インシュアランス・カンパニー・オブ・アメリカの登録商標です。

プルデンシャル生命保険
http://www.prudential.co.jp

本社所在地：東京都千代田区永田町2-13-10

Prudential

横浜東支社 支社長	深谷 剣	（昭和62年卒）
横浜北支社 ライフプランナー	光岡 孝之	（昭和63年卒）
首都圏第一支社 ライフプランナー	川口 貴之	（平成元年卒）
汐留支社 ライフプランナー	髙山 剛	（平成２年卒）
汐留支社 営業所長	冨樫 展広	（平成４年卒）
本社 営業企画チーム	八巻 隆洋	（平成10年卒）
汐留支社 ライフプランナー	平井 隆太	（平成19年卒）
港南第二支社 ライフプランナー	山岸 俊介	（平成19年卒）
品川第一支社 ライフプランナー	万善 雄人	（平成21年卒）
横浜西支社 ライフプランナー	髙草木 大地	（平成24年卒）

Lightec
SINCE1937

創造と挑戦
Creation and Challenging

ライテックは、令和の時代をリードする「灯り」、社会・環境を優しく導く「灯り」になれるよう全社員一丸となって商品開発、サービスの展開に努めてまいります。

株式会社 ライテック
代表取締役社長 廣田拓郎

関根正人先生 27年目の特別授業

時は1989年・平成元年の春、白雲なびく駿河台の明治中学・高校に、
突如現れた1人の数学教師がいた。
その名は、関根正人。彼は、ある野望を持っていた。

それは・・・「四天王計画」

四天王と言えば、仏教の世界観における須弥山の中腹にある四天王天の四方に住んで仏教を守護する4つの神、東方の持国天、南方の増長天、西方の広目天、北方の多聞天のことを指す。
明治中高と四天王は全く結びつかない・・・。
卒業から27年が経ち、謎のベールにつつまれていたこの計画を、彼が完全決着させるというウワサを聞きつけた平成４年卒業「快汗、どすこい塾」塾生の同期メンバー25人は、令和元年6月22日、その真実を聞くため、明治高校調布校舎に集結したのであった・・・。

突然の豪雨が襲う不安定な天候の令和元年6月22日土曜日午後2時30分、調布校舎の特別教室3に現れた関根正人は、27年前と変わらない出で立ちで、眼鏡の奥に冷徹な目を光らせていた。そして、日直の中村の挨拶の号令の後、上気した声で授業を始めた。

いきなり冷酷な言葉が放たれた。

「君たちの頭は数学どころか算数レベルだろう、今日は君たちにもわかりやすく授業をするからよく聞け！」と言い、語り始めた。

憮然とした顔で、スクリーンを見上げる塾生の顔がそこにはあった。

首都圏男子中高一貫校には「御三家」と呼ばれる名門難関校があった。1989年当時、中高一貫男子校で、伝統ある明治高校がこれら上位校の仲間に入っていないのはおかしいではないか、と考えた数学教師・関根正人は、明治高校をこれら三校に並べる計画を人知れず推進した。荒川区のK校、港区のA校、練馬区のM校に並び、**「御四家」ならぬ「四天王」**とする、というものだった。

当時の彼のテスト問題は超難解だった。1学期最初の中間テストと言えば、一般的には範囲も狭く『楽勝』というのが相場だったが、この謎の教師の仕掛けたテストの**平均点は脅威の40点。**

我々はいきなり衝撃を受けた。

中学三年間をゆる～く過ごしてきた明治中学からの持ち上がり組も、受験を突破し遊ぶぞ～モードに入っていた高校入学組も、**彼の筆圧に耐えられずボキボキと折れていくチョークと共に、四天王というミッションを共有することとなった。**

その後の高校三年間は、あっという間に過ぎ、残念ながら我々「どすこい学年」の現役時代には御三家に追いつくことができなかった。それからどうなったのか。

また授業に戻りたいと思う。今回の授業で分かったのは、1995年から入試問題作成を担当するようになった関根正人は、その情熱をかけ、超難解な問題を受験生達に突き付け、その実力を試していた。彼の秘めたる野望を知らない他校や受験業界からは、**「明治はどうかしたのか」**と囁かれていたらしいが、そんなのぜーんぶ無視。彼には、明治に来る子も来ない子も、**世の中には解けない問題があるのだと知って欲しい**との思いがあった。

頭脳レベルを上げるには健全な身体も必要という信念のもと、体育祭ではクラスが団結して活躍できるよう、準備委員とも交渉し、**クラスTシャツを作成**した。この効果もあり、クラス対抗リレーでは優勝した・・・かと思いきや、**バトンミスで失格だった**、という悔しい思い出や、卒業式での紅白饅頭事件というエピソードも語っていた。授業を開始してしばらくたってから、塾生と先生の顔に笑みがこぼれ始めた。僅か十数分で、27年という空白の時が埋まり始めていた。

27年前に戻りたいと思う。東京理科大学大学院を修了した彼は、研究職を目指したが一時中断し、我が校の教員になった。

「平成の元号とともに現れた謎の数学教師」は、高校に入学したばかりの我々「どすこい学年」に対して〝洗脳〟を始めたのである。

「君たちの実力はこんなもんじゃない」

そして、とてつもない計画を熱く語り始めた。それが**「四天王計画」**である。

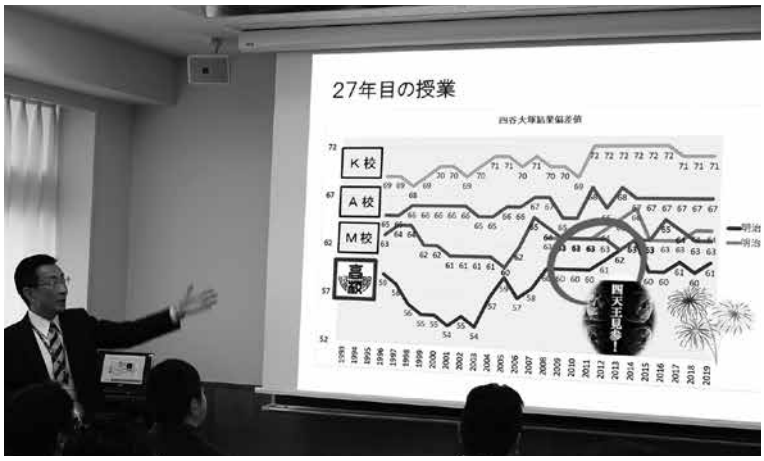
関根正人先生
27年目の特別授業

激動の27年を振り返る

明治四天王計画検証

ここから四天王計画の検証である。今回、関根正人は、数値・グラフを用いて、この計画の推移を検証した。偏差値グラフは、A校・M校は高校募集を行っていない為、中学入試偏差値での検証となっていた。大手学習塾の四谷大塚が公表している中学入試偏差値データによると、確認できる一番古い1996年の**偏差値は、K校69、A校65、M校63、そして明治は59。**

やはり3校とは開きがあったが明治は上位を狙える十分なレベルであった。ところがその後、御三家は安定的に高いレベルを保って推移する一方、明治は2001年に54まで低下、連動して**志願者数も1000人を下回る800人台となっていた。**四天王どころか、ひとり脱落していく明治。だが、共学化が決まり、その方針が2001年に発表されると、志願者数の増加とともに偏差値も徐々に上がり、2005年には59まで復活、K校の70、A校の66には、まだ及ばないものの、M校の60との差はわずか1と迫り、尻尾が見えた！



そして明治はいよいよ2008年に共学化を果たすと、偏差値は60の大台に達するが、簡単にはレベルアップとはならず、数年間横ばいが続く。だが、ついにその時がやって来た。2013年に、K校の72、A校の68に次ぐ、**M校と並ぶ62となり、**明治はここに「四天王」として並び立つこととなった。翌年2014年もK校72、A校67、M校・**明治63とレベルはキープした。**

右肩上がりのグラフは美しく、数字は嘘をつかない。

関根正人の提唱した**「四天王計画」は達成されたのであった。**その後は、またM校との差は広がっていくが、一度達成すれば良いのである。なお、共学化後の女子の偏差値で比較すると、**共学化の翌年2009年にはM校の63と並び、その後追い越しており、実は男子が達成する数年前に、既に「四天王」を達成していた。**

1995年から、**関根先生**が入試問題作成担当となり、**情熱**（難問）を受験生に突き付ける。

↓

2001年に、調布への移転と共学化プランが決定。
2002年から、2月の受験日を二日に分ける。

受験日を増やすことで他校との併願をしやすくし、優秀な生徒の受験機会を増やした結果、2001年に870名だった受験者数が、2002～2004年で、年間1,300から1,400名に増加。

↓

受験者数が増え、優秀な生徒が集まりだす。

↓

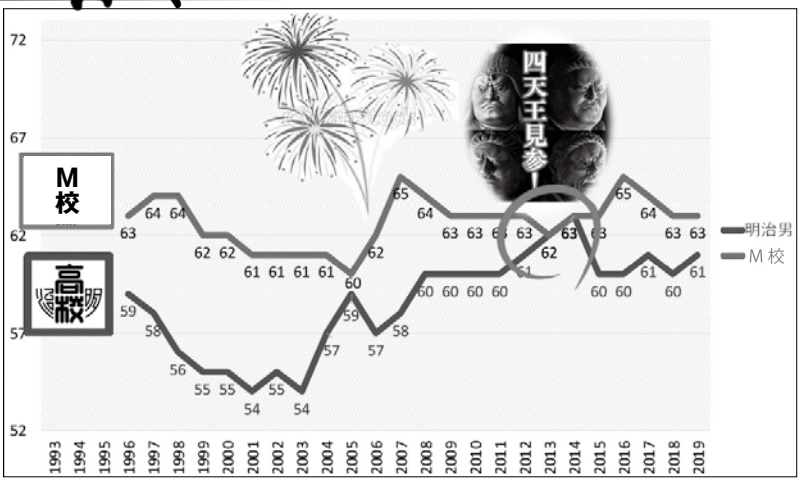
一時期、1,200～1,300名迄落ち込むが共学化後、2008年で1,800名、2009年で1,970名が受験。以後、2002～2004年の水準を保っている。

2008年から、調布へ移転し共学化開始。
更に、優秀な女子生徒も集まる。

↓

2011年
関根先生が
中高広報主任に着任。
四天王計画が極秘復活

2014年から他大学の受験と明治大学推薦入学と併願ができる制度を導入。東大合格者も、直近3年で毎年出る程、学力アップした明高となる。



出展：四谷大塚

都内の私立高校としては、中学校からしか募集しない一貫校を除き、**偏差値73で10番以内にランクイン**。都内の国公私立高校ランクでも進学校と肩を並べるレベルとなっており、卒業してから27年、改めて明治高校の変貌ぶりに驚きを隠せない、どすこい塾であった。

さていよいよ迎えた令和の時代。四天王計画を達成した彼が、次に目指すものは・・・。今回は「私立」校での比較だったが、国立を含むと目指すのは頂上に君臨する「T大付属K校」。偏差値は日本一の73（中学偏差値）。

偏差値順位 都内私立高校

偏差値	学校名	区分1	区分2	倍率
78	開成高校	私立	男子	2.8
77	慶應義塾女子高校	私立	女子	3.7
76	早稲田実業学校高等部	私立	共学	3.8
76	早稲田大学高等学院	私立	男子	2.6
75	豊島岡女子学園高校	私立	女子	2
73	国際基督教大学高校	私立	共学	2.8
73	巣鴨高校	私立	男子	1.5
73	**明治大学付属明治高校**	**私立**	**共学**	**3.0**

出展：高校偏差値 .net

明日からは「明T頂上決戦」が始まる。ここで発表してしまったので極秘でなくなったが、この計画は、あくまでも**「極秘」**に進められる為、その全貌は再びベールに包まれる。そして彼の頭脳には、計画達成までの方程式が創り上げられているのだろう。

今後も彼の動向から目を離せない。※Q・E・D。

今回、27年振りに再会させていただき、突然の企画オファーに快諾を頂きました関根正人先生に心から感謝いたします。

先生からの授業の最後のコメント**「27年前はこんなに静かに聞いてくれなかった」**に、当時の授業風景が目の前によみがえるような感覚を覚えました。なお、今回の企画の性質上、敬称を略してお名前を表記させて頂いたことを心からお詫び申し上げます。

関根先生の新しい計画の検証についての授業を、27年後ではなく、先生が明治高校にご在職中に、ぜひまた聴講出来ることを楽しみにしております。益々のご活躍をお祈り申し上げます。

※Q.E.D.= quod erat demonstrandum ラテン語で意味は、『よって証明された』。

明治高校 平成四年卒×平成二十四年卒 OB・OG対談

きのした　やすゆき
木下 泰之 平成4年卒

中高でマンドリン部、コンピュータ部に所属。文化祭実行委員、過程編集委員を務めた。明治大学政治経済学部卒業。3歳児の父。

平成24年卒業生と、平成4年卒業生である総明会幹事学年の対談が実現。男子校時代と共学校時代の両方を経験した元生徒会長の男子と明治高校を首席で卒業した才女の爽やかコンビと、今年46歳を迎える中年トリオが、調布校舎で相まみえました。実に歳の差20歳。
共学化して早11年が経ち、同窓生同士で結婚するカップルも誕生する時代になりました。明治高校での思い出、仕事にプライベート・・・どんな対談になったのでしょうか・・・。

うしじま　しんすけ
牛島 伸介 平成4年卒

在学中は吹奏楽班に所属。明治大学経営学部卒業。2児の父。

ふるたに　ちなつ
古谷 千夏 平成24年卒

共学化第２期生として明治高校入学。書道部に所属し、高Ⅱでは文化祭実行委員を務めた。高大連携簿記講座を受講し、高校在学中に簿記２級を取得。明治高校を首席で卒業後、明大商学部に進学。粟野先生(現副校長)の勧めにより公認会計士を目指し、大学在学中（４年次）に試験に合格、明治高校女子卒業生初の公認会計士となった。明治大学卒業後は大手監査法人に入社。

たかくさき　だいち
髙草木 大地 平成24年卒

中学・高校を通じて、猿楽町（男子校）と調布（共学校）の２つの時代を経験。中学時代はバスケットボール部に所属、高校では生徒会長や過程編集委員などを務め、学校活動に注力したのが思い出。農学部では近年注目を集める再生医療を専攻、豚の臓器で人間の臓器を作製する異種移植の研究に没頭。一時は研究者の道を考えるも、諸々の事情で財閥系商社に入社。その後、外資系金融機関に転職。

くらもち　ひでかず
倉持 秀一 平成4年卒

在学中はマンドリン部に所属。明治大学商学部卒業。2児の父。

倉持　高草木さん、古谷さんともご結婚したばかりで、お二人ともパートナーは明治高校の卒業生と聞きました。お付き合いはいつからですか？

髙草木　妻は共学化の第1期生で、自分の1つ年上です。在学時、妻がＥＳＳ（英語部）に入っていたので、はっきり言って妻に近づきたいというだけの目的で自分もＥＳＳに入部しました（笑）。高校時代に付き合うことはなかったのですが、高校卒業後に妻に猛アタックして付き合うことになりました。入籍したのは昨年3月です。

倉持　けっこう肉食系だねぇ。

木下　男子校だった僕らにとっては、母校の同窓生と結婚するなんて想像つかないね。

牛島　僕らの頃は文化祭のときにガツガツしてたね。

髙草木　中学時代は男子校でしたから分かります。連絡先を携帯の赤外線通信で交換しようと、紫紺祭のときは男坂に女子高生が列をなしていました（笑）。

木下　僕らのころは携帯そのものがなかったなぁ。

牛島　錦華公園で待っていて、というのはあったかも。

木下　小川町のシェーキーズとかね。

髙草木　シェーキーズはぎりぎりありましたね。

古谷　私は中学は地元の学校でした。私の夫は地元が同じ、塾も一緒で、明治高校入学前からの知り合いでした。明治高校卒業後は、商学部で同じゼミ、大原簿記学校も同じ。明大卒業後も偶然同じ会社。彼とは

大学3年の頃からのお付き合いです。

髙草木　そうだったの？同学年の女子が入学するからと見に行ったら、旦那が千夏ちゃんと既に仲良く話していたので、何だよと思っていたんだよね。聞いたら幼馴染だと。

木下　すごい縁ですね！古谷さんのご結婚はいつですか？

古谷　入籍は今年1月です。10月に結婚式を予定しています。

倉持　そうなると、もしかして髙草木くんが明治高校カップル初のゴールイン？

髙草木　いやいや、初のゴールインは自分の同期の竹信さん夫妻で、大学2年頃に学生結婚しました。もう2人の子供がいますよ。

倉持　みなさん、結婚が早いですね。

木下　うちは、まだ子供が3歳。この歳で子育てはきつい。若い頃とは体力が全然違うよ。子育ても早いほうが良いと思うよ。

牛島　結婚が早いのは明治高校卒業生同士であることも要因では？

髙草木　そうですね、同じ学校で同じ時間を過ごしたのは大きいと思います。

牛島　今後も卒業生同士で結婚する人達が増えるかもしれませんね。

木下　明治高校での思い出の中で印象に残っていることはありますか？

古谷千夏さんとパートナーの田中勇輝さん。ともに共学化２期生で、現在は同じ監査法人に勤務。勇輝さんは野球部ＯＢ。

髙草木　ありすぎて、うーん、何からお話していいのかなぁ。僕は男子校時代と共学時代の両方を知っている世代になりますが、やはり共学化したときは印象に残っていますね。共学化した途端に、急に先生方が優しくなったり・・・。

古谷　たしかに、明治中学からの進学生が「あの先生、以前はこうだったのに！」と言っているのはよく聞きましたね。

髙草木　M先生は常にプラスチック製バットを持っていました。宿題を忘れたりすると・・・痛さが尋常じゃなかった（笑）。

古谷　私も見ました。いい音してました（笑）。さすがに女子にはなかったですけれど、男子も合意のうえで（笑）。

髙草木　あとは数学のY先生のケツハリテ。男子校時代、提出物を忘れたりすると・・・。でも、共学化したらやらなくなっちゃった。やっぱり共学化で変化がありましたね。

古谷　私が明治高校に入学した頃で印象に残っているのは、女子と男子との壁。女子は高校入学生の約半数なので、クラス40名のうち女子は7～8名程度。

倉持　古谷さんは高校からですよね。明治中学からの内進生が全員男子で、高校からの入学生の半数が女子ということになるから、女子はものすごく少なかったんですね。

古谷　私は公立中学出身で、中学校では男子と話すのは当たり前だったのに、明治高校入学直後は男子が話をしてくれなくて、すごい壁を感じました。

髙草木　それまで男子校で汚い言葉を使っていたのに、急に天使が舞い降りてきて、しゃべれる訳がない。遠くから「あの子かわいい」とか言ってるだけ。

古谷　話しかけてもそっけなく「あ、うん」とか。でも、まずは女子の意見を聞こうという男子が多かった。レディファーストでしたね。先生方もそうでした。高Ⅰのときは特にそう感じました。

木下　男子と女子の一体感が生まれたのはどのタイミングですか？

古谷　やっぱりイベントですね。入学後に宿泊オリエンテーションがあって、そこで仲良くなりました。男女混合で班を作って協力するので、それがきっかけで恋が芽生えたり、色々あったと思います（笑）。とにかく最初の1か月はガッチガチでしたね、先生方も。

倉持　明治高校応援団がザ・ノンフィクションで取り上げられましたが、きっと、あんなことが学校中であったんでしょうね。

古谷　そうですね。でも明治高校を卒業する頃はみんな仲良くなったと思います。

木下　古谷さんは明大在学中に公認会計士試験に合格したのですよね。

古谷　はい。挑戦のきっかけは粟野先生からの勧めでした。高校在学時に高大連携簿記講座を受講して、簿記検定2級に合格しました。その簿記講座が終わったとき、粟野先生から「大学在学中に公認会計士資格を取得した卒業生もいるよ。君も挑戦してみたらどうかね」と勧められて、簿記が好きだったこともあって商学部に進学しました。大学では大原簿記学校にも通って、ダブルスクールをこなしました。実は、大学生活が楽しくて一時期は友達と遊んで勉強に手がつかないこともありましたが、同級生が簿記検定を受け始めるのを見て私も負けられないと思ったのと、明治高校を首席で卒業できたというプライドもありましたので頑張りました。

倉持　努力家なんですね。

木下　僕らの頃はあまり勉強していなかったなぁ。試験も一夜漬けが多かった。ヤマを張って、そのヤマが外れると大変なことになった。留年する羽目になったりね。

古谷　明治高校入学直後の中間テストで1ケタ台の学年順位がとれたのですが、明治中学からの進学生から「なんだ、あの女子は」と言われていたみたいです。

髙草木　女子のなかでも、古谷さんほど勉強する子はいなかったと思いますよ。

古谷　大学4年の11月に会計士試験に合格。1つ上の学年に女性合格者はいなかったですし、私の学年でも女性は私一人でしたので、私が明治高校卒業生初の女性公認会計士ということになります。大学卒業後、監査法人に就職しました。

分の生徒会長としての公約は3つありました。パンの値下げ、市バスの増便、協議会の週1回実施、この3つです。パンについては、猿楽町校舎時代は山崎パンで、1個100円で安くておいしかったのに、調布校舎では自動販売機での販売、しかも1個150円以上で高くて美味しくない。この自動販売機のパンを平均価格100円以下にまで下げようとしました。市バスについては、国語の北村先生と早朝から人数を数えたり調査をしたうえで京王バスと交渉。調布駅からのバスの増便を実現しました。

牛島　すごい行動力だね！

倉持　移転直後でいろいろと課題があったからこそ、やるぞということになったんだね。

古谷　女子も結構意見を言いました。女子更衣室を増やしてほしいとか。当時、体育で着替えるのに女子更衣室が足りずにトイレで着替えていたんです。

髙草木　女子の課題は多かったですね。

木下　先生方も初めての体験だっただろうしね。

古谷　先生も生徒もお互い探りながらでした。私達の時はまだ男子校色が強かったですが、現在は男女ほぼ1対1なのでだいぶ変わったのではないかと思います。

倉持　いまでは生徒会長も応援団長も女子だそうですよ。

牛島　髙草木さんは生徒会長としてどんなことが記憶に残っていますか？

髙草木　他校との交流が記憶に残っています。友人が他校で生徒会長を務めていたことがきっかけで、明治・開成・桜陰・武蔵・早実の生徒会長が集まって交流会を開催し、各校の課題を話し合ったりしました。この交流会は自分の代で終わってしまいましたけれど。

古谷　私も生徒会でしたが、明大中野・明大中野八王子との明治大学付属3校の交流会もありました。

髙草木　あとは選挙公約への取組み。自分の生徒会長としての公約は3つありました。パンの値下げ、市バスの増便、協議会の週1回実施、この3つです。パンについては、猿楽町校舎時代は山崎パンで、1個100円で安くておいしかったのに、調布校舎では自動販売機での販売、しかも1個150円以上で高くて美味しくない。この自動販売機のパンを平均価格100円以下にまで下げようとしました。市バスについては、国語の北村先生と早朝から人数を数えたり調査をしたうえで京王バスと交渉。調布駅からのバスの増便を実現しました。

牛島　すごい行動力だね！

倉持　移転直後でいろいろと課題があったからこそ、やるぞということになったんだね。

古谷　女子も結構意見を言いました。女子更衣室を増やしてほしいとか。当時、体育で着替えるのに女子更衣室が足りずにトイレで着替えていたんです。

髙草木　女子の課題は多かったですね。

木下　先生方も初めての体験だっただろうしね。

古谷　先生も生徒もお互い探りながらでした。私達の時はまだ男子校色が強かったですが、現在は男女ほぼ1対1なのでだいぶ変わったのではないかと思います。

倉持　いまでは生徒会長も応援団長も女子だそうですよ。

木下　幹事学年の会報担当として明治高校の現役生を色々取材させてもらっていますが、女子生徒の活躍が輝いている印象ですね。テーマのサブタイトルに「Ｍｅｉｊｉの薫り」を持って来たのも、取材を重ねるうちに新しい形の明治高校を感じたからというのが理由の一つです。

牛島　総明会でも早く共学化後の世代がメインになって欲しいですね。総明会の中心世代はまだ男子校世代。20年後は全く変わっているでしょうね。その頃、僕達はおじいちゃんだ（笑）。

木下　総明会では、卒業して27年目の45～46歳で幹事学年を務めるのがルールになっています。幹事学年になるまでの間、ほとんどの卒業生は学校や総明会との関わりが希薄になってしまっているのが実態だと思いますが、幹事学年が近くなると同期みんなに声が掛かり始める。僕自身も昨年同期から声を掛けてもらい、総明会の総会・懇親会に昨年初めて参加。そこで総明会の凄さを初めて感じました。僕らの世代だけかもしれませんが、こういう進め方ではなかなか難しいのではないかと感じています。そこで、今回の会報はできるだけ若い世代の記事を掲載しようと心掛けました。若い世代や女性の卒業生にも会報を読んで知ってもらい、なるべく早い段階で総明会の活動に加わってもらいたいという意図からです。社会人4年目になって、明治高校のＯＢ・ＯＧであることについて何か感じることはありますか？

古谷　同じ職場に明治高校出身者が何人かいますが、今は共学であることを驚かれることも多いです。近い年代でも、30代位の人で共学化を知らずに驚かれる方がいるので、ＯＧは希少なのかと感じます。

牛島　僕は30歳位では明治高校に興味なかったなぁ。子供が中学生位になると、自分の母校が懐かしくなりました。

髙草木　前職の会社に明大ＯＢがいて繋がりを感じましたが、明治高校ＯＢには出会っていません。生徒会の先輩とまだ仲良くしていて、いずれ幹事になるので繋がりを保った方がいいと言われています。

木下　総明会には色々な先輩方がいるので、そういった先輩方とのパイプがあると、人生で色々と面白いことが起きると思いますよ。

倉持　政治家、士業、行政、メーカー、流通、商社、金融、出版、マスコミ、インフラと、本当にいろんな業界のいろんな方がいて、先輩方はもちろん、自分の同期も様々な業界で活躍しているので、刺激を受けますね。お二人は同期の皆さんがどういった仕事をされているのか把握していますか？

古谷　新卒の時は何となく知っていましたが、そろそろ転職する人も出て来ているのではないかと思います。近況は把握できていません。

髙草木　同じ部活だったり、同じクラスだったり、グループごとには把握できているかも知れませんが、全体だと難しいですね。

木下　ところで、平成24年卒の屋号はもう決まっていますか？

髙草木　先輩方に早く決めるよう言われましたが、まだ決まっていません。

古谷　懐かしいなぁ、という名前をつけられたらいいと思います。

髙草木　卒業時に総明会の先輩に連絡先を作った方が良いとアドバイスされたのでグループＬＩＮＥを作りました。連絡を取り合って屋号もみんなからアイデアを聞いてみようと思います。どすこいの皆さんはいつごろ屋号が決まったんですか？

木下　私達の屋号が決まったのは数年前ですね。でも、なるべく早く作った方がいいと思いますよ。

木下　令和になって、心機一転、仕事やプライベートでチャレンジしたいことはありますか？

古谷　会計士の資格以外に、個性とか強みを持てたらいいなと思います。例えばＴＯＥＩＣですね。取引先も海外進出しているので、英語ができないと仕事にならないことも多いです。海外の財務諸表を取り扱って、海外本社とやり取りすることもあります。既に米国公認会計士を取得して活躍している人もいます。刺激的なのでいずれチャレンジしたいと考えていますが、いまは目の前のことをやるので精一杯な状況です。

牛島　いまお勤めの会社だとコンサル部門もあるし、いろいろな知識が必要になるでしょう？

古谷　弊社グループには、監査法人、税理士法人、コンサルティングと様々な部門があるので、色々な会社に出向して働くことも可能です。いまは会計監査でスキルアップをしていきたいと考えていますが、チャンスがあれば逃さずに掴みたいと思います。

牛島　いいですね、明治のＭｏｖｅＦｏｒｗａｒｄ、まさに「前へ」という感じが出ていますね。

髙草木　千夏ちゃんにそんないいこと言われたら、自分からは何も言えないですよ。

牛島　でも髙草木さんは海外勤務が豊富だから、英語は得意でしょう？

髙草木　いやいや、会話程度ですよ。自分は、仕事よりもどちらかというとプライベート重視です。転職前は妻と過ごせる時間が少なかった。プライベートの時間を増やしたいというのが転職の理由でもあります。プライベートの挑戦は、東京五輪に子供を連れていくことです。

一同　今だ！（笑）

髙草木　あとは、八王子辺りにバスケットのゴールがある庭付き住宅を建てて、大学時代に研究していた豚を飼いたいという妄想プランの実現ですね。それと、現在の勤務先は副業ＯＫなので、英語力とか外国人との仕事の経験を活かして、東京五輪を契機に新しいビジネスができないかと考えています。外国人向けアプリとか、来年に向けたチャレンジは考えています。

木下　お二人とも素晴らしい！私達はもう40代半ばになって、日常を漫然と生きがちだから、お二人のいい話を伺えて刺激になりました。もう一つ質問です。今年度の総明会のテーマである「『つなぐ』～Ｍｅｉｊｉの薫りを令和へ～」から感じること、先輩から受け取りたいバトン、後輩に渡したいバトンはありますか？

髙草木　自分には、男子校時代も共学校時代も両方経験できたからこそ言えることがあります。昔の男子校の男臭さ、それは絶対につないでいってほしいですね。男子校時代の先輩方は学ランをびしっと着こなしていて、応援団もビーバップハイスクールみたいに超格好良かったです。共学化後の良さももちろん沢山あって、今後、いい意味で女性が主役になっていくと思いますが、男子校時代の素晴らしさも忘れないで、改めて質実剛健・独立自治の精神を取り戻したい。今の風潮もいいですけれど、ちょっとだけ今回の様な記事で残して貰いたいです。それと、自分達の世代は共学化２期目のフレッシュな世代ですので、今後、総明会の会報も自分たちの世代の女子が先陣を切って編集して欲しい。

古谷　先輩から受け取りたいバトンという意味では、今日、対談させていただいたような企画が、今後もずっと継続してあると良いなと思います。大学生時代、経理研究所が旧明治高校猿楽町校舎にあり、会計士試験の際に初めてそこに行って、凄い場所にあったんだなと。

髙草木　いまにも崩れそうだね。体育館のせり出し方は異常（笑）。

古谷　話には聞いていたものの、本当に凄い坂のところにあって、ついにここに来てしまったのかと。同級生の男子や先輩方は、みんなここで勉強していたのだなと考えると感慨深いものがありました。私は男子校時代をよく知らないので、そういう時代があったということも、受け継いで後輩にも伝えていきたいです。それと、社会人になって明治高校出身者と会う機会が多くなったのですが、雰囲気であったり、価値観であったり、共通のものを感じることがあります。そういったものもつないでいければと思います。

木下　明治高校だからこそではないでしょうかね。

古谷　やはり、大学のつながりよりも高校や中学のつながりの方が強いと思いますので、引き続き後輩ともつながっていきたいです。

特集2 継ぐ

「ピックアップ・クラブ」

Pickup CLUB

明治高校107年の歴史の中で
班・クラブ活動は一体どれ位あったのでしょうか。
現在、活動中の団体もあれば、時代の変遷ともに
なくなってしまった団体もあり
もちろん新しく創部された団体もあります。
猿楽町校舎から調布校舎に移り、共学化したことで
クラブ活動の構図もだいぶ変わって来ております。
今回「ピックアップ・クラブ」と題して6つの団体を
取り上げさせていただきました。
部員が非常に増えている団体や
少数精鋭で活動している団体、
そして今年の総明会幹事学年にも深く関係している、
過去に存在したある団体を紹介します。
是非、皆さんの記憶につないでいって欲しいと思います。
あわせて、今回大正時代まで遡り、
過去に存在した班・クラブ活動をまとめてみました。
今では想像がつかないクラブや
真新しいクラブの存在を
明治高校の歴史の1ページとして皆さまに
ご認識頂ければと思います。

※写真は、書道部 現部長 高Ⅲ 横山真由さん。

継

明治高校 班・クラブ活動記録

表は、設立年の順番で記載してありますが、大正・昭和に設立された班・クラブ活動はおよそ60団体あります。平成に入り設立された班・クラブ活動は6団体で、令和となった現在も活動中の班・クラブ活動は37団体です。

戦後の1946年から4年間に14団体が創部され、明治中学・高校の班・クラブ活動の土台ができた期間でした。

以降、少しずつ新しい団体が創部され、活動も目立っております。また、今の有志団体が正式な班・クラブ活動となるためには、人数の拡大は勿論のこと、学校側の設備や活動環境への投資が必要となるケースも出て来ると思われます。

平成で設立された班・クラブ活動

《現在も活動中の班・部》

班・部名	設立年
陸上競技部	1994
サッカー部	1996
鉄道研究部	2004
男子硬式テニス部	2008
女子硬式テニス部	2010
ダンス部	2012

存続出来なくなってしまった班・クラブ活動もあります。戦時中の背景もあり創部され、グライダーを持っていた航空部、「愛好会」だったが強かったアイスホッケー、国体にも出る実力のあったフェンシング部などは、設備等の関係でも存続が厳しかったのかと思われます。合併した部活もあれば、平成で有志として再度立ち上がった団体も見受けられます。

2008年調布に校舎移転後、茶道・ゴルフ・軽小説・フェンシング・演劇部・料理研究会・漫画研究会の7団体の「有志」部が発足している。「有志」だとOBがいない、学校からの補助が少ないといった悩みがあると思いますが、90年代のサッカー部の様に、有志から立ち上がり、正規の班・クラブ活動への移行が早かった団体もあります。目標に向かって、ぜひ活動を継なげて行って欲しいと思います。

なお、明治高校のOBには、漫画家の高田裕三さん（『3×3 EYES』が30年を超えて現在も雑誌に連載中）がいる。高田さんの様な漫画家が、いつの日か有志漫画研究会から輩出されることを期待したい。

大正・昭和で設立された班・クラブ活動

《昭和の間に廃部になった班・部》

班・部名	設立年
蹴球部	1925
雑誌部（文芸部）	1926
競技部	1926
音楽部	1932
理科会	1935
弁論部	1936
航空部	1937
スケート部	1937
東洋文化研究部	1946
相撲部	1947
風紀班（教育宣伝班）	1949
衛生班	1949
映画研究会	1949
フェンシング部	1953

《平成の間に廃部になった班・部》

班・部名	設立年
国文研究部	1947
商業研究部	1950
軟式野球部	1948
写真部	1956
囲碁部	1966
ボーイスカウト	1967
少年消防班	1967
吟詠研究部	1977

《現在も活動中の班・部》

班・部名	設立年
高校山岳部	1921
剣道部	1923
美術部	1924
ソフトテニス部（庭球部）	1924
バスケットボール部	1926
ESS部	1931
中学野球部	1931
硬式野球部	1931
バレーボール部（排球部）	1933
水泳部	1937
卓球部	1937
生物部	1946
応援指導班	1947
地理研究部	1947
歴史研究部	1947
生徒会本部	1949
図書班	1949
放送班	1949
新聞班	1949
JRC	1951
柔道部	1952
スキー部	1953
マンドリン部	1955
書道部	1957
吹奏楽班	1959
物理部	1966
化学部	1966
地学部（天文部から改名）	1967
将棋部	1968
映画部（映画技術研究部）	1974
コンピュータ部	1976
バドミントン部	1979

Pickup CLUB

書道部（1957年創部）

甲子園を目指す書道ガールズ

横山 真由（部長・高Ⅲ）
渡邉 朱音（副部長・高Ⅲ）

《活動内容》
書展（春秋）、席書大会（夏冬）、書道パフォーマンス大会、紫紺祭での発表
活動日：月金の週２日（大会前は月水金の週３日）
部員数：20人（高校15人、中学５人）

書道の大会と聞いて、皆さんはどのようなものをイメージするだろうか。明治高校の書道部が参加する大会は3つある。部員各自が仕上げた作品を出す書展、参加者が一堂に集まって一斉に作品を書く席書大会、そして書道パフォーマンス大会である。「書展は春の高円宮杯と秋の競書大会の年2回。席書大会も夏と冬で年2回参加しています。席書大会は、お正月に武道館で開催される書初め大会が有名ですね。太鼓の合図で参加者が一斉に書き始めるのですが、会場にはお手本がなく、決められた時間の中で決められた枚数しか書くことができないのでとても緊張感があります。夏の席書大会は、明治高校ＯＢの福島一浩先生が理事長を務める全日本書道教育協会主催の大会です。書道パフォーマンス大会は、今年、私たちが一番力を入れた大会です」

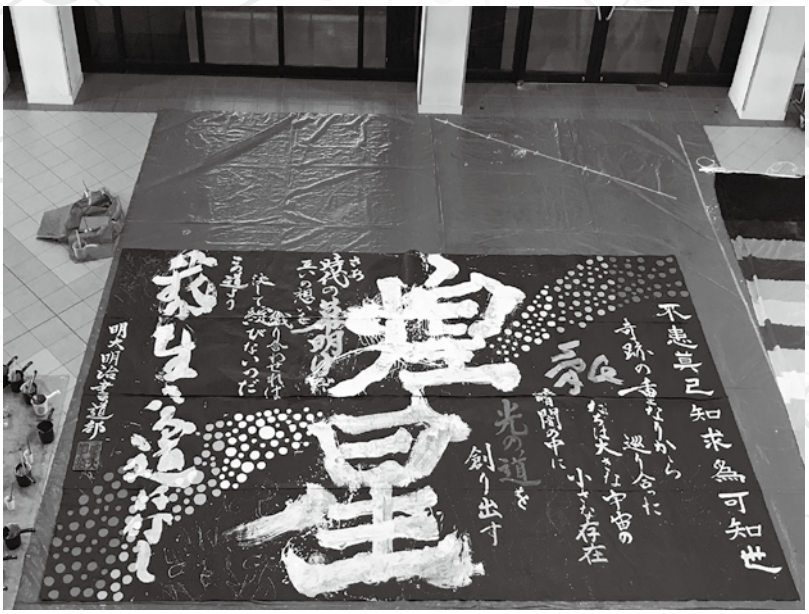
書道パフォーマンスというと、書道家の武田双雲氏のようなパフォーマンスを思い浮かべるが、あれを高校生がやるのだろうか。しかも、その大会とは一体どのようなものなのだろうか。横山さんが解説してくれた。「制限時間内に、４ｍ×６ｍの大きな作品を最大12名で仕上げるのですが、作品の出来栄えはもちろん、仕上げるまでのパフォーマンスも評価されます。制限時間は決まっていますが、そのほかは自由なのでどんなテーマで、作品にどんなメッセージを込めるのか、また、どんな曲に合わせてどんなパフォーマンスをするのか、部員みんなで決めていきます。全国大会にあたる書道パフォーマンス甲子園は毎年8月に愛媛県で開催されるのですが、そこに出る権利を得るためには予選の動画審査を通らなければなりません。全国大会に出られるのは各地区の予選を通過した約20校で、関東地区からの出場は4校程度に絞られます。昨年度、初めて参加した際には甲子園に出場することはできなかったのですが、今年こそはと昨年の7月から準備をして、先日、予選の動画審査に応募しました」

すかさず渡邉さんが言う。「甲子園の常連校はＯＢ、ＯＧやコーチからの指導を受けられるのですが、明治高校には書道パフォーマンスの指導者はいないので、強豪校の動画をＹｏｕＴｕｂｅで見て、自分達自身で研究してきました。袴姿でパフォーマンスをしますので、袴姿でもしっかりとジャンプできるように体幹トレーニングもしました。作品を仕上げるまでの制限時間は6分と決められていますので、一番難しいのは時間の使い方です。固定配置で作っていくと動きのない画面になってしまうので、秒刻みでメンバーの出入りを決めて、一枚の紙のなかで一人一人が違う動きをしながら違う字を書いて作品を仕上げていきます。各人の動きを決めていくのは本当に大変でした」

研究を重ね、新しいことを知るたびに思考が深まっていくため、次々に改訂版ができていく。それは曲の改訂版であったり、構成の改訂版であったり、動きの改訂版であったり…、まさに試行錯誤だ。紙面への出入りのタイミングを研究したり、ジャンプの研究をしたり、このジャンプはどこの筋肉を使ってジャンプしているんだろうといった、文化部とは思えないような研究もするのだという。今年の予選に出品した作品の総文字数は１０３文字、テーマは「宇

宙」である。「私」の字が「SPACE」のデザインになっているのも、彼女達のアイデアだ。

ここまで立派な作品を仕上げることができるようになった明治高校の書道部であるが、その道のりは決して順風満帆ではなかった。「書道パフォーマンス大会への取組みで部内の意見が対立したときはつらかったですね」と渡邉さんは語る。週5日活動、毎回の練習はランニングから始めるような強豪校がある一方で、明治高校の書道部が書道パフォーマンス大会にどう取り組むべきか。ゆるい活動だから入部したという部員や高校入学後に書道を始めたという部員もいるなかで、部員達には書道に対する想いに温度差があった。活動日数を増やそうという提案に対して部員同士の意見がぶつかった。書道パフォーマンスでは一人一人が動きを覚えて責任を持ってパフォーマンスしなければ良い作品にならないと考えたが故の2人にとって切実な想いだった。皆でしっかり話し合った結果として、それまでは週2日であった書道部の活動が、週3日になったのだそうだ。



2人とも、初めて書道に接したのは幼いころだという。横山さんは小学生のころから、渡邉さんは6歳から書道を続けている。2人にとって書道とは何か。また、書道を続けてきてよかったこと、苦労していることはどのようなことだろうか。横山さんは語る。「書道は身近な存在でしたし、字が上手くなるっていうのはとても価値のあることだと考えていました。書道とは自分との闘いだと思います。続けてきて良かったことは、自分の気持ちを作品に表現できるようになってきたこと。苦労していることは、納得できるまで作品に取り組まなければならないということ。自分の未熟な技術でどこまで理想に近づけるか、どこで妥協するか、常に葛藤しています」

これに対し渡邉さんは「書道は気分転換、書道をしているととても楽しい」と屈託のない笑顔で語ってくれた。

書道部の誇れるところは、皆が意見を言っても許されるような、上下関係のない風通しの良さだと2人は言う。そして、書道のよさとは、書道を通じてすべての感性・力が鍛えられることだと横山さんが語ってくれた。「体力・気力・努力…、さすがに味覚を磨くのは難しいですけれど(笑)、それ以外はすべてありますね」

そんな彼女達が甲子園の次にめざしているものは何だろうか。「書道パフォーマンス甲子園の後は紫紺祭ですね。高Ⅲは紫紺祭の発表をもって書道部を引退することになるので、皆が楽しく笑顔で終われたらよいなと思います。紫紺祭でも書道パフォーマンスをやります！一つは予選に応募した真剣勝負の作品をお見せしたいです。もう一つは、来てくださった方がよく知っている曲にあわせたパフォーマンスとか皆が気を抜いて楽しめるようなものもできたらよいなと考えています」

最後に、今年の幹事学年のテーマである「『つなぐ』～Mei:ji.iの薫りを令和へ～」からイメージすること、平成から令和になって後輩に繋いでいきたいものについて2人に聞いた。「Mei:ji.iの薫り」でイメージすることについて、2人は声をそろえて「スクラムです！」と言う。ラグビーのスクラムもあるが、それだけでなく、皆で肩を組んで校歌を歌ったり、スクラムを組んで皆でやるというイメージなのだそうだ。横山さんは「書道部の後輩たちには文化部だからと言って気を抜くのでなく、部活と向き合って、そして自分自身と向き合って、真剣に取り組んでほしいです。そして、書道部のよいところをさらに良くしていってほしいと思っています」と言う。そして渡辺さんは「書道部はアットホームな雰囲気で、下級生が上級生に堂々と意見を言ったりするような、部員同士の対等な関係が尊重されていると思います。そういうところはつないでいってほしいですね」と語ってくれた。

※2019年第12回書道パフォーマンス甲子園は全国35都道府県から106校が参加。関東ブロックからは22校出場し、残念ながら本戦に出場できる4校に残ることはできませんでした。

Pickup CLUB

映画部（1974年創部）

7分間に懸ける映像クリエイター集団

浅井 舞（部長・高Ⅰ）
波連 新（OB・明大2年）

《活動内容》
活動日：月火木金土の週5日
成果:調布市の高校生フィルムコンテストにて、2017年に審査員特別賞、2018年に優秀賞
部員数：18人（高校11人、中学7人）

紫紺祭での映画上映をめざし、映画部の活動は夏に本格化する。夏休み前に脚本作成と推敲、夏休み中に映像を撮影、8月には合宿も行う。紫紺祭はかつては11月開催であったが、現在は9月下旬開催のため、合宿が終わったらすぐに編集作業に入るという非常にハードなスケジュールである。紫紺祭後は11月上旬に調布市の高校生フィルムコンテストに応募、その後は4月の新入生歓迎会で上映する動画制作というのが映画部の一年間の流れである。

調布市の高校生フィルムコンテストは、高校生が自主制作した映画作品を、プロの映画関係者が審査して各賞を決めるコンテストである。かつては調布市内の高校が対象であったが、今では調布市内外を問わず参加可能になり神奈川県の高校からの応募もあるという。応募は10作品ほどあり、一次審査で半数程度に絞られた後、調布市文化会館で一次審査通過作品の上映会が開催され、各賞が決定される。

近年の映画部の成績はめざましく、2017年に審査員特別賞、昨年は優秀賞と、2年連続の入賞を果たしている。昨年の作品は、主人公の大学付属校の高校3年生が、周りが大学受験に向けて頑張っているなか、自分は何をするのかを考えるというストーリーだった。7分間の作品に半年の制作期間をかけるのだというが、映画制作にはどのような苦労があるのだろうか。OBの波連さんは語る。「編集作業が多く、時間がないときには部員が自分の家に泊まり込んで作業することがありました。昨年は制作が遅れて2日間、部員仲間が泊まりました。殆ど寝ずにほぼ徹夜で編集作業にあたりました」

2017年は映画部にとって9年ぶりの入賞だったが、実は同年、新しいパソコンを購入することができ、それによってより高度な編集が可能になったことが入賞につながったのだという。

映画部の良いところ、誇れることなどを浅井さんに聞いた。「映画部は、部員・部室の雰囲気や、顧問、先輩、後輩も優しくて、とても居心地が良い部です。映画を作るのが好きとか、創作するのが好きな人達の集まりなのではないかと思われがちですが、必ずしもそうではないです。普通の中高生活の延長で映画が作れるというのが良いところです。映画部の活動はちょっと特殊で、撮映や編集の技術を学べたり、自ら演技したりと他の部ではなかなか経験できないことが経験できるのは誇れるところだと思います。ちなみに、演劇部の活動と被る部分も多いので、演劇部の練習に参加させてもらったり、演劇部員にエキストラとして私たちの作品に出演してもらったりすることもあります。演劇部と兼部している部員もいます。」

今年の幹事学年のテーマである「『つなぐ』～Ｍｅｉｊｉの薫りを令和へ～」からイメージすること、平成から令和になって後輩に繋いでいきたいもの、サブタイトルにある「薫り」から感じる明治高校の薫りとは2人にとってどのようなものだろうか。浅井さんは「今回の取材のように、OBの先輩が来てくれるのはありがたいです。それに、後輩が先輩について行きたいと思うような関係をつないでいきたい。もし、自分がOGになっても映画部に呼ばれたら嬉しいと感じると思います。「薫り」については、同学年も先輩も後輩も、明るく元気に挨拶をする、そんな礼儀正しいところに「薫り」を感じます。顧問の並木先生は、しっかりと話を聞いてくれて、とても温かく、先生のそういうところが映画部の居心地の良さ、雰囲気につながっていると思います。その方針を継続して行って欲しいです」と言う。

タイトル未定作品

また、OBの波連さんは「OBから見ても、ちょっと懐かしくて帰ってこられる関係をつないでいきたい。明治高校生は、ここぞという時のパワーが凄い。普段は少し気を抜いているような感じですが、テスト前の2週間とか、紫紺祭前とか、いざやる時の熱量がすごく、そんなところが明治高校の「薫り」だと思う。並木先生は、部員を自由にさせているようで、実はしっかりと見守ってくれる。だからこそ自分たちも安心して取り組むことが出来たし、自由なアイデアを出すことも可能だった。その方針を今後もつないで欲しい」と語ってくれた。

取材では2人とも穏やかな印象であったが、2人が語る映画部の活動実態はメリハリのついたクリエイター集団そのものであった。これからもコンテストでの受賞をめざして頑張ってほしい。

Pickup CLUB

新聞班（1949年創部）

崖っぷちの明高新聞を救った女子

倉持　綾（班長・高Ⅱ）

《活動内容》
明治高校中学新聞の発行（年４回以上）、壁新聞の発行、生徒会選挙公報
活動日：水のみ週１回
部員数：11人（高校７人、中学４人）

紫紺祭、中学体育祭、高校球技大会といった学校行事ごとに『明治高校中学新聞』を発行するのが新聞班の主な活動である。「年度によって異なりますが、年４回以上は新聞を発行しています。そのほか、生徒会の広報部門として選挙公報も作成しています。活動日は週１回、水曜日で締切が迫っているときは編集会議、そうでないときはその後の発行計画を立てたりしています」

現在の班員数は11名と充実しているが、過去には班員がたった1名の時期もあったのだという。「中1当時の班員は中2男子と私の2名だけ。中2になったとき、その先輩が、兼部していた野球部の活動に専念するため退班し、班員は私1人に。中2で班長に就任して、そこから地道に班員獲得の活動を続けてきました」

新聞班の活動は兼部しやすい内容であるため、他の班やクラブの参加者にも声をかけながら、徐々に班員を拡大していったそうだ。彼女自身もスキー部と生徒会本部を兼部している。「学年によって行事が異なるため、各学年の班員がその学年の行事について記事を書くことになります。中学体育祭の記事を高校生が見て、「自分たちの頃と違うんだね」といった反応があったりします。生徒は他学年の行事にも興味を持っているので、各学年に班員がいるのが理想ですが、班員不在の学年（高Ⅰ，中3）があるのが悩みですね」

学校新聞というと、校内の出来事を生徒目線でまとめ、生徒や保護者に的確に情報を伝えるという重要なメディアであるが、どんな苦労があるのだろうか。「どうやって新聞に興味をもってもらうか、読んでもらうかを考えるのは苦労しますね。自分の想いが強い記事だと文字数が多くなってしまうので記事を推敲して文字数を減らしたり、興味をもってもらうために関係者のインタビュー記事を作成したり、手作り感を出すために活字・写真ではなく敢えて手書き・イラストで作成したり、常に読み手に楽しんでいただけるよう様々な工夫をしています」とのこと。このような努力をしながら新聞を発行しているので、配布時にクラスメイトから反応があったり、「今回の記事は良かった」という先生からの声があると、頑張って良かったと思うのだという。

こうした新聞部の活動を通じ、日々、自らのスキルを磨いている彼女だが、気になるのは彼女の将来の夢だ。「パソコンのワードやエクセル等のスキルは向上しました。物事を相手にわかりやすく伝えることを意識しますので、文章表現力やプレゼンテーション力もついたと思います。でも、現段階でジャーナリストや新聞記者をめざしているということはありません。将来の職業についてまだ具体的に考えていませんが、相手に物事を伝える力は様々な職業に求められる力だと思いますので、その能力をさらに磨いて、自分の力を活かせる仕事ができたらいいなと考えています」

中2のときに班員が自分一人になり、その崖っぷちの新聞班をここまで復興させた倉持さん。彼女に、今年の幹事学年のテーマである「『つなぐ』～Ｍｅｉｊｉの薫りを令和へ～」からイメージすること、平成から令和になって後輩につないでいきたいものについて聞いた。「新聞班を途切れさせることなくつないでいってほしいです。それだけでなく、後輩たちには明治高校中学新聞をもっと良い新聞にしていってほしい。新聞班の班室の清掃をしていたとき、20年以上前に発行された『明治高校中学新聞』が出てきました。その新聞の文字の小ささや、男子校時代の重厚な内容の記事を見て、やはり今の価値観とは違うんだな、と驚いた経験があります。時代の移り変わりによって読み手の価値観も少しずつ変わっていくと思いますので、常にその時代にあったより良い新聞をめざして活動していってほしいです」

Pickup CLUB

ダンス部（2012年創部）
紫紺のダンシングクイーン

山川 萌恵（部長・高Ⅲ）
田中 千晴（副部長・高Ⅲ）

《最近の活動》

日本ダンス部選手権DANCE STADIUM（最近では、高校は2017年、中学は2019年に全国大会出場）、紫紺祭での発表
活動日：月火金土の週４日、平日２時間、土曜日３時間練習。ストレッチ、筋トレ、体幹トレーニング、振り付け
部員数：約62人（高校34人、中学28人）

ダンス部は分類上、運動部でなく文化部に位置づけられているという。これは、文化部だと文化祭の際にステージを割り当てもらえる等の措置があるからだそうだが、活動内容は完全に運動部だと彼女たちは笑う。２人とも、ダンス部には中１から参加している。２人はこれまでどのような活動をしてきたのだろうか。「中学と高校は別々にコンテストに出場するのですが、中３のときに曲の編集・衣装の作成・振付アイデアの考案を全部２人でやりました。ダンスの先生もいませんし、後輩の指導も経験がないなかで同輩のことも考えなければならず、とても大変でした。でも、そのとき初めて全国大会に出場できて、ダンス部を続けてきて良かったなと思いました。その後、中学は全国大会の常連校になりました。高校も、昨年こそ全国大会出場を逃したものの、その前年、前々年は全国大会に出場しています」

高校ダンス部といえば、バブリーダンスで有名になった関西の登美丘高校を思い浮かべるが、２人は彼女たちをどう見ているのだろうか。「レベルが全然違います（苦笑）。プロのコーチが付いていて、練習の指導だけでなく、振り付けもコーチが考えてくれるのでとても羨ましいです。レベルアップの為にも、明治高校ダンス部にも是非プロのコーチが欲しいですね。それと、部員が増えてきて練習スペースがなかなか確保できないのも切実な課題で、練習できるスペースがもう少し欲しいです。いつもチアリーディングと取り合いになっています」

学外のコンテストへの参加に加え、学内では紫紺祭が一番のメインイベントになる。紫紺祭に向けては半年以上かけて準備をするそうで、例年、紫紺祭では充実感に満たされるという。「紫紺祭を終えたときは達成感とか、やりきった感が凄くありますし、紫紺祭は同時に先輩の引退のステージでもあるので、毎回、感動と涙のステージになります。でも、ダンス部は紫紺賞を受賞したことがなくて…。在籍する部員60人は過去最大の人数なので、舞台に乗り切れるかという不安はありますが「今年こそは絶対に紫紺賞を獲るぞ」と、ちょっと燃えています（笑）」

ダンス部に所属して良かったこと、ダンス部の誇れることを聞いたところ「部の雰囲気はとても良いです。言われたことはしっかりやりきろうという姿勢で、向上心のある人ばかりです。続けてきてよかったことは、かけがえのない仲間が出来たこと、これが一番大きいです。団体競技のため一体感を持って踊ることを意識していますので、仲間意識は凄く強くなります。入部時はほぼ全員が経験ゼロなのに、皆でここまで踊れるようになった、成長したと感じることが出来るのはとても嬉しいですし、本当にダンスが好きになりました。入部前は熱中するものや趣味を聞かれても答えられなかったけれど、今ではダンスとはっきり言えます。」

最後に、２人に今年の幹事学年のテーマである「『つなぐ』～Ｍｅｉｊｉの薫りを令和へ～」からイメージすること、平成から令和になって後輩に繋いでいきたいものについて聞いた。「皆で１つのものを作るという一体感を大切にしています。これは絶対につなげていきたいですし、皆でやっていくという意識を忘れないで欲しい。今後、私達の学年16人が一度にダンス部から抜けることになります。今のうちにダンス技術など私達が伝えられることは後輩に伝えてあげたい」先輩からダンスの基礎を丁寧に指導してもらえたこと、ここまで上達できたことに感謝し、次は自分達が後輩に指導する番として、ダンスの基礎を正しく指導できるようになるため外部のダンススクールに通うようになった。「部としても成長しているところですし、私達も先輩から丁寧に指導されてきたので、これからも更にレベルアップしていけるように、卒業後も後輩たちを指導してあげられたらと思います。後輩にも、上級生になったら下級生を育てていく意識を持って欲しいです」

２人が感じる「Ｍｅｉｊｉの薫り」とは、〝全力で一生懸命、そこから来る汗の匂い〟だという。「爽やかな感じではなくて、汗水垂らして一生懸命という（笑）。球技大会や体育祭、紫紺祭でも試験でも、何でもしっかりとやる。明高生は、なんだかんだ言って最後は一生懸命やり抜く人が多い気がします。みんな優しくて本当に良い人が多い。ちょっと古風で情があるというところが、〝薫り〟かも知れません」

明治高校ホームページより

綱 記憶をつなぐ伝説の「明高相撲部」

時は1990年11月3日、秋空のもと、白雲なびく駿河台にある明治大学付属明治高等学校・中学校の紫紺祭会場に、『どすこい'90』なる懸垂幕が掲げられたぁ！
そう、まさしくこれは、今年の幹事学年の屋号である『快汗、どすこい塾』のルーツである！
ご覧になった皆様方の中には、なんてふざけた幹事学年だと思った方もいるに違いない。
このインパクトのある憶え易い名前「どすこい」から、日本人であれば『相撲』が真っ先に思い浮かべられるだろう。平成のその当時、明治高校には「相撲部」は存在していなかったが、皆様はご存知だろうか、今から遡ること70年以上前、明治高校に相撲部が設立され、昭和の時代に伝説を残したことを。今回、この令和の時代に改めて、どすこい塾より皆様に相撲部の記憶をつないで参りたいと思う。

まず、「どすこい」とは？

「どすこい」。誰もが、相撲力士が稽古中や場所中に使う、掛け声と口を揃えていうであろう。しかし、実は相撲力士は「どすこい」を普段使っていないのである。この「どすこい」の由来は、「相撲甚句」という地方の民謡の中の掛け声の一節から来ており、日常で力を入れる時には使ってはいない。この相撲甚句は、「民謡の一種であり、相撲の世界では、土俵の余興歌やお酒の席の歌」として歌われている。戦後、地方の相撲甚句が衰退していく中で、入れ替わるように、力士による「どすこい」を合いの手とした相撲甚句が主流になっていったようである。詳細は割愛するが、時代の変遷と共に、テレビや漫画などで、力士と「どすこい」が結び付けられて描写されていく中で、相撲力士は「どすこい」を普段から使っているかの様に、一般化していったと思われる。今考えると、懸垂幕の写真にもある様に「どすこい」という響きが持つ、重さと力強さの感覚が、体格のいい力士を彷彿とさせ、昔の相撲絵がヒントになったのは間違いないが、その感覚が二人の力士が組み合う姿を私たちに描写させたのだと思われる。ここからは、この絵を紫紺祭の懸垂幕のテーマにした背景を、時代を遡って少しご案内したいと思う。

平成元年に私達が明治高校に入学する前の昭和末期においては、相撲界に圧倒的な強さを誇る「千代の富士」という大横綱がいた。1981年1月25日、千代の富士が当時の大横綱北の湖を破って初優勝した初場所千秋楽の瞬間最高視聴率は、65.3％を記録するなど、圧倒的な人気を博していた。場所が始まると、毎日夕方はNHKで大相撲中継、深夜は大相撲ダイジェストという番組が民放で流れていたので、大変身近なスポーツであった。さて、この千代の富士、平成元年の3月場所の時点で、既に27回目の優勝を飾っていた。この年は優勝3回、準優勝1回、平成2年で優勝2回、準優勝2回と優勝回数がどこまで伸びるかと騒がれる中で、圧倒的な強さを誇った千代の富士に、北勝海・小錦・旭富士・霧島といった「角界」を代表する個性的な力士が勝負を挑んでいた。平成3年で引退をする迄、大相撲は、千代の富士人気で、盛り上がっていたと記憶している。

昭和13年12月19日　駿河台校舎道場にて。右が北島忠治氏、明大相撲部師範・双葉山

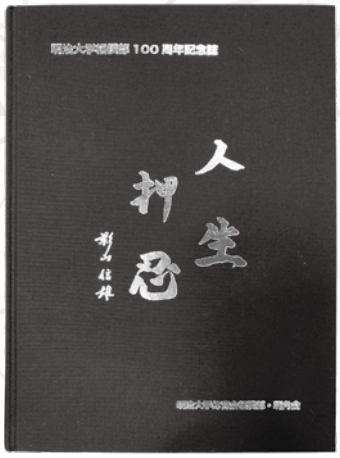
※「角界」とは、相撲社会全体を指し示しており、「相撲界」の俗称にあたる言葉です。昔は相撲を「角力」と書き、つまり、相撲界を「角界」と呼ぶようになったのはその名残です。

千代の富士は、1990年11月場所（まさに、どすこい'90の紫紺祭直後）で、31回目の優勝を飾るが、左腕の負傷により翌年1月場所を途中休場、3月場所も全休する。

そして運命の休場明けの5月場所初日に、最年少記録を軒並み塗り替えてきた、18歳の貴花田（後の二代目貴乃花）との初対戦にて寄り切りで敗れ、さらに3日目に新小結の貴闘力に敗れたところで引退を表明する。彼に引導を渡したのは、初日の貴花田だったと言われており、今でも、引退会見での千代の富士の「体力の限界！」と涙を流していた姿は忘れられない。この様な熱い闘いが繰り広げられていた大相撲に、普段から我々はいつしか心を奪われていたことが、この「どすこい」を紫紺祭のテーマに採用した原動力の1つであったのだと思う。

そんな平成の初頭に明治高校になかった相撲部を、昔の「過程」や「明高新聞」を読んだことのある方や、ある年代から上の皆さまを除き、殆どの方は知らないかと思われる。今回の記事を書くにあたり、存在していた情報も断片的であった。

猿楽町校舎には、残念ながら土俵はなかったものの、部員達は駿河台の明治大学にあった体育会相撲部の土俵にて、大学生に交じって稽古をしていた。過去の過程の相撲部の紹介記事に、「この部は校内に練習場がないので、練習をしている様子が分からない」と記載されていた。姿が見えないので、本当に練習しているのかと思った在校生が多くいたと想像されるが、体の大きい大学生を相手に稽古をしていたのは、強くなる為に、ある意味良かったのかも知れない。



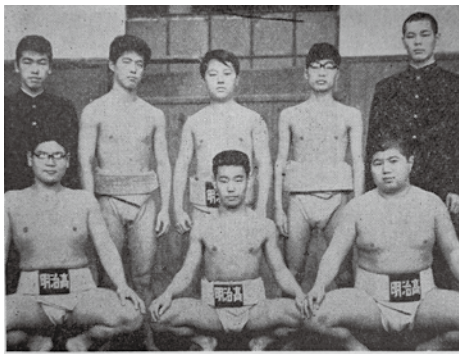
この明治大学体育会相撲部は、今年で創部114年を迎える大変伝統のある部である。角界へも有名な力士を輩出しており、なんと言っても、あの明治大学ラグビー部の名将、故・北島忠治監督（大正15政経卒）もOBであり、全国大会団体3位になられている。明治大学ラグビー部伝統の言葉「前へ」は、北島監督の言葉として有名だが、前へ前への精神はこの相撲部で培われたものと言っても過言ではないと明治大学相撲部ホームページでも謳われている。他にも、俳優の故・高倉健氏（本名：小田剛一（昭和29商卒））が在籍されていた。

そして、明治高校からも明治大学相撲部に進まれた先輩方もいらっしゃった。次頁の年表にあるが、中でも昭和32年に活躍された鈴木実氏は、昭和34年の第37回全国学生相撲選手権大会で27年ぶり4回目の明治大学団体優勝のメンバーで、明治高校時代も国体選手であったようである。

話は、明治高校相撲部の設立に戻る。実は、設立の正確な年が分かっていない。過程1号では既にその活動記録が残っており、「六十年の歩み」には、戦後の昭和22年に相撲部設立の記録があったが、実際は戦前に既に相撲部が存在していたという記述があった。しかしながら、戦争の混乱もあり記録が残っていないのが実情である。年表を見ると、昭和30年代での相撲部の活躍が目立つ。

昭和10年　予科時代の和泉校舎武道館落成記念。中央左に横綱・玉錦、その右に当時の総長・鵜澤總明先生

この頃は、「巨人・大鵬・卵焼き」という流行語にもある横綱の大鵬が活躍した時代でもある。なお、この言葉を知らない世代の方達の為に説明すると、「巨人・大鵬・卵焼き」とは、昭和時代（戦後期）の「子ども（を含めた大衆）に人気のあるもの」の代名詞として、これら三つを並べたものである。個人的には、千代の富士が活躍した時代にも、この様な流行語が生まれてもおかしくなかったと思うが、娯楽も食事も多様化していた中では難しかったであろう。


後列左から、柳原氏・吉田氏・久保井氏

年表に、海軍式移動土俵をOBが購入してくれたとあるが、この海軍式移動土俵、日本海軍が第二次世界大戦中に戦艦の上で、運動不足解消や士気を高める為に相撲を行う時に使ったようである。明治高校では、猿楽町校舎の4号館の裏にこの土俵が置かれていたようである。しかし、念願の土俵で校内活動が可能になったと思いきや、やはり場所が狭かった為、結局外部での練習が多かったと過程には記されている。その後、時代の移り変わりなのか、昭和46年の全国大会への出場を最後に、活動が活発ではなくなり、部員数も減り昭和56年以降に、相撲部は廃部となっている。

今回のリサーチにあたり、昭和39年明治高校卒の相撲部のOBにお話を伺うことができた。昭和44年卒 相撲部OB藁谷氏のご紹介で、年表の昭和35～38年に活躍されていた、吉田氏・久保井氏・柳原氏とお酒を酌み交わしながら、当時の雰囲気や明治大学相撲部との関係の深さを聞かせていただいた。

中でも吉田氏は、明治中学で都大会個人の部で優勝し、その後も国体に出場されている。明大相撲部にも進まれ、大学3年に時にマネージャーへ転向されご卒業後に、昭和46年の全国選抜高校相撲大会宇佐場所に監督として明治高校相撲部を率いて参加されている。

藁谷氏は、昭和39年中学2年の時、東京オリンピックにて、相撲のデモンストレーション競技を武道館にて開催した時、土俵に上がった6人のうちの1人だったとのこと。そしてもう1人が、吉田氏の弟

さん（当時明大中野）であった。なんと吉田氏は、三兄弟で相撲をされており、お兄さんも明治高校だったとのことである。藁谷氏は、今の明治高校では考えられないが、あくまでも学業優先という条件で、学校に通いながら大相撲本場所に参加し、試験休みと重ならなかった九州場所以外の全ての土俵に立たれた猛者でいらっしゃった。

吉田氏からお借りした、明大相撲部100周年記念誌には、昭和5年・10年と大学の道場の落成記念に来ていた当時の横綱含む力士や、鵜澤総明先生の写真も載っていた。その写真を見ただけで、明治高校相撲部が設立される迄の歴史の重みを実感することが出来た。残念ながら、昭和から平成に部活として明治高校相撲部は残ることが出来なかったが、今回の取材を通して、日本の国技とも言える「相撲」に、青春と情熱を注いだ先輩方が明治高校にいたことを、令和以降も後輩達に伝説として「綱」いで行って欲しいと、強く感じた次第である。この度は、この様な機会を頂戴出来たことを、心から感謝申し上げたい。

昭和34年 第37回全国学生相撲選手権大会 団体優勝時。右端が、鈴木実氏。

左から、吉田氏・柳原氏・久保井氏・藁谷氏

明治高校相撲部の歴史

過程	昭和	実績・過程の記載
	22	・関東大会団体優勝（伊原・上田・木村）全国大会に出場（大阪）
	23	・関東大会・全国大会出場
	24	・関東大会・全国大会出場
	25	・関東大会・全国大会・国体出場
	26	・関東大会・全国大会・国体出場
1	27	・関東大会・全国大会（青森・準決勝進出） ・国体出場（清水<関東の雄>・坂入・大崎）
2	28	・関東大会（準々決勝進出）・全国大会出場
3	29	・全国大会出場（優秀16校に残る）高Ⅱ主体山本勇次・筒井義彦
4	30	・関東大会出場（準々決勝進出・細川・優秀16選手に入る）
5	31	・全国大会出場
6	32	・全国金沢大会出場（鈴木実 優秀16選手・国体出場兼ねる） ・東日本大会出場（鈴木実 個人準優勝。原・堀口優秀16選手）
7	33	—
8	34	—
9	35	・全国金沢大会出場（工藤・宮尾・柳沢）都中学生大会 吉田鉄男 個人優勝
10	36	・全国金沢大会出場・関東大会出場（高Ⅲ工藤準優勝） 東京都第3位工藤2位
11	37	・全国金沢大会出場・秋季リーグ戦では第2位（優勝：早実） ・今年度、関東大会予選で高Ⅲの柳沢が8戦全勝 ・5月下旬、全国高校金沢大会に特別推薦される 先鋒吉田、中堅 久保井、大将 柳沢、交代柳原→宇治 山田高（京都）に敗退、柳沢は3戦全勝 ・部員 高Ⅲ 柳沢 上野中学時代に都大会優勝、 高Ⅱの時には優秀32選手に選ばれる高Ⅱ 5名、中でも 吉田は明治中学時代に都大会優勝・国体出場高Ⅰが2名、 中3が1名
12	38	・全国金沢大会出場（3回戦進出）・国体東京出場（吉田） ・海軍式移動土俵をOBが購入してくれたことで、校内での 部活動が可能に ・全国選抜金沢大会 先鋒：久保井、中堅吉田、 大将石橋 交代：田原 ・高Ⅲ吉田、国体で東京都代表になる ・大阪大会予選で団体4位・新人戦において個人戦で 田原が準決勝進出
13	39	・全国大会出場 ・海軍式移動土俵があったが場所がない為、大学または 明大中野高校での練習が殆んど ・春季リーグ戦 団体5位決定戦で帝京商に敗れる ・全国高校相撲金沢大会
14	40	・大学等外部で稽古している為、存在があまり目立たないと 思われていた。
15	41	・部員は約20名、高Ⅱがいない為、部長は高Ⅰ
16-18	42～44	記録なし
19	45	・今まで沈滞気味だった部活を、活動性のあるものへと 変えていきたい→部員は高Ⅱが中心で、下級生部員がいない ・練習場所：大学または本校バレーコート
20	46	・6月全国選抜高校相撲大会宇佐場所の東京都選手権への 出場が決定（都大会3位）、10月に大会 ・観客数は約4千人、3校リーグで2勝1敗、ベスト16迄あと1つ。 47校中18位。
21	47	・相撲部の歴史を書いていた
22	48	記録なし
23	49	・相撲は日本古来のスポーツ等の説明等で記録なし
24	50	・東京都高等学校春季相撲大会 兼 関東大会東京都予選 ・個人戦 第3位1名、第8位 1名、ベスト16に2名、団体戦 第8位 ・インターハイ予選 個人戦（無差別）ベスト16に3名、 団体戦 第8位
25	51	記録なし
26	52	記録なし
27	53	記録なし
28	54	・相撲の体質的効果についての記事あり・部員は6名
29	55	・部員紹介　高Ⅲ2名・高Ⅱ2名・中3が1名
30	56	・部員紹介　高Ⅲ6名・高Ⅰが1名（菊地 康之）

出典：「過程」、「60年の歩み」

Pickup CLUB

鉄道研究部（2004年創部）

鉄道が繋げた明高現役生徒とOB・顧問先生の心の旅

明治高校参加者 亀野さん 高校1年（部長）含む10名、鉄道部顧問 則先生

《部員数・活動日・活動内容》
12人・月火土の週3日活動・成果は、紫紺祭で展示部門2年連続1位

皆さまは明治中学・高校に鉄道研究部があるのをご存じだろうか。設立は調布へ移転前の2004年で、今年で15年の歴史を持つ部活動だ。今回、我々どすこい塾のテーマは「つなぐ」。そこで、鉄道をネタに、鉄道会社勤務の先輩と鉄研顧問の明治高校教諭・鉄道研究部の現役生徒を繋ごうと、先輩の会社の車両工場を見学するツアーを企画した。遡れば、総明会の前身である明治中学・高校同窓会の初代会長は鉄道省OB、汽車製造株式会社の社長を務められた笹村越郎氏で、総明会と鉄道は意外な接点がある。記事は、大宮総合車両センター見学編・鉄道博物館見学編・飲み会編の三部構成である。

【大宮総合車両センター見学編】

見学ツアーに行ったのは明治中学・高校が自宅学習日の7月11日（木）。当日、待ち合わせに選んだのは、JR大宮駅北口改札近くのショップRAILYARD付近。このショップ、鉄道ファンなら垂涎のグッズが並ぶ鉄道専門店だ。早めに着いた私は、暇つぶしに立ち寄ったのだが、懐かしい新幹線リレー号の定規に目を奪われてしまい、気が付いたら購入していた。

今回の企画を引率してくれたJR東日本勤務の宮田氏（昭和57卒 放送班OB）とも合流し、待ち合わせ場所に現れたのは、鉄道研究部顧問の則茂雄先生と男子10名。鉄道女子という単語を聞くようになった現在、共学化した明治高校鉄研にも、もしや女子部員がいるのではと想像していたが、杞憂に終わった。

まず向かったのは、大宮総合車両センター。昔は大宮工場と呼ばれていた。大宮の街は鉄道の発展と深く結びついている。東京以北の路線で最初に出来たのは現在の高崎線。生糸の輸出が外貨を稼ぐ重要な手段だった明治時代、富岡製糸場や蚕の産地だった桐生を持つ群馬県を目指す路線が、いち早く開通した。この頃、大宮にはまだ駅は無く、浦和の次は上尾であった。その後、東北方面と東京を結ぶ路線の建設計画が浮上し、高崎線との分岐点をどこに定めるかにあたって、熊谷案と大宮案があったが熱心な誘致合戦の末、経済性に優れる大宮案が採用された。その後、交通の要衝として、機関区、工場など鉄道関連施設が立ち並ぶ街としての発展を始めたのである。

大宮総合車両センターで私達を出迎えてくれたのは、大宮総合車両センターの総務課片岡助役で、叩き上げの鉄道マンといった風貌だ。片岡助役にセンターの概要を紹介して頂いた。前身の大宮工場はED40と呼ばれる日本で初の電気機関車を作った工場だそうだ。同系型の10号機は鉄道博物館に展示されている。片岡助役の案内で車両センター内を見学し、最後に資料室に立ち寄った。資料室の一角には、総合車両センター有志で構成される友の会が作成管理する鉄道模型のジオラマがあったが、そこに現役学生は注目した。私はてっきり、車両に興味がある者同士が集まって明治高校鉄道研究部が発足したと思い込んでいたが、鉄道模型のジオラマを作りたいとの想いが部設立の発端だと知ったのはこの時である。

一方、私が注目したのは、ヘッドマークや列車名を掲示するプレートのコーナー。若い世代は知らないと思われるが、かつてオリエント急行の車両を日本で走らせる企画があった。その際、車両に掲示されていたOrient Expressのプレートが保存されていたのだ。

見学終了後は、質疑応答の時間となった。部員から「ここには気動車は無いのか？」との質問がでたが、「郡山総合車両センターで診ている」との回答があった。「今まで改造した車両の中で一番大変だったのは？」との質問には「歴史長いからねえ（笑）」との回答があり、国鉄時代に新車をつくれず改造で対応した苦労話を伺った。蒸気機関車については、昔何百両も走っていた時代のOBが今のメンテナンスを見たいと言って、今の修理をしているチームと意見交換をしたことがあるが、交換部品の有無が違うので、メンテナンスへの感覚が昔とだいぶ異なっているとのことだった。

【鉄道博物館見学編】

次に向かったのは、総合車両センターから徒歩10分程の距離にある鉄道博物館。最初に宮田氏が引率してくれたのは、御料車（ごりょうしゃ）コーナー。御料車とは皇室用客車のことで、日本の皇族が鉄道で旅行をする際に使用する鉄道車両（客車）を指す。「御料車コーナーなど興味無いだろ」という我々の心を見透かしたような言葉の後に、展示中の御料車の面白さを語って頂いた。ちなみに、宮田氏は、明治高校卒業後、国鉄に入社され、武蔵野操車場勤務を皮切りに、東海道線の車掌・輸送指令・人事・鉄道博物館などを経て、大宮総合訓練センター所長をされている。

ツアーも終盤、東日本鉄道文化財団の学芸員である誉田課長に、開館1周年とまだ新しい南館を解説して頂いた。鉄道博物館に来る人の多くは、車両メインの展示を期待している。しかし、南館の歴史ステーションは、車両関連の展示はあえて僅かとし、大人向けの辞書的な使い方ができる博物館をコンセプトとしているとのことだった。歴史ステーションの入口には増上寺の梵鐘のレプリカが配置されている。鉄道の運行に時刻は不可欠のものだが、明治初期の鉄道導入が日本人の時間の概念にどのように変化をもたらしたかを表す象徴として展示されているという。本格的な博物館なので、見学はたちまち時間切れになってしまった。

最後は初代東北・上越新幹線200系の車内で、在学生とディスカッションを行った。まず誉田課長から部員に対し「鉄道の仕事就きたい人いますか？」の質問があったが、意外にも挙手した鉄研部員は僅か1名だった。部員からは「鉄道ファンは鉄道会社に採用されにくいとの噂もありますが、実際にどうなのですか？」との質問があったが、誉田課長から「そのようなことは無い。偉い人にも鉄道ファンはたくさんいる」との答えがあった。「鉄道会社に就職するにあたって、身に着けておくと良いことは？」と部員から質問が出たが、「特にこれといったものは無い。鉄道会社の仕事は多岐にわたる。あえていうなら、大きな声を出せることは大切。鉄道の運行は予定通りで済まないことが出てくるので、想定外の事態が生じた際に大きな声で乗客に必要なことを伝える場面は意外に多い」との回答があった。部員からの「博物館の運営で大変なことは？」との質問には、「関係者に鉄道好きが大勢いる為、色々と展示の細部の誤魔化しがきかない」との話が。「これからやりたいと思っている企画があるか？」との質問に対しては、「山ほどある！」とのことで、本当は鉄道よりもバス好きの誉田課長が、宮田氏と一緒に、貴重なバスの展示会を行った時の思い出話を伺った。博物館の予算は限られているため、なかなか実現できない企画も多いとのことだが、企画実現に向けた情熱が時として関係先の多くの人を動かし、思わぬ成果を生んだということだった。

【飲み会編】

鉄道博物館閉館の18時、在校生達とはここでお別れ。ここからは、お酒を交えた大人の時間が始まった。鉄道研究部が正式に部活動として認定される前から同好会として活動していた中田隆太郎氏（平成15卒）と、初代鉄道研究部員の最上達也氏（平成19卒）も仕事の後、駆け付けてくれた。この日、最大の驚きはここで起こった。宮田氏と中田氏は初対面ではなかったのだ。世間は狭いもので、宮田氏の勤務先である東京・大宮総合訓練センターで使用する訓練車の郡山から大宮への輸送がJR貨物に委託され、その作業の打ち合わせの際、二人はテーブル正面で向かい合っていたとのこと。

懇親会中は、則先生が明治高校に入った理由が、大学受験をしなくて良いので、春・夏休みにSLの撮影に沢山行けると思ったからという話や、意外にも中田氏と最上氏も放送班を兼部していたいうことで、放送班OBの宮田氏の後輩である事が発覚し、放送班の歴史話にもつながるなど、楽しい会話で盛り上がった。

今までのところ鉄道研究部OB同士の定期的な会合は無いとのことだったが、近い将来、OB会が立ち上がることを期待している。

江戸文化の伝統と薫りを継ぐ明高ＯＢ

昭和から平成に元号が変わったのち、日本から姿が消えかけた伝統的なものがありました。それは「国産線香花火」。その起源は遡ること江戸時代と言われておりますが、平成から令和に入っても、その伝統を絶やさず、継ぐ仕事をされる明治高校卒の大先輩がいらっしゃいます。

少し前まで、隅田川花火大会の世話役をされていたこともある老舗花火問屋の山縣商店（東京都台東区蔵前）の山縣常浩氏（昭和35年卒）であります。

今年の総明会幹事学年のテーマである「つなぐ」と相通じるところを感じ、今回、台東区蔵前にある会社を訪ね、お話をうかがって来ました。

左から牡丹、松葉、柳、散り菊

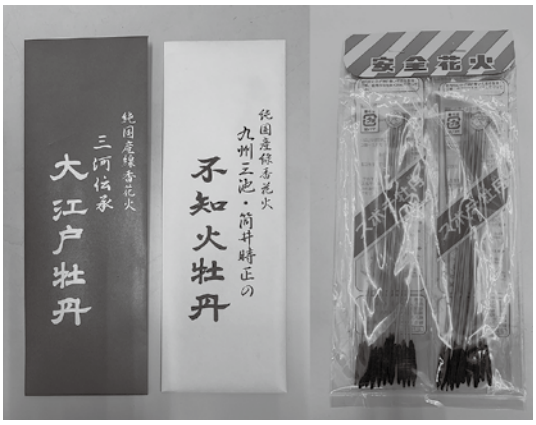
線香花火の歴史 ～初代鍵屋の線香花火から現在に至るまで～

そもそも日本で、線香花火が作られ始めたのは江戸時代とされ、ずっと職人が手作りで生産してきました。

花火といえば、打ち上がった時の「鍵屋」「玉屋」の掛け声を連想する方が多いと思いますが、線香花火の発祥には、この2つの花火屋が深く関わったと言われています。『鍵屋口伝書』によると、幼少時から花火作りが得意だったと伝えられている鍵屋の始祖である鍵屋弥兵衛が、万治2年（1659）頃、関西から江戸へ出て来て売り出した玩具花火が大当たりし、それが起源になったようです。それ迄、江戸の花火は手筒か火車（回転する様に棒の先端に花火を取り付けたもの）、またはねずみ花火だったのに対し、弥兵衛考案の花火は、隅田川などの畔に生えている葦の管の中に練り込んだ小さな星（火薬）を入れたものでした。これが大流行し、弥兵衛は花火師として日本橋の横山町に「鍵屋」を屋号として店を構えると、江戸花火界の第一人者になっていきます。当時のある俳諧選集に、葦より少し細い藁の先に、火薬を付けた花火を香炉に立て、女性が遊んでいる様が詠まれており、香炉や火鉢に立てた花火の格好が、仏壇に供えた線香に似ていることから「線香花火」の名前が付いたと言われています。

この線香花火は、別名「スボ手」とも呼ばれます。スボとは藁（藁スボ）を指し、この時代、最も華やかだった花の牡丹になぞらえ「スボ手牡丹」と名付けられました。もう1つは「長手」と呼ばれ、私達が通常目にする線香花火の原型で、これは和紙の中に少量の火薬を入れ、縒っていきます。長く手で縒るから「長手」の名前が付いたとのこと。下に垂らして燃やすのも「スボ手」と違うところです。スボ手は、細い葦や藁の入手が容易ではなかった江戸ではやがて廃れ、「長手」の方が人気を集めていきます。

一方、関西ではスボ手が上方文化に深く浸透し、今でも関西で線香花火といえばスボ手の方が馴染み深いようです。江戸時代、上方のお大尽が淀川などで舟遊びをする際、火鉢の灰の中にスボ手を逆さに立て、煙管で火を付けて楽しんだ様で「芸者線香」とも言われていたそうです。山縣氏によると、江戸で人気となった「長手」を考案し売り出したのは、実は玉屋ではなかろうかとのこと。『鍵屋口伝書』によると、鍵屋7代目の時（1820年前後）、一番番頭に清吉という働き者がいて、暖簾分けを許された後、清吉は名前を市兵衛と改め、始めた店が「玉屋」だったとのこと。鍵屋の庭に祀ってあった稲荷のキツネの一方が「鍵」を、もう一方が擬宝珠の「玉」を咥えていたことから、玉屋の屋号を貰ったのだと言われています。市兵衛が両国の吉川町で開業すると、たちまち江戸は、鍵屋、玉屋の二大花火師の時代を迎え、両国の川開きとなると、両国橋を挟んで上流を玉屋が、下流を鍵屋が受け持つようになり、玉屋は鍵屋を凌ぐ人気を集めていきます。花火技術の方も、玉屋が優れていたのかも知れないとのこと。「長手」は、硝石（硝酸カリウム）、硫黄・木炭を混合した黒色火薬に松煙を配合し、少量を和紙の「こより」で包んだ花火となりますが、玉屋のあった吉川町の商店街に、硯や墨等を売る店があり、そこで材料となる赤松の煤・松煙も扱っていたようです。この時代、夏になると箱の上に花火を乗せ、金魚売り



左から山縣商店が復活させた純国産線香花火「大江戸牡丹」と「不知火牡丹」。右がスボ手牡丹。

の様に市中を売り歩いた行商人がいたことが江戸風俗を記した錦絵に残されていました。１８２０年頃に書かれた文献中に「線香花火は紙観世」という花火売りの口上の記述もあり、この頃に紙観世（紙のこより）で出来た線香花火が生まれたことが分かるとのこと。玉屋の技術とアイデア、身近に材料を扱う店があったこと、長手が生まれた時代に、鍵屋より玉屋が繁盛していたことなどの一連の背景から、長手を作ったのは玉屋であろうとのことでした。

それから時代を経て、昭和50年頃まで線香花火は、三河（岡崎）、北九州（福岡）、信州（上田）の三大産地を中心に生産されていました。いずれも、これらの産地は、歴史的な名将と関わりのある鉄砲や火薬が発達していった土地柄となります。この頃から、中国からの輸入で安い「長手」が入って来るようになり、次第に安い中国製に押され始め、国産品は姿を消していきます。

この危機に「伝統を消してはならない」と山縣氏を中心とした関係の方々が、産地に再び生産を呼びかけ、これに応じた数社が生産を始めたのでした。当時、中国から入ってくる線香花火は年間約２億本。品質はともかく、縒り手の人件費の差から生じる価格差に、国産業者は太刀打ちできず、昭和60年、信州で線香花火を生産していた煙火店が廃業に追い込まれます。信州での線香花火の生産は内職スタイルで、農閑期に入った秋口に、親方と呼ばれる人が、「こより」と火薬を持って農家を回って生産を依頼し、春先に出来上がった線香花火を集め箱詰めし、東京や岡崎の問屋へ送っていたとのことです。

信州に続き、岡崎の全煙火店の廃業、平成８年、昭和の名人と言われた線香花火の縒り手のいたお店も閉店し、名品と言われていた「三河手牡丹」という線香花火の製造も打ち切られました。そして平成10年、九州で最後まで撚っていた八女の業者が廃業し、花火業界の流通から日本製の線香花火は完全に姿を消しました。その時、山縣氏は、「江戸文化の象徴ともいうべき国産の線香花火がなくなるということは、決してあってはならないこと、皆の力で何とかしなければ」と、「国産線香花火復活」の思いを関係者と語り合ったとのことです。その最中、かつての産地、岡崎のある花火製造業の社長さんの奥様の実家が、信州で最も線香花火の生産量が多かった煙火店で、嫁入り道具の１つとして、その煙火店が以前に作っていた線香花火の製造法と、火薬を包む和紙を持参していたことを山縣氏が耳にしました。山縣氏は、その社長に会われて「純国産の線香花火を作りたい」と話をしたところ、道楽として１人１００万円ずつ出して作ろうではないかと。賛同してくれることになったとのことです。

線香花火の良し悪しは、火薬，和紙，撚り手で決まる

火薬を包む和紙は繊維が長く、揉んでも破れない薄くて丈夫な和紙、しかも楮（こうぞ）で作ったものが最高とのこと。これを適度な硬さに撚り上げて、初めて大きく長持ちする火玉を生み出すことが出来るそうです。

今回の再現で一番の問題は、火薬だったそうです。線香花火は、黒色火薬に墨の原料である松煙を混ぜて作り、その松煙の質と混合比が火花の美しさを左右するとのことで、日本最高の松煙墨用を使っても中々結果が出ず、膨大な原料と２年の歳月を費やし、やっと理想的な火薬が完成したそうです。仕上げの火薬を和紙に撚り込む作業は、岡崎で最後まで線香花火を撚っていたという84歳の名人の女性を見つけて指導を受け、この岡崎の花火製造業の工房で、全て一貫して作る体制を整えたそうです。

そして、平成12年10月、ついに昭和時代のものに負けない純国産線香花火が完成し、地下鉄大江戸線の開通した12月12日に、その線香花火を「大江戸牡丹」と命名し、売り出しました。山縣氏によると、線香花火をこよなく愛した一人の物理学者でもある随筆家が、その魅力について備忘録に「線香花火の一本の燃え方には『序破急』があり『起承転結』があり、詩があり音楽がある」と記しているそうです。また線香花火の誕生や歴史秘話は世界にも紹介され、「線香花火はＬｉｆｅだ」と表現する外国人もいるようです。その様に言われる理由に、燃えている段階での線香花火の姿の特徴があるかと思われます。線香花火の着火から玉が落ちる迄の間が、四つに分かれて名前が付いているようです。火を付けて、先にできる赤い玉は「牡丹」。これは火薬の燃えカスが縮み上がって赤い玉となるもの。そして玉が激しく火花を発するものを「松葉」、火花を長く引くものを「柳」、消える直前のチカチカを「散り菊」と呼びます。今回、どすこい塾は、この夏の想い出に、大江戸牡丹を実際に使用して、この４つの瞬間を撮影しました。

線香花火１本にこめられた火薬はたった0.1グラム弱。小さく、か細い花火ながら、この僅かな時間の間、線香花火のまるで人間の一生の様に移り行く姿と、火薬の『薫り』は、令和元年の猛暑の夏の想い出として、ずっと私たちの心に刻まれることでしょう。平成に復活を果たした国産線香花火。江戸文化の象徴として、山縣商店から後世へいつまでも継げていって欲しいと思います。

花火の看板が一際目立つ、蔵前1丁目交差点にある山縣商店。
レトロなブリキ玩具も扱っています。

今も現役で接客対応される山縣氏。
「珊瑚の会」に席をおかれています。

Copia インタビュー

明治大学公認サークルに、総勢20名を超すアイドルダンスの完コピ集団が存在します。その名も「Ｃｏｐｉａ」。昨年の総明会懇親会のステージにも出演し、大いに会場を盛り上げてくれました。Ｃｏｐｉａの４人の明治高校ＯＧに、どすこい塾がインタビューをしました。入ったきっかけや普段の活動と、明治高校時代のエピソード等をお届けします！

Copiaメンバー

上村優樹菜　総合数理学部3年（Copia代表）
田村　史奈　商学部3年（元応援指導班）
滝田　茉由　商学部2年（元ESS）
黒木　涼花　情報コミュニケーション学部1年（元吹奏楽班）

♥Ｃｏｐｉａについて教えてください。

上村　Ｃｏｐｉａは明治大学公認のアイドルコピーダンスサークルです。明治大学の学園祭やホームカミングデーでの活動をはじめ、他大学の学園祭や学生団体主催のイベント等にも出演させていただいています。アイドルコピーダンスサークルの大会（ＵＮＩＤＯＬ）では、過去3度の優勝を誇ります。テレビ局の取材を受けてテレビ出演したこともあります。

滝田　他大学にもアイドルコピーダンスサークルはたくさんあり、中にはアイドル活動の要素が強くて地下アイドルのような活動になっているサークルもあります。ですがＣｏｐｉａは地下アイドルのような活動ではなく、純粋にアイドルが好き、ダンスが好きなメンバーが集まって活動しています。私はＣｏｐｉａのそういったところが好きですね。

♥今日の衣装について教えてください。

上村　今日の衣装は先輩たちから譲っていただいた衣装です。先輩たちのステージにあこがれて入ったので、先輩たちが卒業するときに衣装を譲っていただけるのは嬉しいですね。既製品だと見た目や品質が良いものが少なく、あっても高価でなかなか買えないという問題があります。そのなかで少しでも品質がよさそうなものを厳選して購入して手直しすることが多いです。そんなこともあって、自然と、先輩から譲っていただいたものを引き継いで使っていくということも多くなります。

田村　手直しして使っている衣装が多いので、間近で見ると修理の跡がくっきり残っていたりします。ステージで背中がパックリめくれちゃったなんてハプニングもあったりしますね。

♥なぜＣｏｐｉａに入ったのですか？

黒木　高校の頃からアイドルが好きで、例えば乃木坂46のダンスを、一人、家で真似していたりしました。高校時代からＣｏｐｉａの存在を知っていたので、大学に入学したら絶対にＣｏｐｉａに入るぞと考えていました。

滝田　明治高校でダンス部に入るタイミングを逃してしまって…。私も黒木さんと同じようにアイドルが好きで高校時代からＣｏｐｉａに入りたかったのですが、そのためにはオーディションに合格しなければならないので、ダンスの基礎を学ぶため高校時代の3年間、ダンススクールに通っていました。

田村　応援指導班でチアリーディングをしていました。身体を動かすことが好きだったので、大学ではダンスをやってみようかと考えていましたが、ヒップホップとかは違うかなと…。そんなとき上村さんから一緒にオーディションを受けてみないかと誘われて。

上村　私も高校時代からＣｏｐｉａに入りたいと考えていました。中学生の頃にＡＫＢ48の曲に合わせてダンスした経験があって、すごく楽しかったんです。それまではアイドルのことをよく知らなかったのですが、それがきっかけでアイドルに興味を

もって、いろいろなアイドルの曲やダンスを聴いたり見たりするようになりました。ヒップホップやジャズダンスとアイドルダンスとの決定的な違いは歌詞があるところだと思います。アイドルが歌詞に想いを込めて歌う姿はいいなと思うし、歌詞を聴いて元気づけられる人も多いと思うんです。

♥昨年の総明会のステージはいかがでしたか？

滝田　顔を覚えていてくださった先生に声をかけられました。ダンス部ではなかったので「君がダンスをするとは思わなかった。こういうダンスがしたかったのか！」と驚かれていました。元気な姿を先生たちに伝えられてよかったなと思います。

田村　総明会の皆さんが温かく迎えてくださって、歓声とか掛け声も多くいただいて、とても気持ちの良いステージになりました。終わった後もたくさんの先生方から話しかけていただいて…見守られている感が本当にありがたかったです。

上村　私もたくさんの先生方から良かったと言われて、とても嬉しかったです。昨年のステージを見ていただいて、特に全員が明治高校ＯＧというわけではないのに再オファーをいただけるというのは本当に光栄なことだと思います。今年も期待を裏切らないパフォーマンスをしたいですね。

♥ステージ構成や選曲はどうされているのでしょうか？

上村　自分たちがやりたい曲というのはもちろんですが、お客さまの層を意識して、その方々の好みに合わせた選曲を心掛けています。

田村　毎年続けて出演するようなイベントの場合は、昨年と同じになってはいけないと気を使っています。

♥令和の時代を迎えました。新しい時代でどんなことに挑戦していきたいですか？

上村　７月１日に単独公演が控えており、いまそれに向けて猛練習をしているところです。

田村　新宿や四ツ谷のスタジオを使って、ほぼ毎日練習しています。夜間練習も週に１・２回あります。マネージャーがいないので、練習場の確保等もすべて自分たちでしています。

上村　単独公演は会場も時間も昨年と同じですので、昨年よりも上のパフォーマンスをお見せしなければならないと考えています。単独公演には費用もかかりますが、クラウドファンディングを活用して資金を集めています。総明会の方からもご支援いただいています。ありがとうございます。

滝田　私は昨年Ｃｏｐｉａに入ったので、単独公演への出演は初めてです。とにかく曲が多くて、新しい曲もたくさんあるので大変です。先輩方に迷惑をかけてはいけないと頑張っていますが、自分だけ頑張るのではダメですね。私達の学年全体が迷惑をかけないように、さらには後輩たちの指導、とにかく自分がやるべきことをやらなければと考えています。

黒木　先輩方が忙しい中で、１年生だからと言っている場合じゃないです。先輩方に迷惑をかけないようにと考えています。学生のサークルですからメンバーは毎年入れ替わっていきますが、お客さまは昔からＣｏｐｉａをご覧になっているわけですから、期待を裏切らないように頑張らなくてはと思います。

Copia 8th Live 潜入レポート by A&T

総明会全国１万人のＣｏｐｉａファンの皆さま、こんにちは！今回、第８回目を迎えたＣｏｐｉａのライブに、どすこいの代表のＡ＆Ｔで潜入して参りましたので、皆様にレポートをお届け致します。

この日はＣｏｐｉａの誕生日！二人で花束を携えて、会場の「新宿Ｒｅｎｙ」に17時半入り。まだ観客が入る前の時間でスタッフが慌ただしくステージ最終調整に追われていた。リーダーの明高出身の上村さんを筆頭に、煌びやかな衣装に着替えたＣｏｐｉａの皆さんが出迎えてくれました。

総勢25名、待ちに待ったＣｏｐｉａ8th Ｌｉｖｅ、気合が違う。皆さん笑顔だが、上村さんからの一つ一つの指示に気合が宿る、本気だ。皆さんと笑顔で、一緒に写真撮影。Ｃｏｐｉａトレードマークのポーズに加えて、我々の同期会のどすこいポーズまで。

本番前の緊張感ＭＡＸのはずだが、こちらからのしょーもないリクエストにも、笑顔で反応。感謝しかない。

18時過ぎに観客が入場開始。あっという間にホールは４００名超えの観客であっという間に埋め尽くされ、満員御礼状態！

待ちきれない観客の期待が高まったピークと共にいよいよライブスタート！

メンバー総出の圧巻ダンスナンバーから息ピッタリのチームワーク。フリはキレッキレ。素人目でも並々ならぬ練習量が想像できる。勝手知ったる観客の掛け声、フリでステージ上の彼女たちも笑顔満載！

我々も、もらい笑顔。今日は30曲、約2時間半のステージ。

終始踊りっぱなし、驚異的なエネルギー！チームごとに好きな曲を選んでいるので楽曲に対する愛情がハンパなく、我々取材班もかぶりつき～。撮影を忘れてしまう始末。ぜひ、またこの臨場感を感じたい！

さぁ、皆さんも生で見たくなったのではないでしょうか。ぜひ、11月24日ハイアットリージェンシー東京で、Ｃｏｐｉａの薫りを体感しよう！

吹奏楽班御用達の店

居酒屋 樽一（たるいち）

ランチ営業始めました！
11:30オープン！

Tel. 03-3208-9772
東京都新宿区歌舞伎町1-2-9
シタディーン セントラル新宿東京　地下1階
http://www.taruichi.co.jp

祝 第55回総明会 総会・懇親会

吹奏楽班OB・OG会

会 長　斉木 麻州男
（昭和 56 年卒）

祝 第五十五回総明会総会・懇親会

図書班 OB・OG会

連絡先 平田 幸彦
TEL：03-3589-0687
連絡先 大西 静士郎
TEL：090-2243-2135

祝　第55回 総明会総会・懇親会
明治大学附属明治高等学校 応援団OB会

会　長　廣野 宏士（昭和47年卒）
副会長　三森　勲（昭和50年卒）鈴木 重之（昭和60年卒）春山 愛美（平成23年卒）
幹事長　光岡 孝之（昭和63年卒）　副幹事長　今井 高志（平成5年卒）

見　心　会

明治高校剣道部OB・OG会

会　長　矢光　善美　　幹事長　木村　茂
副会長　中島　健一　　会　計　羽田　郁雄
副会長　鈴木　幸男　　監　督　小川　雅之

明治中学・高校水泳部ＯＢ会

明水会

会長 高橋　直哉（S51年卒）

明治高校バスケットボール部　OB・OG会

バスケもっとやりたくない？
バスケットボール部OB・OG会　チーム結成！！

今年もOB・OGによるチームで千代田区の大会に参加いたします。

参加希望の方はOB・OG会 副会長 山下康彦までご連絡ください。
yayamash@gmail.com

明治高校バスケットボール部ホームページにて
現役の試合速報やOB・OG会の活動を
リアルタイムで発信中！

祝 第55回総明会総会・懇親会

チャレンジ 快汗、どすこい塾

明治高校ソフトテニス部OB・OG会

会長 山形 厚夫（昭和48年卒）

祝　第55回総明会総会

明治中学校・高等学校卓球部OB会

〈明卓 OB 会〉

会長 佐藤信征（昭和39年卒）

物理部OB会

明物会

物理部OBの
皆さん、ご連絡を！

meibutsukaiinfo@gmail.com

祝
第55回総明会総会・懇親会

地理研究部 OB・OG会

連絡先（事務局・松浦）
mgc_matsuura@yahoo.co.jp

祝
第55回 総明会
総会・懇親会
卯ノ木会

硬式野球部ＯＢ会
明　球　会
会長　一泉二郎（昭和５１年卒）
事務局 染谷貴男 090-3205-9735

祝第55回総明会総会・懇親会開催
Meiji 平成元年卒（平成改元会）
硬式野球部OB一同
田中博樹、村嶋健児、澤村大樹、篠田守建
美濃部健太郎、筧崇彦、吉井昭、四手宏尚

祝第55回総明会総会・懇親会開催
Meiji 平成2年卒（明愛会）
硬式野球部OB一同
桜井　敦、桑名　徹、木下英樹
松尾健司、川辺康二

祝 第55回総明会総会
明治高校バレー部
OB・OG会

顧問　山中禎一郎 先生
会長　石田 元伸（S51卒）
副会長　岩崎 広人（S57卒）
副会長　岡永 健二（H4卒）
事務局長　樋田 哲次（S52卒）
事務局次長　熊澤 正幸（S54卒）
役員　安蒜 信夫（S56卒）
役員　加藤 裕司（H8卒）
役員　山本 直之（H8卒）
役員　阿部 徹也（H11卒）

LIONS INTERNATIONAL
連絡先
03-5999-4880
ライオンズクラブ国際協会
駿河台ライオンズクラブは
校友の皆様の入会申し込み
をお待ち致して居ります

明治高等学校昭和 30 年卒業
同期会（30 会）
会長　宇田川雄広

祝 第 55 回 総明会
昭和 31 年卒
明楽会
会長 佐藤健一

明雪会
スキー部ＯＢ会

会長　沼田 哲明（昭50年卒）
副会長　岡本 雅仁（昭51年卒）
〃　五十嵐公一（昭54年卒）
名誉会長　若松 弘昌（昭39年卒）
〃　堀 眞壽（昭46年卒）
顧問　大津富士男（昭28年卒）
〃　佐藤 健一（昭31年卒）
〃　大出 育男（昭31年卒）
〃　田村 暢朗（昭31年卒）
〃　藤井 英一（昭32年卒）
〃　山田 和孝（昭36年卒）
〃　小山 雅司（昭37年卒）
〃　井上 進治（昭38年卒）
〃　戸張 毅（昭47年卒）
〃　服部 憲一（昭50年卒）
監督　菅野 栄一（昭55年卒）
事務局　狩野 智雄（昭56年卒）
〃　鳴海 浩樹（昭57年卒）
〃　深谷 剣（昭62年卒）
〃　中澤彰次郎（昭62年卒）
〃　鏑木 祥介（昭63年卒）
〃　浅倉 太明（平3年卒）
〃　印田 誠（平10年卒）
ゴルフ担当　富沢 康弘（平3年卒）

がんばりました!!
インターハイ出場2名
国体出場2名
全国中学出場4名
関東大会出場6名

祝 総明会総会
明治会
昭和32年卒

祝　第55回総明会総会
がんばれ どすこい
歴史研究部ＯＢ会
会　長 鴨下 裕彦（昭和56年卒） 事 務 局 渡辺 隆之（昭和59年卒）
副会長 白畑 尚志（昭和56年卒） 事務局兼会計 土田 正昭（昭和61年卒）
副会長 安達 俊幸（昭和57年卒） 事 務 局 山下 征隆（昭和63年卒）

株式会社
レストラン・ピガール
明大1号店
ケータリング パーティー
各種お弁当承ります。
〒182-0033
東京都調布市富士見町4-23-25
明治大学付属明治高等学校・中学校内
TEL/FAX.042-480-9703
担当総括支配人 山口剛志

祝 第 55 回 総明会
明治高校
マンドリン部OB・OG会

小坂法律事務所
弁護士
小坂嘉幸
昭和34年卒
〒110-0005
東京都台東区上野3-21-1
宮本ビル4F
TEL. 03-3831-6032
FAX. 03-3831-6037

祝55回 総明会総会・懇親会
MEIJI
UNIVERSITY GOLF CLUB
明治大学体育会ゴルフ部
http://www.meijigolf.com/
監督 榎本剛之
（平成２年卒）
有限会社サンウッド
TEL. ０４４－５５５－７０１６
女子部が第42回全国女子大学ゴルフ対抗戦で創部以来初優勝を果たしました！

1階　ビビンバ&クッパ
2～3階 おいしい焼肉
大野屋
福島 正太郎
（S34卒 アイスホッケー部OB）
東京都江東区東陽3-5-7
東西線 木場駅 A1出口
Tel. 03-3644-1628

PEP-MATES inc. HP-URL www.pep-mates.com
オリジナル!!
ネクタイ・クラブタイ、30本から製作致します！
デザインは弊社にて無料で提案します。イメージとなる紋章・カラーをメールまたはFAXでお送りください。
専門のデザイナーがイメージを作り上げます。デザイン確定後、本数をお知らせいただければお見積りをします。
オリジナルグッズ企画・制作
ペップ・メイツ株式会社
〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町 14 番 10 号
TEL 03-3663-8827 FAX 03-3663-8828 info@pep-mates.com
代表取締役 大前実之（昭和49年卒・翼明会）

明高野球部を甲子園に送る会
会長 山浦 晟暉
（株）東京フジカラー 代表取締役
（昭和29年卒）

祝55回 総明会 総会・懇親会
MEIJI UNIV. PHY. COMMITTEE AMERICAN FOOTBALL CLUB
GRIFFINS
明高出身 明治大学体育会
アメリカンフットボール部OB有志
村嶋 健児
（H元年卒 「平成改元会」 硬式野球部）
嶋田 剛久
（H元年卒 「平成改元会」 吹奏楽班）

trattoria L'INSIEME
イタリアン
トラットリア リンシエメ

昭和38年卒 二年に一会
石野 隆 水泳部OB
03-6264-8253
東京都中央区東日本橋 3-9-2
サンクビル 1F

昭和34年卒 明高野球部OB

㈱マルキユー株式会社
代表取締役会長
宮澤 政信
〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀 2-4
TEL:048-728-0909 FAX:048-728-3909
ホームページアドレス http://www.marukyu.com/

MEIJI
UNIVERSITY
明治大学
駿台会計人倶楽部
－会員募集－
会長 岩田俊一 （昭和49年卒 翼明会）
tiwata@silver.plala.or.jp
〒113-0034 東京都文京区湯島4丁目6番11号 湯島ハイタウン A棟502号
TEL 03-3815-1272（代）
FAX 03-3815-1404

細田木材工業株式会社
代表取締役社長
細田 悌治
（昭和35年卒／珊瑚の会）
〒136-0082
東京都江東区新木場 2－5－3
TEL.03-3521-8701 FAX.03-3521-8708
e-mail t-h39@woody-art-hosoda.co.jp
http://www.woody-art-hosoda.co.jp/

昭和37年卒
新麹町法律事務所
弁護士 福島啓充
〒102-0083
千代田区麹町3-7-4秩父屋ビル5階
TEL03－3234－0511
FAX03－3234－0510

凸版印刷は、東京2020大会を応援しています。
TOKYO 2020
TOPPAN
TOKYO 2020 PARALYMPIC GAMES
東京2020オフィシャルパートナー（印刷サービス）
小林 義典（昭和53年卒） 笠原 謙介（昭和58年卒） 山本 伸幸（昭和60年卒） 永井 聡（昭和63年卒）
定谷 正春（平成元年卒） 今泉 仁（平成2年卒） 山本 洋貴（平成5年卒） 水野 泰博（平成8年卒）
竹村 圭史（平成12年卒） 木村 啓（平成15年卒） 新藤 良亮（平成18年卒） 川村 実穂（平成23年卒）
中島 多朗（平成26年卒） 中山 将也（平成26年卒）
凸版印刷株式会社 〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1番地 www.toppan.co.jp

老舗 金の吉田の魚
創業文政二年

（株）ヨシダ
昭和37年卒 吉田 信行
昭和38年卒 増田 利明
平成29年卒 矢島 泰雅
〒124-0023 東京都葛飾区東新小岩 5丁目14番7号
TEL 03-3694-3751 FAX 03-3694-3753

（株）グローバル インシュアランス
保険総合コンサルタント
代表取締役
若松弘昌
（昭和39年卒 明雪会）
〒141-0031 品川区西五反田2-9-7
ドルミ五反田アンメゾン1001号
TEL. 03-3491-0900
FAX. 03-3491-0934

加藤一也税理士事務所
所長税理士 加藤一也（昭和39年卒）
公認会計士・税理士 加藤康正
税理士 藤田 江
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 3-25-8 第2扇屋ビル TEL. 03-3910-8683 FAX. 03-3910-8441

魅せろ！明治魂 私達は明治高校を応援しています！

玉田 英明	昭和53年卒	阿部康一郎	平成5年卒	小堀 良樹	平成17年卒
石川 恵資	昭和58年卒	高橋 建太	平成5年卒	山本 康太	平成19年卒
髙橋 浩	昭和58年卒	木村 允	平成8年卒	櫻井 亮	平成20年卒
服部 裕之	昭和59年卒	佐藤 潤	平成9年卒	平野 慎	平成21年卒
廣田 晃一	昭和59年卒	角 祐二郎	平成13年卒	田中 拓樹	平成23年卒
増岡 寿	昭和60年卒	鈴木 亮輔	平成13年卒	松本 直子	平成25年卒
松尾 智己	昭和60年卒	寺田 雄太	平成13年卒	三苫 美鈴	平成25年卒
松嶋 俊行	昭和61年卒	瓜生 泰三	平成14年卒	吉光寺美和子	平成27年卒
菅 和禎	昭和63年卒	土方 博史	平成14年卒	下田 祥之	平成27年卒
山本 幸一	平成2年卒	密岡 祐樹	平成14年卒	山中 友貴	平成27年卒
滝 晋敏	平成4年卒	高井 洋	平成15年卒		
寺土 博昭	平成4年卒	川原 健	平成17年卒		

明治高校卒明治大学職員有志一同

昭和40年卒　明優会
マンドリンクラブ
JRC

(株)アドバンス

代表取締役

大塚清和

浦安市猫実4-6-28 1101
TEL. 047-355-6633(代)

株式会社 シティ・ハウジング

代表取締役会長 **佐藤　仁**（昭和39年卒　三九会・一一七会）

本社　東京都大田区西糀谷4−28−18
TEL 03−3742−7177 FAX 03−5705−8097

糀谷本店●京急蒲田店●蒲田東口店●蒲田西口店
大森駅前店●大森店●大井町店●雪が谷店

昭和四十三年卒
竹川忠芳法律事務所
弁護士

竹川忠芳

〒一〇五−〇〇〇三
東京都港区西新橋一−二〇−三
虎ノ門法曹ビル四〇八
電話〇三−三五〇四−一三〇八
FAX〇三−三五〇四−一三〇七

三九会 一一七会

北村元嚞

〒103-0027
東京都中央区日本橋1-2-10

JY 上陽テクノ株式会社

代表取締役

阿部　正行（昭和40年卒）

千代田区外神田 6 - 10 - 11
TEL. 03 - 3834 - 1329

昭和40年卒

明優会

会長　大関清人

事務局 坪田達夫 TEL03−3947−2431

スコッチのシングルモルトと
カクテル中心のお店です。 **赤坂 オールドタイム**

横瀬 昭夫（昭和42年卒　M41）

東京都港区赤坂5-1-37 SDビル1F TEL. 03-5563-9606

オフィスのAからZまで

エーゼット株式会社

服　部　洋　一　昭41年卒
服　部　雄　二　昭44年卒

〒101-0025　千代田区神田佐久間町 4-22
TEL 03-3865-9577　FAX 03-3865-1162

紫讃会

堀内　繁

（昭和43年卒）

機械式時計専門店

株式会社ティーエス・ホリウチ
TEL.03-3831-9733
FAX.03-3831-9734
http://www.ts-horiuchi.jp/

祝　第55回総明会総会

明治高校
昭和43年卒
同期会

紫讃会

中華料理 水新（みずしん）菜館

寺田規行

（昭和43年卒 紫讃会）

東京都台東区浅草橋2-1-1
TEL 03-3861-0577

昭和43年卒　紫讃会

明治大学体育会ゴルフ部　白雲会　会長

小田嶋 保男

東京都足立区中央本町４−２４−８

肉の田じま

肉の田じま

ネット通販
全国へ配送承ります。

http://www.nikunotajima.com

代表取締役社長 田島 実
昭和44年卒 男坂倶楽部

松阪牛 田じま 東陽町店 東陽町駅4番出口より徒歩1分
東京都江東区東陽4-6-16 東陽ビルB1F TEL 03-6666-2129

〒135-0011 東京都江東区扇橋1-4-1 Tel. 03-3647-2984 Fax.03-3699-7229
3階 すき焼き・しゃぶしゃぶ・ステーキ Tel. 03-3699-5529 営業時間:17～22時 定休日:月(祭日の場合は翌日)
2階 焼肉 Tel. 03-3699-8929 営業時間:11～23時 定休日:月(祭日の場合は翌日)
1階 ミート&デリカ Tel. 03-3649-4419 営業時間:10～19時 定休日:日・祝日

紫讃会
川口明高会
石井次男

総明会 顧問
昭和44年卒 男坂倶楽部
ミートショップセキヤ
株式会社関谷商店
代表取締役社長 関谷芳久
http://www.1129sekiya.com
足立区西新井栄町3-8-5 TEL.03-3886-3318 FAX.03-3886-5803

昭和四十四年卒
弁護士
田中 等
丸の内南法律事務所
〒一〇〇-〇〇〇五
千代田区丸の内二・二・三
丸の内仲通りビル七一七
TEL〇三-三二一五-一五一五
FAX〇三-三二一六-〇四〇四

昭和四十四年卒
味処・酒処 す吾六
家中 勉
〒一三〇-〇〇二一
墨田区緑四-九-一
電話〇三-三六三二-三三二二

より良き住まいのために
ワイシー企画 株式会社
建物のリフォーム・
新築の設計・施工
取締役会長
藁谷 豊
昭和44年卒
男坂倶楽部
〒359-0007 埼玉県所沢市北岩岡263-1
TEL. 04-2990-5111 FAX. 04-2990-5005
e-mail: yutaka0912@ah.wakwak.com

マイケル&マック
鍼灸・中医学・東洋医学・
脈診・漢方・均整法
千葉県市川市北方2-2-10
TEL&FAX 047-336-0763
HP:http://michaelmac.jp
鍼醫 松本 明久
昭和44年卒 男坂倶楽部

祝 第55回総明会総会
昭和45年卒
獅子の会
【獅子の会ホームページをご覧下さい】
http://www.44nokai.com/

花や鉢物のお届けします。
昭和45年卒
株式会社
ポトマックガーデン
代表取締役
平田幸彦
〒107-0052
東京都港区赤坂7-8-13
TEL 03-3589-0687
FAX 03-3583-9423

株式会社
ライトハウス・コミュニケーションズ
代表取締役
齊藤 公義
k-saito@lighthousecom.co.jp
昭和46年卒「明潮会」
〒135-0048
東京都江東区門前仲町1-10-9 ハウゼ小幡503
TEL. 03-5809-8648 FAX. 03-5809-8649
H.P. 090-3332-8807

白山 喫茶ペガサス
後藤義明 S45
フェンシング部
駿台自転車倶楽部
明治大学体育会自転車部OB会
後藤勇三 S50
硬式野球部

割烹・小料理 魚喜代(うおきよ)
昭和45年卒 獅子の会
中野 和博
(バスケ部)
ランチ11:30～13:30(平日のみ)
夜17:00～22:00(水曜定休)
☎03-3619-0585
住 東京都墨田区東向島5-26-2

夫婦二人でサービス精神と
元気さを売りにしています。
蛇の目寿司
昭和45年卒 獅子の会
硬式野球部
河田 勇
東京都中央区東日本橋3-10-13
TEL 03-3661-8536

WIN WIN STYLE
堀 眞壽(昭和46年卒)
株式会社 インタープランニング
〒135-0003 東京都江東区猿江 1-2-9
TEL：03-5600-3388
http://www.winwinstyle.com

昭和46年卒
(株)ハナワトランスポート
代表取締役社長
塙 直樹
中央区日本橋箱崎町12－2

祝 第55回 総明会 総会
昭和46年卒
明潮会
白雲なびく・紫紺魂

2019年 学校報告

SCHOOL REPORT 2019

M 紫紺祭

平成30年9月28日～29日

文 神 克彦 平成4年卒

27年ぶりの紫紺祭、一人の保護者として我が子の受験のために学校見学を兼ね、雰囲気を味わおうと参加してみました（まだこの当時は会報委員に携わっていませんでした）。最寄駅に着くと、スクールバスに乗るための長蛇の列。母校に対し関心を持っている方がこれだけいるのか、と心の中で誇らしげに思いました。

新校舎での紫紺祭はとても新鮮でした。「これが明治高校？」というほど。現在は展示が部活単位だけではなく、クラス単位でも行われています。ゲーム・アトラクションに娘も参加、景品をもらいとても嬉しそうでした。妻はバザーに走り、私は27年前の紫紺祭を思い出して感慨にふけっていました。当時運動部はお好み焼きやクレープ、ポップコーン等、校庭の隅の狭いスペースで露店を出し、大きい声でお客さんの呼び込みをしていました。めったに見ることのない女子高生の関心を引こうとする力強さ（笑）。そして現在、違った視点で紫紺祭を味わうことができました。明るく華やかで、何よりも明治中学・高校生の「おもてなし」に心が温まりました。来場者を大切にしてくれる親切な気持ちに、私たち家族も大変満足でした。

食堂での昼食、そしてデザート（部活やクラス単位でお菓子を販売）でお腹も満たされたところで最後には紫紺祭の華、応援指導班による舞台で、明治ならではの雰囲気を味わいました。紙テープが舞う中、リーダー部、吹奏楽班、チアリーディング部が一体となった応援歌・応援曲が展開され、数多の観衆を惹きつけていました。そして最後はもちろん校歌。これほどまでに心を震わせ、「母校」を意識させる校歌は日本全国探しても他にありません。お腹も心も満たされ帰途に着くとき、改めて思いました。

「やっぱり明治がNO・1！」

吹奏楽班

第60回定期演奏会

平成31年1月27日

文 小林 優里 平成31年卒

平成31年1月27日(日)、第60回定期演奏会が昭和女子大学人見記念講堂で行われました。記念すべき60回目の定期演奏会で、私達高Ⅲは無事、引退を迎える事が出来ました。私達の代では、私達の演奏を聴いてくださる全ての人を感動させることを目標に1年間幹部を務めて参りました。定期演奏会後、沢山の方から感動のお言葉をいただけたのは、一種の目標達成なのではないかと感じております。

吹奏楽班で過ごした中高6年間は、ただ純粋に、ひたむきに過ごしていました。その為、中1の頃は長いと思っていた6年は瞬く間に過ぎ去って行きました。そして気がつけば、学生コーチとして後輩達を見守る立場となっています。

コーチという責任ある立場を務めさせて頂くことで、卒業後に感じる寂しさは、周囲に比べると軽いかもしれません。しかし、近くで後輩達を見守る事はできても、その輪の中に入る事は出来ません。近いような遠いような何とも言えない疎外感や後輩達に対する羨望は、予想以上に耐え難いものでした。誰かを見守る立場の現実を知りました。それと同時に、同輩の存在が生み出す安心感、人と人の繋がりの強さを改めて感じました。

私は、吹奏楽班での生活はダイヤモンドが輝きを持つための磨きと同じだと捉えています。ダイヤモンドは削って磨く作業を繰り返し、強度と強い輝きを持ちます。私は、吹奏楽班で悩んで、苦しんで、間違って、もがきながら少しずつ進んできました。失敗の連続でしたが、その失敗でぶつかって、磨かれて今の私があります。それは、他の班員も同じだと思っています。だからこそ、先輩方は様々な分野でご活躍されていますし、私の同輩も色んな場面で活躍しています。

私の磨きの作業は、明治高校吹奏楽班の中で、現役からコーチと形を変えた今もなお続いています。現役時代には気づけなかったり、知らなかった辛さや困難はありますが、現役時代に培われた諦めない心や根気強さで突き進んでいきます。

今後とも明治高校吹奏楽班の応援をよろしくお願い致します。

マンドリン部

第60回定期演奏会

平成31年1月20日

文 木下 泰之 平成4年卒

平成31年1月20日(日)、調布市文化会館たづくり「くすのきホール」にて、第60回定期演奏会が開催されました。実は私は、30年前の明治中学での1年間、マンドリン部に所属しておりました。今回、会報委員の取材という立場で、共学後の演奏会を初めて聞かせて頂きましたが、男子部員より女子部員が多いことに驚きを隠せませんでした。

プログラムは三部構成で組まれており、高校生の人数が少し寂しくなってしまった感がありましたが、一部と二部が中学生中心の少人数編成で、三部が卒業生と現役生とのオーケストラの合同演奏でした。6年間部活を続けられた高Ⅲ女子のコンサートマスターによる独奏曲のパフォーマンスは、静寂の中、心を打つものがありました。うって変わって、合同演奏は大勢の卒業生の奏でる音が、重厚感のある演奏となっておりました。

今年喜寿を迎えられる、明治高校のOBでもいらっしゃる久保田孝先生が指揮を始めると、会場全体の空気が締まるような感覚を覚えました。

今でも、私が新入生歓迎会の時に聞いた先輩方の演奏が記憶に残っておりますが、プログラムの冒頭に第65代部長が書かれていた部の目標且つ指針のモットーである「人に感銘を与える演奏」をするということが、まさに当時の自分が聞いた演奏にもあったのだなと改めて実感いたしました。

昨年度マンドリン部は、全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクールへは不参加だったとのことでしたが、また参加出来る様に、ぜひ活動を続けて頂ければと思います。音楽を含め、様々なものが多様化した時代でありますが、今後も明治高校の伝統の1つとして、マンドリン部の「人に感銘を与える演奏」をつないで欲しいと切に願います。

M 応援団

第9回紫紺の下に

平成31年2月17日

文 神 克彦 平成4年卒

平成31年2月17日、「第9回 紫紺の下に」が明治高校鵜澤總明ホールにて開催されました。13時の開場前には在校生、保護者、そして卒業生の方々と一緒に長蛇の列に並びながら、私は「校歌や応援歌を最後に聞いたのはいつだったかなぁ」と懐かしく、そして楽しみに待っていました。さて、開幕すると、まず第Ⅰ部は吹奏楽班によるポップスステージです。「Music From The Incredibles」「ディスコ・パーティーⅡ」「ディズニー・メドレーⅡ」は、いずれも軽快な曲が耳に心地よく、9月の吹奏楽コンクール東京都大会で銀賞を受賞したという、レベルの高い演奏を堪能しました。

第Ⅱ部はチアリーディング部ステージ、総勢39名の部員たちによって繰り広げられる明るくて、中高生らしい活気のあるチアやダンスに、仕事で疲れた体は癒され、自然と笑みがこぼれました。観客席前方からは男子生徒の太い声による声援、またサイリウムで彩られたカラフルな空間も手伝って、大変魅力的なステージでした。そしていよいよ第Ⅲ部、リーダー部による校歌・応援歌紹介です。まず応援指導班創設70周年記念曲「Celebration」が荘厳で高らかに鳴り響き、私はいつしか引き込まれていました。そして団長の染谷早咲さんがリーダーを務め「紫紺の歌」「紫紺の旗の下に」が勇ましく披露されました。私は女性がリーダーを務める応援団を初めて見ましたが、しっかりと張りのある声量や確かなテクニックでリードする姿に感心しました。なお、現在リーダー部の男子は高Ⅱが1名とのこと。男子校だった頃に在校していた私は〝黒一点〟の彼には軽い嫉妬心(笑)を覚えながらも、心の中で一段と「がんばれ!」のエールを送っていました。

チャンスパターンメドレーで会場のボルテージが最大となったところで、最後は泣く子も黙る校歌。ああ、いまでもしっかりと胸に焼き付いています。30年前、高校入学式で初めて聞き、力強く心に響き感動したこと。卒業生としてこれほど誇らしい校歌はありません。全員が肩を組んでのスクラム校歌、これは明治にいた人間にしか味わえない最高の財産です。

平成が終わり新たな時代になっても、明治の校歌・応援歌は私たち卒業生にとって心の拠り所です。心を込めて素晴らしいステージを創り上げてくれた現役生徒たちに感謝しながら、「ああ、来て良かったな」と晴れ晴れとした気持ちで帰途に着きました。次回はいよいよ第10回目、さらなる成功を心より応援します。

M 東日本大震災被災地支援

平成31年1月12日~14日

文 神 克彦 平成4年卒

今年で7回目となる東日本大震災被災地支援事業が平成31年1月12日~14日、宮城県石巻市女川町にて実施されました。今回は過去最多である37名の生徒、先生方6名、そして宮代PTA会長と、総勢44名の参加となりました。活動としては地元の小学生サッカー大会の審判・運営、観客の方々への湯茶接待、復興住宅入居者との交流会(クラフト教室・餅つき大会)などが行われました。

参加した高Ⅲ男子生徒は、「現地の小学生は、東京の小学生と変わらないほど元気でした。元気な小学生と接したからこそ、学び盛りの彼らがやりたいこと、興味のあることに直ちに打ち込むための環境が未だに不完全であることを、私は非常にもったいないと感じました。その点において、まだまだ多くの支援が求められます。」と、語っていました。

なお、交流会は毎年女性のみの参加だったのが、今回は生徒の「将棋を一緒にしませんか?」という事前告知があったため、男性の方の参加もありました。そして、全校生徒が折った千羽鶴が旧大川小学校に寄贈されました。また、生徒・保護者および総明会の皆様方からの募金が、現地自治体の基金に寄付されました。酷寒の地でのこの奉仕の精神は、現地の方の心を温めたことでしょう。

最後に、昨年も参加した高Ⅲ女子生徒が語っていたことを挙げさせていただきます。

「復興住宅にお住まいの方々との交流会では、『私たちに伝えたい』、『風化させたくない』という気持ちを強く感じました。東日本大震災の報道も少なくなり、関心も低くなっている今、直に聞き、痕跡を見た私たちが支援事業で得たものを共有しなければならないと思います。」

※平成31年3月に発行されたPTA会報において、副校長 粟野先生、2名の高Ⅲ生徒が寄稿してくださいました。この文中から引用させていただきましたことを、ここに報告いたします。

新任先生紹介

編集 木下 泰之

伊藤 慧 先生

①1988年12月11日
②長野県伊那市
③早稲田大学大学院教育学研究科 ④桐朋中学・高等学校教諭
⑤理科（物理） ⑥硬式テニス部・サッカー部

●明治中学・高校に赴任しての印象

明るく、真面目な生徒が多いと思います。また、普段ふざけているように見えても、授業はしっかり聞き、試験勉強も自主的に行うなど、切り替えの上手い印象です。

●生徒たちに期待すること

大学付属校という利点を活かし、学校のカリキュラムの枠にはまらない学びをしてもらいたいです。自らで天井をつくることなく、高い目標を掲げて努力を重ねてもらいたいと思います。

●自身の抱負

大学の直系付属校でしかできない授業・だからこそできる授業を追究していきます。具体的にはまず、物理実験室を整備し、各学期最低4回以上の生徒実験を行わせたいと思います。

●自己紹介

今年度よりお世話になります、伊藤慧と申します。明治高校・明治中学の更なる発展に少しでも貢献していきたいと思います。よろしくお願いします。

①生年月日／②出身地／③出身校・学部／④前職／⑤担当教科／⑥担当クラブ活動

藤波 利奈 先生

①1993年6月13日
②東京都足立区
③慶應義塾大学文学部教育学専攻卒業、早稲田大学大学院教育学研究科国語教育専攻博士前期課程修了
④法政大学第二中学・高等学校非常勤講師
⑤国語 ⑥水泳部・吹奏楽班

●明治中学・高校に赴任しての印象

行事、部活、勉強全てにおいて全力で取り組む生徒が多い印象です。明るい生徒が多く、周りに積極的に働きかけ、クラス全体で行事を楽しむ雰囲気ができており、素晴らしいなと思います。

●生徒たちに期待すること

多様性を重んじ、あらゆる立場の人と共に社会を作っていける人材に成長してほしいと思います。学年やクラスだけでなく、他学年とも積極的に関わり、実りの多い中学・高校生活を送ってほしいです。

●自身の抱負

国語科として、担任として、生徒たちと共に日々成長していけるよう努力していきます。生徒目線に立ち寄り添いながら、時に厳しく接し、素敵なクラス、学年、学校作りをしていきたいです。

●自己紹介

周りの先生方、保護者の皆様に助けられながら、毎日楽しい教員生活を送っております。未熟な点も多いですが、精一杯努めてまいりますのでどうぞ宜しくお願い致します。

山脇信彦先生 ご逝去

山脇先生追悼

文 西村 能一

山脇先生には、私達の学年は授業を直接教わったことはありませんでしたが、私の教育実習の指導教官でありました。

3週間の実習期間でしたが、先生はご自分の授業は実習生に任せられないという方針のため、教壇に立ったのが最後の1週間の高校Ⅲ年5クラスを1時間ずつ、中学3年の3クラスを1時間ずつの計8時間だけでした。そこで、教壇実習がない始めの二週間は、様々な教科の先生の授業を見学しました。ホームルームや体育に参加したり、他の先生の実験の助手をしたりもしました。

教材研究を念入りにして臨んだ教壇実習でしたが、最初の授業は、予定の半分も終わらず散々の出来でした。授業後に山脇先生から厳しく指摘をされ、自信を無くしました。ただその失敗を繰り返さないよう、内容を見直して足りない所を補い、模擬授業をするなどして研究授業に臨みました。無事に終えたあと、「良くできたね」と山脇先生から言葉をかけてもらって嬉しかったのを覚えています。

当時の教育実習の記録を久しぶりに読み返しました。自分が書いたその日の感想に、山脇先生が所見を書いてくれました。教育とは、教員の心構え、自然科学を教える意義など、様々なことを伝えてくれました。最後の言葉は「教育は大変奥が深いもので何十年勤めても常に研究が必要であります。特に専門外の教養を学び、社会人として通用する人間であることです。今後も大いに勉学を。」とありました。

私は大学を卒業後、私立高校の教員を経て、現在は予備校講師として大学受験を指導しています。教育実習当時の言葉は、今回思い出しましたが、そのとき教えられた勉強し続ける意義や、教育への熱意などはずっと根底にあり続けています。教育実習から24年経って改めて当時のことを考えると、教員を仕事に選んだ理由は、教育実習で自分の思うようにできなかった悔しさを晴らすために教員の道を進んできたように思います。これからも、山脇先生に「良く頑張ったね」と褒められるよう、精進していきます。

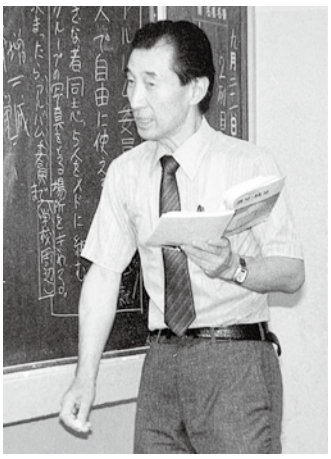
山脇先生のご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

山本廣三先生ご逝去

山本先生を偲んで

文　神　克彦　平成4年卒



平成31年3月8日、明治高校・中学校にて長らく教鞭をとられていた山本廣三先生がご逝去されました。享年91歳。

山本先生は昭和39年4月、数学科教諭として赴任され、平成元年3月までは専任教諭、同年4月から平成5年3月までは非常勤講師として30年間、数多くの生徒を指導されました。また、教育法の専門家としてもご活躍され、「私たちの教育基本法（大揚社）」を出版されました。内容は他国の学校状況等を含め、読みやすく分かりやすいように工夫されていました。そのために約3年がかりで夏休みを活用してパリ・ロンドン・ローマ・ベルリン・モスクワ等を視察されました。3名での共著の中で山本先生は「二条（教育の方針）」「四条（義務教育）」「十一条（補則）」「校則と学校生活」等を担当されました。さらに学校中退問題解決への提言として、「在学権」を主張されました。これは「適法な学校生活をするならば、生徒は学校に在学する権利がある」というものです。この主張は昭和63年8月の研究会で北海道新聞社の記者が注目し、8月4日付けの同紙に掲載されました。

また、山本先生は昭和48年、映画技術愛好会を創設されました。当時の会員は約40名、そして8ミリ映画の全盛時代でした。創設後、山本先生は顧問として会の運営や機器の整備、そして撮影に尽力されました。映画技術愛好会としての初めての活動は同年の夏休み、「四号館解体作業（解体後に生徒ホールが建てられる）記録映画」の制作でした。50キロのハンマーで天井をぶち抜き、同館コンクリート側壁が砂ぼこりとともに倒壊するなど、迫力のあるシーンを含んだ作品でした。完成のために先生、先輩方は夏休みを返上して、汗まみれになって撮影されたそうです。

このような文章を、多くの先輩方をさしおいて若輩者の私が執筆させていただいたことに深くお詫び申し上げます。山本先生のご冥福を、心よりお祈りいたします。

※平成元年に発行された過程　第37号において、「ご退職なさる先生　一つの『主張』どこまでも～人生に定年なし～」という題名で山本先生が執筆をされました。この文中から引用させていただきましたことを、ここに報告いたします。

祝 第55回総明会総会・懇親会
－皆様のかけ橋となります－

㈱明大サポート
（明治大学外郭事業会社）
設　立　1996年1月22日
〒101-8301東京都千代田区神田駿河台1-3-1
明治大学大学会館地下1階
Tel：03-5280-1500　Fax：03-5280-1505
ホームページhttp://www.meidai-support.com

明大グッズONLINEショップ
http://meidaigoods.net/
明大グッズ

祝 第55回 総明会

四七四七同志酔会

昭和47年卒一同

お城 森八

銘菓
大粒栗入り最中
大粒栗入り饅頭

㈱森八本舗
HP：morihati.co.jp

〒130-0002 東京都墨田区業平1-3-6
TEL：03-3622-0006 FAX：03-3622-8584

昭和四十八年卒
四国商事株式会社
濱本義典
〒一六五-〇〇二六
中野区新井一-十五-十五-一〇五
電話 三三八六-五六六四
FAX 三三八六-七六一九

古庄一夫税理士事務所
四七四七同志酔会
古庄一夫
（昭和47年卒／吹奏楽班）
東京都墨田区菊川2-5-12
菊川ジョイタワー301号
TEL:03-3635-7070
FAX:03-3635-7081
kazuo.f.ao.2003@fancy.ocn.ne.jp

建築設計監理
有限会社 日生建築設計事務所
代表取締役 一級建築士 戸張 毅
（四七四七同志酔会）
〒170-0002
東京都豊島区巣鴨三丁目5番18号
TEL（03）5907-6030
FAX（03）5907-6033
E-mail:nao.111@themis.ocn.ne.jp

昭和47年卒
五木田・三浦法律事務所
南青山オフィス
弁護士
三浦雅生
〒107-0062
港区南青山6-8-15
TEL 03-5774-2090

炭遊酒菜
旅籠（はたご）
新宿で一番美味しい炭火鶏焼きのお店
大小7個の個室完備。新宿駅西口徒歩3分
東京都新宿区西新宿1-23-1 かどやホテルB1F TEL. 03-3344-3144
竹川観光株式会社
竹川 茂（昭和47年卒）

浅草の隠れた名店
スペシャルヒレカツサンド
キングステーブル
昭和48年卒 波の会 剣道部OB
大澤 保男
TEL. 03-5825-4129
東京都台東区浅草 5-71-9

MALIBU LOUNGE BAR
マリブ ラウンジ・バー
森田 勉
昭和48年卒 波の会
硬式野球部
☎ 03-6273-8583
住 新宿区歌舞伎町2-27-12
Lee2ビル B-1

祝 第55回総明会総会
波の会
昭和48年卒 卒業生一同
代表者 富永 栄之進
副代表 板橋 純三郎 尾崎 幸平
評議員 海老根 一介 雨海 重明

祝 第55回総明会 総会・懇親会
49年卒 # 翼明会
翼明会役員一同

（株）カントー・エステート
不動産賃貸業・管理業
宮下守正
昭和49年卒
東京都荒川区西尾久1-20-12
M2ビル1階
TEL.03-3894-8161
FAX.03-3894-3682

明治高等学校
昭和49年卒
翼明会
醍醐 敦
醍醐会計事務所
047-355-9301

ターカム保険企画有限会社
有限会社エヌエスモーターサービス
昭和49年卒
翼明会
竹澤 啓
TEL 03-3675-9955 携帯 090-3200-6139

安部友巳先生ご退任インタビュー

平成4年卒
文 倉持 秀一

長きにわたり明治中学・明治高校で教鞭をとられた安部友巳先生、清水克悦先生が平成31年3月末をもってご退任されました。ご退任前の3月2日、明治高校にて両先生のインタビューを実施。明治高校教師としての人生を熱く語っていただきました。

―先生が着任された頃の思い出をお聞かせください。

着任1年目は副担任で、2年目に初めて担任になったんだけど、当時は成績別クラス編成でな、担任クラスが成績最下位クラスだった。成績は悪いんだけど、部活の部長とか副部長ばかりで明治愛の強い奴が多かったから、雰囲気は良かったな。でもそのクラスだけ7時間授業だったもんだから疲れるし、部活にも出られないし、早く成績上位のクラスに行きたいわけだ。「栄光への脱出」とか書いて、定期考査のたび、クラス替え目指して必死になっていたな。

気のいい奴らだったから、クラス会も面白かった。生徒にふぐ屋の息子がいてな、そこは生徒とその親父さんとじいさんと、三代揃って明治っ子なんだよ。そのふぐ屋に行って、2階に上げてもらって、鍋、雑炊まで出してくれてな。こりゃあ大変だ、お前ら、金どうするんだと。そうしたら、「先生、ここで校歌を歌いますよ」と。当時の応援団長が指揮を執って校歌を歌ったんだけど、じいさんが出てきて感激しちゃってさ。金なんかとれっこねえだろうと。下町のきっぷのいいじいさんで、息子も孫も世話になったとか、そういうのもあったんだろうけど、今じゃ考えられねえよな。

―先生は生徒指導主任を長く務められました。

猿楽町校舎の屋上に天文台があっただろう。その上に登って悪さをしていた奴らがいて、俺が行くとそいつらが逃げ出して、「待て、この野郎！」なんて追いかけ回したりしてな。屋根の上に飛び降りて足をくじいたりする馬鹿な奴もいたな。でも、ホントに悪い奴らだったら、逃げないで開き直るよな。まあ可愛いもんだよ。気質がいい奴らだったな。

調布移転の前後は俺が生徒指導主任を務めていたから、女子の制服の選定委員長は俺だったんだよ。保護者、女性教員、女性事務員で委員会を立ち上げて、2年くらいかけて選定した。女子は流行がどうとかいろいろ言うんだけど、古い新しいではなくて、10年後、20年後も考えなきゃいけない。

ほかにも、校名のMマークの統一、補助バッグ、クラブバッグ、手袋、マフラー、上履き、生徒会長と副会長のペア選挙制度への変更、パン販売業者の選定、調布校舎の食堂の選定とか、いろいろ手掛けたな。目安箱を設置したのは猿楽町の時代か。まあ、当時は男子校時代ってのもあって、ろくでもない意見ばかり入ってたけどな。

―生徒に接するとき、どのようなことを心がけてこられましたか？

俺は、すべての生徒を一人の人間として見て、その生徒が男子とか女子とか区別せずに接してきたつもりだよ。だから、基本的な生活習慣のことで、今、俺が叱ってやらないと、そいつが甘えたダメな奴になっちまうと思ったときは、相手が誰だろうと厳しくやってきた。

それと、生徒に理想を語って、お前ら生徒にも常に理想を求めて歩んで行けってことを俺は言ってきた。理想を語るってのは口幅ったいことではあるけれど、教師が理想を語らなくなったら、この国は終わりなんだよ。教師は生徒に何か迷いがあったら、そいつが答えを出せるように導いてやらないといけない。そばに寄り添って一緒に悩んでやるだけでは、そいつは答えを見つける前に卒業して、そのまま悩み続けることになっちまうかもしれないからな。

昨年の総明会の企画で、俺に授業をやってくれっていうのがあっただろう。あいつらも卒業後にいろいろ迷いがある中で、俺に「バカヤロー、違うだろう、こうだろう」と言われたかったんだよな。

教師がある程度のヒントとか示唆とか与えてやれれば大きく変われる奴らがたくさんいるんだよ。そういう奴らに対して、ただ教師が一緒にいてやればいい、寄り添っていればいいというのは、俺は違うんじゃねえか、と思うんだよね。

―バドミントン部の顧問として印象に残っていることはありますか？

バドミントン部は俺が着任した年に部として認められたんだよ。

創部から3年、高Ⅲの渋谷実がシングルスで国体に行ったんだけど、彼を送り出すときに体育館で開催した壮行会は印象に残っている。全校生徒を集めて、皆でエールを送ったとき、初めて男気とか男子校のまとまりを感じたね。

そこから、小林と大富がダブルスでインターハイに行ったり、団体で関東大会に出場したりと、バドミントン部の活躍の流れができた。この全盛期の頃のバドミントン部の意気とか集中力とかは凄いものがあった。みんなが集中して、工夫して、あれだけ練習に打ち込んでいたのを見て、俺はあの時代のバドミントン部は本当の意味で強かったと思う。当時は施設に恵まれた環境

ではなかったし、俺が着任して間もないときだったから、強烈に印象に残っているよ。

―調布移転・共学化で変わった点、変わらない点をお聞かせください。

移転して、単純に通学地域が変わっただけではなくて、その地域に住んでいる人たち、下町と調布の気質、そういった違いはあるだろうな。

猿楽町では下町の男子校だったから、母ちゃんたちにも男の子の学ラン姿が好きっていう学校のファンが多くて、俺が生徒をぶっとばしても、ありがとうございましたっていう母ちゃんが多かった。体罰が良いとは思わないよ。でも教師だってわけわかんないのに殴ったりはしないから。今やったら大変だけどな。

調布では共学化したけれど、中学生や高校生くらいの年代だと、男子より女子のほうが強いんだよな。女子のほうが精神的な成長が早いから、男子は女子に口で負けちゃうんだよ。今では見事に、生徒会長も女子、応援団長も女子だ。良いか悪いかではなくて、男子校の雰囲気がなくなっているのは仕方がないよな、男子校じゃないんだから。

明治大学に進学するのが9割くらいというのは昔から変わらないけれど、他に変わらないものがあるのか。時代や社会情勢が変わって、猿楽町にも、調布にも、それぞれ良いこと悪いことがあるだろう。でも、ふぐ屋の親父にしても、スクールバスの費用を支払ってまで明治高校に通わせているいまの保護者にしても、そこまでしてなぜ明治高校に通わせるのか。明治大学に行けるからっていう理由だけじゃないだろう。明治大学の付属の明治高校のあり方として、原点に戻って考える必要があるだろうな。

―今年の幹事学年のテーマは「つなぐ」です。「つなぐ」というテーマについて考えることをお聞かせください。

中学・高校時代は、家族よりも長い時間を仲間と過ごすわけだから、学校での時間をどう過ごすかは、人生に大きな影響を与える大事なことだよな。自分のやりたいことを見つけて、集中して全力で取り組む。苦しみも、悲しみも、恥ずかしかったことも、仲間たちと共有して、それを宝物にする。それがないと家族よりも長い時間を過ごす意味がないし、それが母校愛につながっていくんだろう。

教師は人間を教育しているわけだけれど、その人間が周りの人間に対してやさしい心を持てるとか、気遣いできるとか、当たり前のことをできるのが大事なんだよ。自分が自分がといった合理的な考えしかできない人間は問題だよな。人の情がある奴らだから総明会みたいな組織が続いているんであって、総明会に出るのが得だからといって出ている奴はいないだろう。得になんかならないけど、人の情があるから出ているんだよな。あのときにお世話になったとか、絆ができたとか、ただ懐かしいだけでなく、大切なことを学んだとか、感じたとかがあって、つながっているわけだろう。

いじめの問題とか、人間が人間らしさを失っていくのはなぜかというと、価値観が金だからだよ。そこには人間としてのあるべき姿とか、倫理観とか、情なんてものはない。日本人の伝統もなにもない。最近、グローバル化なんて言って、英語教育に力を入れているけれど、グローバル化なんて言うんなら、正しい言葉の意味を身につけて、日本の文化を英語でしっかり伝えられるように、そこを勉強しないといけない。

これから世の中は、予想できないことが多い、正解がない世の中になるだろう。そんな世の中で大事なのは、本物とか偽物とか、正しいとか間違いとか、そういったことを見極める力だ。その力をつける方法の一つは本だ。いろんな本を精読して、意味をしっかりとらえて、思考力を鍛える。日本語は言葉が豊かで、言葉そのものの意味が深いから、その意味の深い表現を使えるようになることで、思考力や洞察力が身に付いていく。英語だけでは、本物とか偽物とかをとらえる目だとか、思考力や洞察力は養われないんじゃないか。言葉の深い表現力を学ぶことで、思考力が深まる。物事をとらえる力とか目を養うなかで、感性が養われる。人としてやってはいけないことであるとか、感受性とか、惻隠の情とか、様々な力が養われていくわけだ。

だからこそ、子供たちが読みたいと思う本、子供たちに読ませたい本を周りに置いてあげるのは、大人の責任だと思う。

―先生にとって明治高校はどのような存在でしたか？

「目覚まし時計」みたいな存在だな。

26歳で着任して、65歳で定年を迎えることになった。専任教師として40年間務めてきたことになるんだけど、毎朝、お前らの顔が思い浮かぶんだよ。だから、どんなに辛くても、二日酔いでも、とにかく学校に行かなきゃいけない。学校でお前らが待っているんだからな。

―ご退任後は？

晴耕雨読だよ。まあ、しばらくはゆっくり休ませてもらうかな。

清水克悦先生ご退任インタビュー

平成4年卒
文 倉持 秀一

―先生が着任された頃の思い出をお聞かせください。

明治高校の講師になったのは、在学していた大学の就職課からの「明治高校の講師が急遽辞めることになったので、清水、代わりにいかないか」という話がきっかけでした。

それで明治高校を訪ねたわけですが、お茶の水の街は一等地ですし、老舗の本屋や楽器店が立ち並ぶ、歴史と文化の素晴らしい街なんですね。でも明治高校は、校庭は狭いし、校舎内は暗いし…あまり良い印象はなかったんですが、当時の教員室は専任教員と講師が一つの部屋に混在していて、アットホームな良い雰囲気だったんです。

それで勤め始めたのですが、講師として着任してはじめての席が松枝先生の隣の席だったんですけれど、専任教員の方々もいろいろと話しかけてくださって、改めて本当にアットホームな学校なんだな、と思いました。

―先生が着任された頃の思い出をお聞かせください。

初めて担任を持ったのは高校Ⅰ年生のクラスなんですけれど、当時は箱根の日帰り遠足という行事があったんです。その登山中の昼食休憩のとき、1人の生徒・・・K君が右足を骨折してしまったんですね。救急車も現場まで行くのは無理だということで、患部を固定したうえで生徒が4、5人ずつ組になってK君を抱えてなんとか下山しました。

麓で待機していた救急車で箱根の病院に行って、レントゲンを撮ったら、脛骨と腓骨の2本が日本刀で切ったように、きれいに切れていたんです。緊急入院するよう言われたんですが、箱根で入院するわけにもいかないので、バスでK君を東京まで搬送することになりました。バスの運転手にできるだけ低速で運行してくれとお願いして、お茶の水に着いたのは夜の7時でした。

到着を待っていたK君のお母さんは、我が子の顔を見るよりも先に、ほかの生徒たちにありがとうとお礼を言っていて。昔はそういうお母さんが多かったですね。それに、K君は下山から東京への移送まで、一言も痛いと言わなかったんですよ。お母さんに聞くと、男の子はいくら辛いことがあっても弱音を言ってはダメだと、普段から言い聞かせていますと。思わず笑っちゃいました。

生徒たちも素晴らしかった。下山中も移送中も、生徒全員でK君を励まし続けていましたし、その後、K君は5月から8月まで入院したのですが、その間、K君が授業の遅れで困らないようにと、僕は何も言っていないのに生徒自ら計画を立てて、授業のノートを持って、生徒全員で毎週お見舞いに行っていました。9月、K君の退院直後に実力考査があったのですが、たしかK君は学年順位一桁台だったと思います。K君は高入生で、わずかひと月程度の関係だったにもかかわらず、本校の生徒たちはK君に対してそういうことができる、しかも自分は何も指示していないのに。これって質実剛健、独立自治じゃないの?とすごく思ったんですよ。明治の良さを知ったなと。

―サッカー部顧問としての思い出は?

約20年前、そもそもサッカー部創部のきっかけは、生徒からの要望だったんです。順序は高校が先で、高校サッカー部の顧問が田中徹太郎先生、僕が中学サッカー部を引き受けました。最初は、グラウンドどうするの?誰が教えるの?という状態で、徹太郎先生がキーパーやって骨折したり、僕も素人ながら審判もやったりしてね。そこからやっと積み上げてきたことなんです。

創部当時は、猿楽町校舎にはもちろんグラウンドがありませんでしたので、ボールさえ蹴ることができればどこでも良いという状況でした。荒川の河川敷のグラウンドで活動していたのですが、荒川のグラウンドは色々な学校が使用するため、予約が取れていないときは、グラウンドの隅の雑草が生い茂る中でボールを蹴ったり、河川敷の周りをランニングしたり。他の学校の練習を眺めて終わるなんてこともあったんですよ。

当時は練習試合ができるなら、と埼玉まで遠征していました。グラウンドがないから、練習試合の相手を探すのも苦労してね、当時は携帯電話がなかったので、生徒が大量の10円玉を持って、事務室前の公衆電話から相手校に練習試合を申し込んだんですけれども、相手校から「グラウンドはありますか?」と聞かれて…1時間かけても全部断られたこともありました。

初の公式戦は慶応中等部が相手で、0対13の完敗。当時はサッカー経験のある生徒はサッカー部に入部してくれなかったんです。そんな練習しかできないし、当時の本校はバスケットが盛んで、サッカー経験のある生徒がバスケ部に流れたり、吹奏楽班に流れる生徒もいました。そんな時代です。公式戦の初勝利は創部から1年半かかりました。このときのことはよく覚えているんですけれども、新人戦で3対1だったかな、生徒たちと涙を流して歓喜しました。

―水泳部顧問としての思い出は？

学校にプールがないので、千駄ヶ谷のプールや千代田区の市民プールで水泳部の練習をしていました。自分が水泳の専門ではないこともあってたいした活動をしてあげられなくて申し訳なかったなと思っています。

思い出に残っているのは合宿ですね。当時はバスではなく電車での移動だったんですけれど、中1の生徒が電車の場所取りをして。猪苗代湖で合宿をしたんですけれど、風邪とか発熱とか…高熱を出した生徒もいました。

もう少し何かしてあげられたらと後悔の念はありますが、そんななかでも生徒たちは本当に一生懸命やっていましたね。

―調布移転・共学化で変わった点、変わらない点をお聞かせください。

学校の特長や生徒の資質は、調布に移転しても基本的に変わっていないと思います。生徒同士で勉強を教えあう、助け合う、ということは受験校と違うところだと思います。大学への進学に関しては昔と違って併願も推奨していますが、何故他校を受けるんだなんてことはなくて、それぞれの考え方を尊重していますね。一方で、気質は変わらないけれど、男子生徒は少しおとなしくなったかな、と思うことがありますね。

あと、昔は生徒がやりたいと思うことを生徒自身が計画してきて、「先生、こうしたいんですが良いですか？」と追認を求めるような感じでしたが、いまは「どうやるんですか？」と。どこでも同じかもしれませんが、その辺は寂しさを感じることがありますね。でも、本質的なところは変わっていない気がします。

それと、昔は文化部が盛んだったですよね。商業研究部、歴史研究部、図書班とか。昔は文化部にクラスの中心人物が結構入っていましたが…いまはほとんど運動部になってしまって、文化部が衰退傾向にある気がします。運動部と文化部の片寄りは残念ですね。文化祭も昔はもっと盛り上がっていた気がします。

―今年の幹事学年のテーマは「つなぐ」です。「つなぐ」というテーマについて考えることをお聞かせください。

調布に移転して11年目。サッカー部にはグラウンドがあり、指導陣も充実しています。最近ではサッカーがやりたいと入学してくれる学生も出てきて、高校サッカー部が60名、中学サッカー部は55名にもなった。レベルも着実に上がっています。

でも、いまそれがあるのもサッカー部の創部当時の努力があったからですよね。当時の生徒たちはほんとうに大変だったと思います。あの時がなかったらいまはないんだから。今年より来年のほうがいいよな、その次の年はもっといいことがあるよな、と少しずつ積み上げつないできました。それがなければ、いまどうなっているかわからないですよね。

僕が生徒に言うのは、何事も丁寧にやりなさいということなんです。勉強も、スポーツも、丁寧にやることが大事です。時間がかかっても、すぐに結果が出なくても、一つのことを丁寧に取り組んでほしい。

生徒にはテストの点数だけが重要ではないと言っているんです。ちゃちゃっと効率よく勉強すれば点数は良くなるかもしれないけれど、ノートを丁寧につくってしっかり勉強することのほうが将来につながるし、大事だと思います。

何事も丁寧にやったことしか、自分にとっての財産にならないような気がするんですよね。

―平成がもうすぐ終わります。先生にとって平成はどのような時代でしたか？

昭和の終わりに家庭をもって、平成2年に長男が誕生、その後3人の子供ができました。その意味で、我が家は平成とともにあったのかな、と思います。

ただ、日本の国にとっての平成は…平成の始まりって日本の国が元気だったじゃないですか。日本の製品の品質の高さは世界の憧れで、いろいろな国が日本を見習えという感じで平成が始まったんですけれども、時代の流れとともに、品質の良さよりもマーケティングのうまさが問われるようになって、中国はどんどん伸びてくるし…経済のことは詳しくないけれど、だんだん日本が沈んできてしまったのかな、このままじゃいけないよな、と感じます。日本の良さが出てこないですよね。

―先生にとって明治高校はどのような存在でしたか？

明治高校は自分にとってしあわせな存在でした。良い生徒たちの前で授業ができて、しかも給料がもらえる。友人にも教員がいますが、全然違うと思います。本校の生徒はすごい。そこそこ勉強するし、やさしいし、思いやりもある。本当に自分にとって幸運だったと思います。

土日はないし、残業もあって、忙しいといえば忙しいんですけれど。でも、教員は嘘を言わなくて良いじゃないですか。正しいことを言えば、それを生徒がしっかり受け止めてくれて。勤務時間は長いですが、ストレスはないですよ。

―ご退任後は？

退任後は料理をやりたいんです。得意料理はないんですが、ちゃんと料理教室に通って、いろいろやってみたい。料理も丁寧にきちんとやれば一つの芸術かな、なんて思うし、人に食べてもらえばしあわせになってもらえますしね。

M 班・部活動の記録／資格試験・表彰

PTA会報

2018年12月21日号、2019年3月10日号・7月19日号

《班・部活動の記録》

吹奏楽班
第58回東京都高等学校吹奏楽コンクール大会
〈A組〉　金賞
〈B1組〉　金賞
2018年度全日本吹奏楽コンクール
東京都大会
〈A組〉　銀賞

放送班
東京都高等学校文化祭
〈放送部門朗読部門3年生の部〉
第2位　高Ⅲ　清　永
第3位　高Ⅲ　川　島

書道部
第63回全国競書大会(日本書道美術院)
高野山金剛峯寺賞　高Ⅰ　藤　原
全国競書大会賞　高Ⅱ　渡　邉
高Ⅰ　田　中

第103回書教展席書大会　団体優秀賞
〈毛筆の部〉
読売新聞社賞　高Ⅲ　倉　島
審査委員長賞　高Ⅱ　横　山
〈学生部毛筆の部〉
審査委員長賞　高Ⅲ　倉　島

映画部
第14回高校生フィルムコンテスト　優秀賞
高Ⅲ　多　田
高Ⅲ　阿　部

剣道部
東京都高等学校夏季剣道大会
〈個人戦〉　ベスト16　高Ⅲ　木　口
〈団体戦〉ベスト32　高Ⅲ　木　口
高Ⅲ　野　田
高Ⅱ　菅　田
高Ⅲ　牧　野
高Ⅲ　鈴　木
高Ⅱ　伊　井
高Ⅱ　野　口

第58回調布市民体育祭剣道競技
〈一般女子の部〉　準優勝　高Ⅱ　長谷川
〈中学2・3年生男子の部〉
準優勝　中3　本　田
第68回三鷹市市民体育祭スポーツ大会
剣道競技
〈女子団体の部〉　第3位　高Ⅱ　伊　井
高Ⅱ　野　口
高Ⅰ　内　山

硬式野球部
明治大学付属三高校対抗野球大会
Bグループ　優勝
春季東京都高等学校野球大会
第12ブロック　優勝

水泳部
第52回三多摩高等学校水泳競技大会
〈男子100m平泳ぎ〉
第1位　高Ⅲ　石　川
〈男子200m自由形〉
第3位　高Ⅲ　守　田
〈男子200mリレー〉　第3位
高Ⅲ　石　川
高Ⅱ　守　田
高Ⅱ　田　所
高Ⅰ　佐　藤

スキー部
第24回クロスカントリークラシカル競技会in黒姫
〈女子5㎞高校生の部〉
第3位　高Ⅰ　足　立
第74回国民体育大会冬季大会スキー競技会
出場決定　高Ⅰ　足　立　中3　小　野
第56回全国中学校スキー大会　出場決定
中3　小　野　中3　宇佐原
中3　小　川　中3　佐　川
第54回関東高等学校スキー大会　出場決定
高Ⅲ　小　倉　高Ⅱ　伊　東
高Ⅱ　佐　藤　高Ⅰ　足　立
高Ⅰ　足　立　高Ⅰ　緑　川
第68回全国高等学校スキー大会　出場決定
高Ⅲ　小　倉　高Ⅰ　足　立

ソフトテニス部
東京私立中学校男子ソフトテニス選手権大会
〈個人戦〉　第3位
中3　成　田　中2　海江田
東京都高等学校体育連盟ソフトテニス
女子専門部主催普及研修大会
ブロック優勝　高Ⅰ　尾　花
高Ⅰ　佐　藤

バレーボール部
第64回東京六大学附属バレーボールリーグ戦
〈高校男子〉　準優勝
平成30年度夏季大会
〈高校女子〉　第3位
東京都バレーボール新人リーグ戦大会　第2位

バスケットボール部
平成30年度第9ブロック中学校
バスケットボール選手権大会
〈男子の部〉　第3位(都大会進出)
第34回東京私立中学校バスケットボール大会
〈男子・新人戦〉　ベスト16
第49回調布市中学校対抗競技大会
／バスケットボール競技
〈男子の部〉　第3位

バドミントン部
第58回調布市民体育祭〈個人1年の部〉
女子シングルス
第1位　中1　上　田
第2位　中1　諸　星
第3位　中1　諸　星
中1　清　原

陸上競技部
第69回東京都中学校地域別陸上競技大会
〈女子2・3年走幅跳〉
第8位　中3　那　波

硬式テニス部
東京都ジュニアティームテニスチャンピオンシップ
第3位　高Ⅱ　清　川・田　坂
高Ⅰ　田　中・星　川
第4位　高Ⅱ　相　川・荒　井・渡　邉
高Ⅰ　黒河内
第57回東京都高等学校新人テニス選手権大会
〈シングルス〉本選出場
高Ⅱ　渡　邉　高Ⅱ　田　坂
高Ⅱ　新　井　高Ⅰ　星　川
〈ダブルス〉本選出場
高Ⅱ　田　坂　高Ⅰ　田　中
高Ⅱ　新　井　高Ⅰ　星　川
東京都高等学校選抜テニス大会
〈団体〉　第7位
高Ⅱ　新　井・田　坂・渡　邉
高Ⅰ　星　川
第43回東京都私立中学高等学校
テニス選手権大会
〈男子団体の部〉ベスト4進出
高Ⅱ　相　川・新　井・清　川・田　坂・渡　邉
高Ⅰ　黒河内・田　中・星　川
中3　門　野
第58回調布市民体育祭テニス競技
〈男子シングルス高校2・3年生の部〉
優勝　高Ⅱ　田　坂
〈男子シングルス高校1年生の部〉
優勝　高Ⅰ　星　川

平成30年度東京都私立中学高等学校
テニス選手権大会
〈団体の部〉　男子第3位
※全国私立高等学校テニス選手権出場決定
〈個人の部〉
男子ダブルス準優勝　高Ⅱ　新井
　高Ⅱ　渡邉
男子ダブルス第5位　高Ⅱ　田坂
　高Ⅱ　相川
男子ダブルス第17位　高Ⅰ　田中
　高Ⅰ　黒河内
男子シングルス第5位　高Ⅱ　渡邉
男子シングルス第9位　高Ⅱ　新井
男子シングルス第17位　高Ⅱ　田坂
男子シングルス第33位　高Ⅲ　牛窪
女子ダブルス第33位　高Ⅱ　菅沼
　高Ⅱ　田村

東京都高等学校テニス選手権大会
〈個人シングルスの部〉
本選出場17位　高Ⅲ　田坂
本選出場　高Ⅱ　星川
〈個人ダブルスの部〉本選出場
高Ⅲ　新井　高Ⅲ　渡邉
高Ⅲ　相川　高Ⅲ　田坂

調布市中学校対抗競技大会
〈ダブルス〉優　勝　中3　門野　中3　若園
〈ダブルス〉準優勝　中3　北川　中3　小山
〈ダブルス〉第3位　中3　北目　中3　中保
中2　堀切　中2　町田

第57回東京都中学校総合体育大会
〈団体の部〉　第15位
中3　北川・北目・小山・中保・門野・若園
中2　内藤・堀切　中1　鴨川・湯原

東京都中学校新人テニス選手権大会
〈個人の部〉ダブルス第5位(都大会進出)
中2　内藤　中1　鴨川
〈団体の部〉第9位
中2　井川・石井・川元・ゴルバーグ・杉田・
瀧澤・内藤・早川・堀切・町田・宮尾
中1　鴨川・松川・湯原

第58回調布市民体育祭テニス競技
〈シングルス中学生の部〉
優勝　中3　門野

東京都多摩地区中学校テニス大会
〈女子団体の部〉　第3位
中3　小山・下山・須貝・高山・辻・古川・巻渕

平成30年度多摩地区中学校新人テニス大会
〈男子団体〉　第3位

東京都中学校テニス選手権大会
〈第9ブロック予選〉男子ダブルス
第5位　中2　内藤
中1　鴨川

東京都中学校テニス選手権大会9ブロック
〈個人シングルスの部〉本選出場
5位　中3　内藤
〈個人ダブルスの部〉本選出場
5位　中3　内藤
中2　鴨川
9位　中3　堀切
中3　町田

ダンス部

第7回日本中学校ダンス部選手権
東日本予選大会
(産経新聞社ストリートダンス協会)
全国決勝大会進出

第6回全日本小中学生ダンスコンクール
東日本大会　(朝日新聞社)　金賞

中学野球部

第49回調布市中学校対抗競技大会　優勝

第9ブロック秋季大会　優勝

サッカー部

第97回全国高等学校サッカー選手権大会
東京都大会2次予選Aブロックベスト16

東京都中学校サッカー新人大会第9支部予選
準優勝(東京都新人大会進出「創部初」)

第62回東京都中学校サッカー新人大会
ベスト16
第49回調布市中学校対抗競技大会　優勝

平成30年度第9ブロックサッカー新人大会
(東京都中学校体育連盟)　準優勝

東京都国際ユース(U-14サッカー大会)12位
選抜選出　中2　小野

《資格試験・表彰》

日本商工会議所第149回簿記検定
1級合格　高Ⅱ　清田

第43回プレゼンテーション作成検定試験
2級合格　高Ⅲ　岩谷

第115回日本語ワープロ検定試験
2級合格　高Ⅲ　佐藤

第113回情報処理技能検定試験
2級合格　高Ⅲ　粟野

第65回文書デザイン検定試験　2級合格
高Ⅲ　橋本　高Ⅲ　神澤
高Ⅲ　竹道　高Ⅲ　山崎
高ⅢD　尾崎　高Ⅲ　髙橋
高ⅢD　南　高Ⅲ　牛窪
高ⅢF　藤澤　高Ⅲ　岩谷

校内漢字検定　特準2b級
中3　野中　中3　西守
中3　野平　中3　古川
中3　髙橋

明治大学文学部第10回読書感想文コンクール
優秀賞
高Ⅲ　柳川　高Ⅲ　川野
高Ⅲ　倉石　高Ⅲ　倉島
高Ⅲ　貫井　高Ⅲ　森下
高Ⅲ　小倉　高Ⅲ　村井
高Ⅲ　玉氏　高Ⅲ　島崎
高Ⅰ　齊藤

第58回国際理解・国際協力のための全国
中学生作文コンテスト
日本国際連合協会東京都本部
銀賞　中3　曽我

第7回鎌倉文学館こども文学賞
〈中学生の部〉
大賞　中2　饗庭
入賞　中2　鈴木
中2　石井

平成30年度中学生の「税についての作文」
教育長賞　中3　荻野
東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞
中3　芦川

平成30年度「税に関する高校生の作文」
東京国税局長賞　高Ⅲ　竹本

第9回いっしょに読もう!新聞コンクール
優秀賞　※「学校優秀賞」も受賞
高Ⅰ　三島　高Ⅰ　福島
中3　戸田

第10回東京駅伝大会
調布市中学生代表選手選出　中2　瀧見

第16回日台文化交流青少年スカラシップ
優秀賞(副賞台湾5泊6日研修旅行)
中1　加藤
奨励賞
中1　諸星
中1　津島
中1　澤木

実用英語技能検定
1級合格者　高Ⅲ　鈴木

OB・OG 活動報告

OB OG ACTIVITY REPORT 2019

猿楽会（さるがくかい） 昭和26年卒

熊井　実

猿楽会の皆様お元気ですか。十年前の会合を最後に、諸々の連絡をせずに今日に到りました。永らくの御無沙汰、大変に申し訳なくお詫び申し上げます。私達も高齢者の仲間入りで、来年には米寿を迎える年となりました。
致し方ないこととはいえ、残念ながら多くの友が他界しておりますが、未だ元気に現役で活躍しておられる友が他の年代より多いと聞いております。しばらくぶりで皆で楽しく交流の手始めに、改めて名簿を作りたく思います。
ご連絡取れる友を含めぜひ、小生 熊井実に御連絡されます様お願い致します。

〒101-0054　東京都千代田区神田錦町1-8　　TEL & FAX　03-3291-1831

一人でも多くの友の消息が分かることを楽しみにしております。宜しくお願い致します。
皆で元気にお会い出来る日を願い。

明高会（めいこうかい） 昭和27年卒

米山 耕右

令和元年の改元と、天皇陛下ご即位を記念しての神田明神大祭を5月15日、江戸三大祭の名にふさわしく、無事盛大に終了し、私ども内神田鎌倉町会もホッとしております。神田明神の氏子は神田方面と日本橋の明治座、水天宮方面の108町会が氏子です。もちろん明治中学・高校の旧校舎のあった猿楽町も氏子です。現在旧校舎は明治大学猿楽町校舎となっており、その一角にはOBで、マンガとサブカルチャーで有名な米沢嘉博記念図書館となっております。5月10日の御霊入れに始まり11日の町内廻り、12日の宮入りと氏子108町会の中、50基近くの御輿が神社に参拝しました。この半数近くの20数基は浅草の宮本商店作であり、宮本さんは明治大学の同窓生＝校友であります。

総明会の卒業生は殆どが明治大学へ進学されております。総明会の会長でありました向殿会長（明治大学名誉教授）は、現在明治大学校友会の会長であります。現在、明治大学創立140年に向かって種々と御苦労されております。私ども明高会の黒子昇氏は、4月末現在2750万円（累計）を奨学金として大学へ贈呈しております。年間5千円でも10年で5万円です。少額でも基金として贈呈したいものです。

私、米山は六年前に脳幹出血で右手と右足が不自由となり、現在リハビリ中です。

皆さん、同期の方の消息を FAX.03-3251-8270 または、〒101-0047 千代田区内神田2-3-2 へお知らせ下さい。

本年は総明会も55回となり、11月24日（日）には新宿のハイアットリージェンシーで開催されます。多くの方の参加を希望しております。

平成22年　藍綬褒章受章　明治大学校友会千代田区支部名誉支部長　米山　耕右

29会（にいきゅうかい） 昭和29年卒

山本 峰司

早いもので最後の神楽坂の会より4年近く元気でいます。電話もなく、わずかに阿出川・近藤君などからかかってきました。突然鈴木康夫君の立ち寄りを受けビックリでした。だんだんに通話もなくなり、死亡の話もなく84～85才ではさぞと思いますネ。年号も三代とビックリしたりです。戦争・食糧難・好景気・不況・長寿社会と、取りようによっては実に色々と経験し、幸せな年齢を重ねたのかも。

私も革新和菓子船橋家と、私なりに大革新をし、早60余年。親、先祖120余年と続けることができました。代々に続ける難しさや、世の変わりの早さ、人間の変わりようと我々にはただビックリです。日本人としてのステータスは今どこへ。ありがとう、思い想うの心なし。

総明会と名づけた会合でも先輩方の話しも思う（自分を）、想う（相手を）とずいぶん話しはでました。その実が明朗会でしょう。どうぞ益々の絆と想いやり、社会でも広めて下さい。祈っています。人間の作りなおし、学校・総明会と協力してやって下さい。

明楽会（めいらくかい） 昭和31年卒

佐藤 健一

第55回「総明会」開催、おめでとう御座居ます。55回の節目であり、新元号令和と共に新しい時代を迎え、総明会が意義深く思われ、新たに心をうたれる思いであります。毎年此の時節には、我々「明楽会」も年一度の総会を迎え、会員一同楽しみにしております。三時代の荒波を過ごし、今、後期高齢の社会へ突入し多くの仲間ががんばっております。

「明楽会」も此の写真の通り昨年は品川プリンスホテル「五十三次」に於いて開催、二十数名の仲間と旧友の絆を結束、賑やかに催されました。会員各氏の会話に老齢介護や自身の体調不良と、人それぞれの心身等に頑張り、個々の外出もままならない現状です。会員一同「総明会」の小冊子の発刊で母校の様子を知る、只ひとつの喜びをかみしめております。後輩諸代の編集・作成等に御尽力頂き感謝しております。これからも幹事諸代の朗報を期待してやみません。

本年も「明楽会」開催を11月1日（金）午後5時より、同期会員矢野氏のご好意により、浅草老舗「やっこ」にて催すことになっております。此の会報が皆様のお手元に届く頃にはお知らせ出来る事になっております。一人でも多くの仲間がお顔を合わせられる事を期待してやみません。これからも「総明会」の発展を心より祈念しております。「総明会」開催にあたり幹事学年の御苦労を「明楽会」会員一同感謝し、御礼申し上げます。

明治会（めいじかい） 昭和32年卒

山崎 敬生

戦後の復興も半ばの昭和26年4月に明治中学の門をくぐった紅顔の美少年達も、早や、傘寿を迎える歳となった。

昨年11月20日、銀座ライオンのクラシカルな会場に仲間が集い、互いの傘寿を祝し、出会いを楽しんだ。240名を超した同期も今や名簿に残るのは半分となり、音信不通も多い。淋しいのは家族からの訃報の知らせであり、闘病の仲間からのやむなき不参加である。

不定期に開いていた同期会も歳を重ねる毎に「二年に一度にしよう」「否、一年半でどうか」等、残りの余生を数え、会う瀬を大事にしたい思いが各々に語られてきた。

今回は傘寿の節目でもあり早々の一年目の開催としたが、まるで待ち望んでいたように、近年では最高の31名の参加となった。

うれしいことは高卒以来初めての参加者もいたことである。この世に生まれ八十年、お互い様々な人生の長い旅路を歩んできても、出会えた瞬間から明中・明高生の少年の顔つきに戻る。うれしい同期会である。

旧雨会（きゅううかい） 昭和34年卒

秋山 義昭

えぇ〜！！ 甲子園に春・夏連続で明治高校は出場したのですか！

昭和、平成、令和元年を迎えた猛者が開催する我が「旧雨会」メンバーは御年79歳となります。今年もゲストに総明会年度代表幹事、平成4年卒「快汗、どすこい塾」小畑啓氏、荘司康夫氏2名とカメラマンとして「男坂倶楽部」栗田茂さんを迎えて、総勢40名の盛大なパーティーとなりました。今年も同期のアントニオ古賀君と立教中学3年生になった息子さんとのコラボでのミニディナーショーからスタート。

懐かしい同期生とは忌憚のない意見の交換で懇親を深め、銀座ライオンの生ビールとコース料理に舌鼓を打ち、“オイ！オマエ！”の連呼！宴席の途中には、ゲストの「快汗、どすこい塾による総明会・懇親会のプレゼンテーションもあり、後輩達も甲子園に春・夏連続で参戦した野球部員との会話で、明治高校の良き時代を体験いたしました。最後のメはゲストの荘司康夫君が元應援團ということもあり、テクを取ってもらい大声で校歌斉唱。会場風景、集合写真撮影は栗田氏が協力を申し出てくれて撮ってもらい、今年もいい思い出になりました。色々な情報を共有する意味での「友情の広場」としての同期会。“明治高校愛”を感じて、来年の4月11日（土）に再会を約束して閉会いたしました。

【明治高校昭和34年卒同期会】旧雨会 音楽ビアプラザ・銀座ライオン（2019年4月13日） 【明治高校昭和34年卒】旧雨会担当窓口 秋山義昭

二年に一会（にねんにいっかい） 昭和38年卒

三浦 昭生

あゝ 後期高齢者

昭和の高度経済成長期、平成となり2年に総明会の幹事学年を拝命、そして令和を迎え気がつけば後期高齢者。昭和32年から38年までの6年間、明中、明高で1日でも机を並べた同期生すべてが会員の「二年に一会」です。卒業の翌年、会長・三浦昭生を中心に第1回の総会を開催して以来、会名のとおり2年に1回一度も欠かさず同期会を開いており、ここ10年は毎年開催、旧交を温めています。

この半世紀超、毎回趣向を変えホテルでのパーティー、本場中華街での会食、隅田川、清澄庭園と都内の名所での昼食会と多種多様。昨年は明治大学リバティタワーで第33回を開催（写真）。本年も10月19日（土）日本橋・東洋で第34回を開催の予定でおります。本年の総明会のテーマは「『つなぐ』〜Meijiの薫りを令和へ〜」。「二年に一会」はこれからも新時代へつないでいきます。このように長く続けてこられたのもすべて同期会の仲間のおかげと感謝しております。私たちも75歳、喜寿も目前となりました。誌面をお借りして同期生に呼びかけます。何でも結構ですからご連絡をお待ちいたします。最後に第55回総明会の成功を祈念し、同期会の報告とします。（文責：服部 紀夫）

〒135-0005 東京都江東区高橋14-20 関戸 淳一 TEL 03-3631-2008 FAX 03-3631-2548 PCメールskido-f@amber.plala.or.jp

39会（さんきゅうかい） 昭和39年卒

佐藤 仁

いよいよ次は喜寿の祝いの会

平成27年に“古希を祝う会”を盛大に開催し、3年ぶりに昨年10月に39会同期会を開催致しました。52名の同期の参加を得て、いつもの定例会場、同期の北村君の店“日本橋東洋”にて楽しく開催致しました。マンクラＯＢのマンドリン演奏、明大応援団チアリーダーのダンス、若さ溢れる演技に皆で元気をもらいました。7月には同期の海田耀市君が“全国酒販協同組合連合会”の会長に就任し、そのお祝いを同じ会場で開催し同期を中心に親しい友人が集まりました。とにかく70を過ぎてから全国組織の会長に就任したことは、海田君の人徳と組織への貢献度の高さが評価されたことと思います。我が学年同期としても大変誇りに思うところです。体調に留意して大いに活躍してもらいたいです。写真は海田君のお祝いの会の写真です。

次回は77才“喜寿を祝う会”、盛大に行いたいと思っています。さすがに元気とは言ってもあっちこっちいろいろ支障が出てはいますが、出来る限り同期の皆に集まってもらい、会場はいつもの北村君の店“日本橋東洋”で肩組み合って「おおー明治、白雲なびく」を声高らかに歌いたいものです。

四一明友会（よんいちめいゆうかい） 昭和41年卒

廣瀬　準

「『つなぐ』～Meijiの薫りを令和へ～」という今年は、平成から令和へと引き継がれた改元の年であり、我が「四一明友会」も4月13日に一年に一回の会を開催させて頂きました。そこで皆と話しをして、もう72才という年を重ねてきてこれからどうしたらいいかと話し合ったら、やはり明治が甲子園に出場したのが僕らの年の昭和40年の「第37回選抜高等学校野球大会」に出場したことだと意見が一致しました。

試合内容はまず皆で東京駅まで行って校歌を歌い、島田校長先生も御挨拶をして選手達も皆きちんと並んでお見送りしました。

試合結果は、第一回戦は、田原本高校に勝って勢いも出て第二回戦は岡山東商業高校でした。結果は1対0で負けてしまいました。

この優勝した岡山東商業高校の投手は平松投手で素晴らしい選手でした。平松投手は、後に大洋ホエールズに入って200勝投手になりました。令和になって今年こそ甲子園に出て頂きたいと思います。

M41（えむよんじゅういち） 昭和42年卒

朝貝 省吾

M41同期会2020　開催予告

前回2018年6月2日（土）に開催しましたが、2年ごとですので、次回は2020年オリンピックイヤーの6月6日（土）に開催を予定しています。

我々M41同期も卒業50年以上が経ち、70歳を超え足元が少しずつ不安の方も増えつつ、一方まだ十分に活力溢れている方もいらっしゃいます。そのため議論を戦わせた結果、開催時間を午後1時といたしました。（本当？！）

また会場もJR、地下鉄の駅近くを設定しました。（但し坂道あり！）是非皆様の参加（前回30名ですが、今回50名以上）を期待しております。

日時：令和2年6月6日（土）午後1時から3時　場所：お茶の水　ホテルジュラク2階　レストラン「あけびの実」
直通　03-5298-7125　東京都千代田区神田淡路町2-9　会費：5000円
幹事団：朝貝省吾・伊藤謙一・倉又光仁・後藤孝男・佐藤茂和・町田菊男・村西一郎
＊次々回は、2022年6月4日（土）の予定です。そしてさらに「つなぐ」！！　写真は開催予定会場です。

紫讃会（しさんかい） 昭和43年卒

志村 一夫

古稀を迎えて

令和元年度、我々の仲間は好むと好まざるとも全員が古稀（70歳）を迎える。人生の節目でもあり、本年9月7日銀座オーラムにおいて「W35 celebration party」と銘打って古稀のパーティーを行う予定です。

10年前の還暦を祝う会の時は、130人を超える参加者（同伴家族を含む）があり、大いに盛り上がり忘れられないひと時を過ごすことが出来ました。古稀のパーティーも明治魂、老人パワーを遺憾なく発揮し、心に残る会にすべく佐久間、三田を中心とする世話役が頑張っています。当日が来るのが今から楽しみです。

（追伸　同期の皆様へ）人生100年、まだまだ、元気で、明るく、楽しい生活を送らなければなりません。紫讃会では、旅行、ゴルフ、飲み会等を実施しています。特に、定例の飲み会は原則毎月第4土曜日に寺田君が経営する「水新菜館」（浅草橋）で行っています。まだ、参加されたことのない方で同期の顔が見たくなったら、三田幹男（090-2222-3044）に連絡の上ちょっと顔を出してみてください。大歓迎です。写真は、今年4月の定例の飲み会の集合写真です。楽しい酒が飲めます。

男坂倶楽部（おとこざかくらぶ） 昭和44年卒

中河 孝樹

卒業50年　男坂倶楽部

今年で明治高校を卒業して50年になりました。年に一度の今年の総会は、明治大学1号館リバティタワー23階記念ホールを借りる事ができ、奥方、後輩をいれて総勢66名で開催されました。毎年、総会は開催されますが今年は令和元年であり、また卒業50周年ということもあり、同期の息子さんのバンドを入れたり、奥様方に頼み込んで同伴出席したり、幹事・同期が力を入れて頑張りました。おかげ様で参加した方々よりいい会だったと賞賛メールもいただいております。男坂倶楽部総会に毎年参加されていた村野先生が去年亡くなり、今年は山脇先生が亡くなりました。とうとう私たちに縁がある恩師は桜井先生だけになってしまいました。連絡の取れる同期生のなかでも、すでに30名以上が亡くなっています。また闘病中や治療中の仲間も少なくはありません。同期の一人が作ったスローガンは「減っても増えない同期生」です。

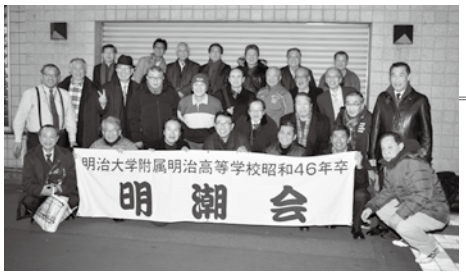
あと何年続くか定かではありませんが、男坂倶楽部の名のもと、皆で集まり絆を深めていきたいと思います。最後に残る一人は誰かな～？？

獅子の会（ししのかい） 昭和45年卒

吉田 繁夫

妙なもので、在学中は普通であったものが、年をとるごとに獅子の会は、よく集まり、よく呑み、下ネタから文化論までよく語り合う集団となり、益々盛んになるかのごとくです。先輩後輩諸氏の会も同様でしょうか。4年ごとの総会には100人近い人数が集まるだけでなく毎年は、元落研の同級生、三宅裕司くんの舞台を年2回見に行って大笑いし、春秋には元バスケ部、中野和博くんの店「割烹魚喜代」で季節の肴に舌鼓を打ち、年末は元ブラバンの藤掛聖二くんと元テニス部の私のバンドが主催する「銀座ケントス」貸切ライブに行って大騒ぎします。余談ですが、この4人は大学時代、ともにバンドでキャバレーに出演していたのですから妙なものです。

ほかにも、後藤先生を囲む会や、隅田川花火を見る会、桜を見る会、落語を聞く会など多彩で、皆よほど暇なのかというほどですが、最近元柔道部の松本勝彦くんが亡くなり、すでに鬼籍に入る同級生も少なくありません。櫛の歯が欠けるような思いですが、同時にその分、残る時間を謳歌しようと意気込みは盛んです。2020年は私たちの卒業50周年にあたります。元応援団、比留間竹郎くん、元テニス部、上野隆史くんらは、オリンピック・パラリンピックにも劣らない総会にしようと意気込んでおりますが、間違っても警察の厄介にはならないよう自戒も忘れないとも言い、妙に張り切っています。



明潮会（めいちょうかい） 昭和46年卒

安澤 喜二郎

昭和・平成の潮流を駆け抜けて令和へ

明潮会は、在校当時の福島校長先生より「時代の潮流になれ、明治の潮たれ」と拝命頂き、それをモットーに活動をしてまいりました。

振り返ってみますと、我々の世代は30代半ばまでの昭和の時代は、若き血潮で様々な仕事を貪欲に吸収し、30代後半からの平成の時代にその潮は最高潮に達し、様々な持ち場で中心的な役割を担い、必死に両時代を駆け抜けてまいりました。

令和の時代になり再来年に卒業から50年となりますが、この半世紀を振り返りながら、仕事を続けている者も退職して新しい生活の者も、我々の培った明治の潮を次の世代へしっかりと引き継いでいきたいと思っています。

明潮会では、毎年数回の幹事会、新年会と納涼会を行い、1年おきに総会を行っています。おかげさまで参加する人数も増えてきております。今年の新年会では、剣道部前助監督木村茂七段の案内で調布校舎の見学も併せて行いました。我々の時代とは全く違った雰囲気の中にも、渦巻いている明治の潮を感じつつ、後輩たちを大変頼もしく感じました。

今後一層健康に留意して、いつまでも元気に楽しく語り合えるよう旧交を温めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

四七四七同志酔会（よなよなどうしようかい） 昭和47年卒

戸張　毅

四七四七同志酔会は昨年、永年母校に奉職されました「田中徹太郎君の退職を労う会」を行うことができましたこと、報告いたします。

新しい時代へ「つないでいきたい」。昨年明治高校の生徒24名参加にて、キャリアクエスト講座（建築・実習編）を明治高校と新宿駅西口広場にて実施しました。昨年9月に2日間実施した空間造形のワークショップです。1日目は学校にて割箸縮小モデルの作成と角材の結び方、2日目は新宿駅西口広場で開催中の「けんちくふれあいフェア」での縮小モデル発表と角材の組立て作業です。両日とも5～7名のグループ毎の作業であり、慣れない体を使っての学習です。特に2日目は行き交う人も多く、そのなかでの縮小モデル発表でしたが、コンセプトもしっかりとし頼もしかったです。共同作業の作品作りでは、2時間で空間造形を構成することができました。作品は縮小モデルの拡大版で、迫力と重量感をもった仕上がりになりました。終了後の生徒の感想は概ね好評で、建築設計に興味が増し、将来は建築設計の道に進みたいという嬉しい言葉もありました。結びになりますが、このような機会を設けてくださいました安藏伸治校長先生、生徒の募集、校内の説明等でお世話になりました関根正人先生、2日間お手伝いいただいた比留間竹郎先輩、参加生徒諸君に感謝申し上げます。

明紫会（めいしかい） 昭和50年卒

塚田 真弘

「つないでいきたい」または「つないでもらいたい」

私たち【明紫会】は年に一度の総会・懇親会とゴルフ大会などを通して交友を温めております。数年前からは同期の窪寺弘匡くんが中野にステージ付きのレストランを開業したので、毎回素敵なミュージシャンを招き大いに盛り上がっております。卒業以来45年、【明紫会】の友情も年月を重ねるごとに深くなっていくように感じています。このような意義ある同期会が各年代で行われ【総明会】へとつながっている。そしてその【総明会】が55回目の節目を迎えた今回、この壮大な輪を各年代につないでいきたいものですし、若き年代の方々にもつないでもらいたい気持ちです。さて、つながるといえば私の所属していた【明治大学落語研究会】も60周年を迎えました。輩出したOB達は芸能界・政財界で大きな活躍をしています。その芸能界で活躍するOBだけを集め10月26日に有楽町朝日ホールにおいて【明大落語会】を開催いたします。皆さまもご存じの三宅裕司さんは明治高校から落語研究会に入り芸能界でその道を究めました。そのほかも【明大落研】出身の立川志の輔さんをはじめ人気落語家や芸人たちが多数出演する【明治大学の落語会】ですからみなさま是非お誘い合わせの上お越しください。また、「つないでいきたい」・「つないでもらいたい」という意味で、明治高校・中学に日本伝統芸能としての【落語研究会】が創部されることを期待しています。

明々会（めいめいかい） 昭和51年卒

萩原 秀紀

「明々会の開催」

まだ梅雨の明けない7月13日（土）、小雨の降る中、毎年恒例の昭和51年卒業生による「明々会」総会と懇親会を、これまたいつもと同じ「上野蓬莱閣」（中華料理）で開催し、来賓の清水先生を含め32名が参加しました。また、その直前に行う恒例のゴルフコンペも9名が参加し、千葉県木更津市のアクアラインゴルフクラブで無事開催されました（もっとも、交通事情によりコンペ参加者の一部は総会の開始に間に合いませんでしたが）。今回の総会においては、我が同期の井家上哲史君（明治大学理工学部教授）を総明会の会長に推薦する旨の推薦状を提出したことが報告されました。同期が総明会の会長になるというのは大変うれしいことであり、当然のことながら懇親会は大いに盛り上がりました。推薦した以上、我々も応援団として井家上君を力強く支え、総明会の発展に協力していこうという雰囲気が高まりました。さて、今年78歳を迎えられた清水先生ですが、ますますお元気なようで嬉しい限りです。60代の我々が圧倒されているような感じでしたが、清水先生を見習って、第2、第3の人生を元気に歩んでいきたいものです。来年は東京オリンピックが開催されますが、その開会式の直前である7月の第2土曜日に行う予定の明々会総会・懇親会でも、皆が元気に顔を合わせることを誓い、散会しました（もっとも、清水先生を含め、相当数のメンバーが、最寄りのフィリピンパブの二次会に突入し、引き続き盛り上がりました）。

男子校根性組（だんしこうこんじょうぐみ） 昭和52年卒

佐藤 大英

つないでいきたい明治の思い

昨年私たちは還暦祝賀会にて多くの友と再会した。最初は神田明神様にて厄払い、祝賀会は明治大学紫紺館にて約70人が出席し、その後二次会、三次会へ。参加者には高校卒業後初の再会だった人もいた。他界して再会できなかった友も想像以上にいたのがショックだった。再会した友達は様々な職業役職だが、同窓という共通項一つで、それらを超えて、無垢の当時のまま対等に話せる事は、心安らぐ楽しいことの大きな要因だ。出世した友に対しては、我が事のように誇りに思い、悲しみの中の友には心同じに悲しむことができる。また、必要とあれば自分の力を発揮して役立つこともできる。友とは有り難いものである。

私たちの在学中は暴力が蔓延していた。力のないもの、要領の悪い者、正直な者はいたたまれなかった。教師が暴力のない世界を示していなかった。学校に安心して自己を表現できる場所がなかった。

そんな明治も変わったようだ。母校明治は、平成時代の中で飛躍的に進歩した。そして令和へと、さらに進化していくのだろう。42年経過して殴られたことが思い出話にならない様な学校に。明治らしいリベラルさを求めて。

明誠会（めいせいかい） 昭和54年卒

木村 弘樹

今年も6月16日に第17回「明誠会」の総会・懇親会を私の地元浅草の自慢の店「レストラン　いいま」にて開催いたしました。いつものことながら我々明誠会の絆は深く、30名以上の同期が集まってくれました。

熊倉会長の挨拶のあと、盛大に懇親会へと突入し、美味しい料理に、旨い酒と昔懐かしい思い出話や近況報告、そして今回は、数名の奥様方もご参会いただき、場が和んだ大変楽しい懇親会で、あっと言う間の3時間でした。

そして締めには恒例の「古い顔」と「校歌」の合唱です。毎年の事ですが、この合唱の時に今は亡き千崎 修がいつも降りてきてくれます。我々明誠会の強い絆を築いてくれた千崎 修、心より感謝いたします。

最後になりましたが、いつもご参加いただいております有田先輩、小嶋先輩、本当にありがとうございました。

また今年の幹事学年である「快汗、どすこい塾」の皆様もご苦労様でした。

当然のことながら人情味あふれる浅草の街中へ二次会、三次会と長い夜となりました。

紫魂会（しこんかい） 昭和55年卒

渡辺 裕之

幹事学年の皆様、「第55回総明会」の準備お疲れ様です。

令和元年度「紫魂会」は、7月7日例年同様神田淡路町の「オークス」で行いました。

昨年14名と参加者が少人数だった事もあり、本年度はメール以外にも往復はがきでの呼びかけを行い、23名の同期が出席しました。

清水先生を囲んでの歓談の後、各々の近況報告をし、あっという間の2時間でした。また本年度の「総明会チャリティーゴルフ大会」では、昨年の村田君に続いて蓑田君が個人優勝し、グループ対抗戦でも31組中見事「紫魂会」が優勝を果たし、2冠を達成したとの事で、多いに盛り上がりました。

2年後には、当学年もいよいよ還暦を迎える年になります。みんなで来年も元気で再会し、再来年の還暦には、多くの同期で祝宴を開催したいと思います。最後になりますが、「第55回総明会」の盛会を祈念しております。「快汗、どすこい塾」の皆様頑張って下さい。

明翔会（めいしょうかい） 昭和56年卒

衛藤 雅一

2019年6月29日（土）明翔会同期会がお茶の水「天狗」にて開催されました。今年は役員改選の年ではないということもあり、会務報告、会計報告等短時間で総会が終了し懇親会へ、若干人数が少ないながらも例年通りの顔ぶれ18名で和気あいあいと会は進行しました。懇親の中では、我々も57歳という年齢になり、60歳の還暦を見据えて何か記念になる行事を開催しなければいけないという意見が出され、本格的に検討を開始することになりました。残念なことに？酒量も減り、食べ物も大幅に残してしまうという状況の中、幹事学年の寄付活動も行われ、大いに盛り上がりを見せましたが、一般のお客様もたくさんいるため校歌斉唱はできませんでした。その後、「高揚感」と「幹事学年」を引き連れ、恒例の2次会会場へと移動、2次会からの参加者も含め再度大宴会が開催されました。最後は、幹事学年荘司君にリーダーをお願いし、校歌斉唱でお開き！と思ったのですが、さらに3次会へと突入しました。明翔会もこれからは、役員改選といった杓子定規な運営よりも、「同期が気軽に集まれる会」という蓬田会長の方針を最重点項目として運営していくことを目指します。春のゴルフコンペの定例化のみならず、皆が気軽に参加できる様々な機会を増やしていくとともに、60歳の還暦イベントについて本腰を入れて検討を進めます。意見やアイデアがある方はどんどん下記のURLからホームページをご覧いただき、連絡先からお寄せください。https://s56meiji.jimdo.com/

◎明翔会同期会は、幹事学年以降毎年6月の最終土曜日の開催を継続しています。

明魂会（めいこんかい） 昭和57年卒

菊池 正純

令和最初の「明魂会」総会・懇親会は、6月15日に、御茶ノ水駅前のサンロイヤルビル地下一階「御茶ノ水ビアホール」において、高校3年次のB組担任 清水紀夫、E組担任 田中徹太郎両先生のご臨席のもと、同期18名が出席して開催されました。昔ばなしやら、近況報告で大変な盛り上がり…特に恒例の「近況２分間スピーチ」では、皆、時間をオーバーしての熱い思いを披露しました。

懇親会の最後には、われらが永遠のリーダー長、矢島正行君の登場です。今回は、「明魂会」が11年前に幹事学年を務めたANAホテルでの第45回懇親会の大トリ、校歌のビデオ映像をバックに、ほかのお客さんの迷惑を顧みることなく（汗）、怒涛の校歌で気持ちを一つに結びました。

我が明高は、携帯電話、パソコン、ネットとICTが急激に発展した平成の時代に、大きな変革を遂げましたが、在学中の環境は違えども、「白雲なびく駿河台」での歴史、そして「調布」の輝きとともに、昭和、平成、令和の卒業生が永遠に融和する「総明会」でありますように「明魂会」一同、お祈りいたしております。

明輪会（めいわかい） 昭和58年卒

宮浦 太志

明輪会 総会・懇親会

令和元年6月15日（土曜日）神保町：川芙蓉にて明輪会総会並びに懇親会が開催され19名が参加しました。平成4年卒「快汗、どすこい塾」から2名、また特別ゲストとして岸哲利先生にもご参加いただき楽しいひと時を過ごしました。岸先生は6年間毎週発行した学級通信「男坂」を基に「弁当と世界と男坂」を発刊されています。我々が毎日通った「男坂」を学級通信の名前に選んでいるのは明中明高への深い愛情なのだろうと思います。岸先生には懇親会でご挨拶をいただきましたが、松枝先生（愛称：チーター）の全校集会の統率力（愛のムチ）や雪の日に裸・素足でのランニングなど、我々が忘れかけていた若き日の思い出を呼び起こして下さいました。

「明輪会」の名は東京オリンピック開催年の1964年生れが多いことが由来です。奇しくも来年はオリンピックイヤーです。現在、明輪会史上最高の参加者となるようイベントを企画中です。これまで不参加を貫いていた方も是非参加して下さい。私など現役時代に一度も話したことない人やあまり好きではないと感じていた人とも仲良く話ができるのを実感し、同期とは不思議だなと思っています。これがつないでいくということなのかもしれません。

明心会（めいしんかい） 昭和59年卒

進士 年治

「皆んなが酔っぱらう前に来年度の幹事を決めます！立候補いますか！」(幹事：伊東・バスケ部)。「俺やるよ！」(赤堀・野球部)、「じゃ俺も」(吉田・放送班)。「それじゃあ、再来年度は？」(幹事)。「はいっ！」(佐藤・バスケ部)、「俺もやります！」(藤ノ木・軟式野球部)。令和最初の『明心会』同期会は、冒頭の会長挨拶(大山・野球部)、恩師吉田重幸先生からの祝辞に続き、幹事による立候補呼びかけで始まりました。例年は部活の括りやアミダで決めていた同期会幹事。令和の明心会は積極的なメンバーによる旗振りが期待出来て安泰です。その後、総明会の活動報告、乾杯(田中重幸・帰宅部)に続き、幹事学年『快汗、どすこい塾』の紹介に移りました。今年のグッズは特に、「M」マーク入りのTシャツが飛ぶように売れていたのが印象的でした。なお、同期会概要は以下の通りです。令和元年6月15日、番屋神田店、参加者：30名。さてここで、明心会ゴルフをご紹介します。その名は「ボーリーズ」。赤堀による声掛けで始まったコンペです。仕事の都合で会長（赤堀）の不在がしばらく続いた微妙なコンペでしたが、年間4～5回をコンスタントにラウンドしています。直近は8月。灼熱の中、命の危険を感じながらのコンペでした。概要：8月4日、こだまゴルフクラブ、参加者14名、アベレージ106.7。

闘紺会（とうこんかい） 昭和60年卒

矢澤　徹

今年もハイアットリージェンシー東京にて総会・懇親会が開催される運びとなりました。平成4年卒「快汗、どすこい塾」の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

思えば7年前、我ら「闘紺会」の竹口君が当ホテルを候補に挙げ、町側君を中心とした会場担当メンバーが、立地や会場の規模・費用や継続性を熟考し、何度も交渉を重ねて当ホテルに決定した慧眼に間違いはなかったのだと改めて認識しております。そうして開催した総会・懇親会には60余名の同期が集まったものですが、この7月6日に手束君の店、新小岩「玉寿司」にて行われた同期会は参加人数15名でした。一時の勢いが薄れている感は否めませんが、個々人のキャラは立ったまま、にぎやかな集まりとなりました。

この会報の諸先輩方の『20名集まりました』『30名集まりました』とのご投稿を拝読するにつけ頭が下がる思いであると同時に、先輩方の年代になればまた「帰ってくるのかな」とも感じております。

諸事多忙な我々の年代であるが故、幹事学年でもない「ただの同期会」の優先順位は高くないかもしれませんが、「親孝行したいときには親は無し」ですよ。たまには顔を出してください。お待ちしています。

新世輝（しんせいき） 昭和61年卒

栗本 宜長

令和最初の同期会は、梅雨の晴れ間の７月13日に同期長谷川氏の営む日本橋の〈ラコルタ〉で実施しました。新世輝の同期会は、昨年の〈鳥義〉氏家氏、一昨年の〈たけやま〉池田氏等、必ず同期が営む、食べログ高得点？のお店で実施するグルメ同期会になります。

〈ラコルタ〉の良い点は、夕方から深夜まで出入り自由など、ワガママがきくこと。今年も、ゆる～く集まって、最終的に同期23名、和歌山から駆けつけてくれる同期も余裕で参加。柴田先生に幹事学年〈快汗、どすこい塾〉有森君に田中君に荘司君に中村君、飛び入りで、明紫会の近藤先輩、昭和戊辰乃会の光岡君も参加で大いに盛り上がりました。

会は恒例のホームルーム（会計報告や総明会の活動報告など）で始まり、今年は実行委員長を務めた鵜飼友義氏が、区議会議員に当選したので、鵜飼先生をみんなで讃え、最後は校歌で盛り上がり、11回目の同期会も無事終了しました。グルメ同期会は、これからもまだまだ続きます！

明猿会（めいえんかい） 昭和62年卒

塩野 正和

「総明会会報原稿を執筆してくれないか」会報委員で友人の同期生に言われたのは、まさに今年度の会報を校正するその場であった。彼が寄越した「原稿の依頼書」を見ると、締め切りは2ヶ月も前だ。どうやら執筆者を探しあぐねた結果、私にお鉢が回って来たようだ。

彼が会報委員になってからそれを手伝う形で毎年会報の校正作業に参加しており、仕事後に飲みに行くのが私の定番だった。特に今日はこの後同期会なので正体無くなるまで飲む予定だったが、軌道修正が必要だなこれは。「締め切り待って貰っているから、今日書いて今日提出して」と彼は事も無げに言う。あぁそうだった。こういう奴だった。とは言え彼も他の同期生から頼まれて依頼に来たので責める訳にもいかない。結局、今日の夜中まで猶予を貰い原稿を仕上げる事に相成った。

会報の校正の仕事は無事終わり、夕刻より同期会に突入。場所は同じく同期生で友人の店「みの家」だ。一年ぶりに同期生の皆と再会し、たわいも無い話で盛り上がりました。30年ぶりに会った友人もおり実に有意義な時間でした。ほろ酔い気分で帰路についた際に会報のことを思い出した。でも心配ない、もう書く事は決まっている。目一杯楽しんだ今日の出来事を記していく事で、この難局を乗り越える事が出来ました。来年に続く…。

昭和戊辰乃会（しょうわぼしんのかい） 昭和63年卒

刈米 聡一郎

幹事学年を務めてから、早くも5年が経ちました。今思うと、あの時同期学年の熱量は何か取り憑かれているようですらありました。しかし、その後の事を考えると、同期で飲み会を開いたり、年に1度の同期会等を開いたり、楽しみが増えた気がします。

先日、事務所で仕事をしていると、どこからか、『オーオー明治!…』との声が聴こえてきました。何かと思い下を覗くと、大学の応援団、チア、大学の野球部員が大人数でパレードをしていました。大学野球の優勝パレードでした。そこで私が小さい声ながらも校歌を口ずさんでいると、周りの皆から校歌を歌えることが『すごい!!』と言われました。良く考えると、多くの人は大学(？)の校歌など歌えないのかもしれません。

幹事学年は、人数集め、役割分担、総明会の仕切り、お土産の選択等、色々大変でしょう。しかし、今年を区切りにまた皆で集まれるようになり、今後楽しみが増えると思います。今後も宜しく御願い致します!!

平成改元会（へいせいかいげんかい） 平成元年卒

田中 潤二

世間では、昭和生まれで独身のまま令和を迎えてしまうことを「平成ジャンプ」というらしい。しかし、我々平成改元会の中での「平成ジャンプ」の認識は違う。昭和の頃に明治高校にいて、平成元年に高校を卒業したにも関わらず、令和の時代になっても高校生気分が抜けない状況で今日を迎えている、人気アイドルグループにも負けていないヤツらのことだ。

記念すべき令和元年の6月29日、平成の時代約30年の記憶を飛び越えた、結婚していても未婚でも、平成ジャンプな面々が集まり、高校生の頃のままのノリで大ハシャギな3時間を送った。

昭和に生まれ、明治で過ごし、平成を乗り越え、令和を迎えた我々は、すなわち大正をも飛び越えた、時代を越えた存在なのかもしれない。我々も、来年は50歳を迎える。人生50年と言われた頃からすれば余命は少ない。

しかし、我々はまだまだ、さらに時代を越える気持ちでいっぱいだ。今の天皇陛下は、俺達より年上であることを考えれば、令和の次の時代の改元に立ち会うことは難しくはないはずだ。さぁ、「改元会」の名にかけて、みんな長生きして、あと2回くらいは改元の瞬間を味わおうぜ！

明愛会（めいあいかい） 平成2年卒

今泉　仁

幹事学年からあっという間の2年間、同期の集まる頻度も少なくなって来ていますが、昨年は8月26日に同期会を開催、明愛会ゴルフは既に4回開催と、何とか頑張って同期の絆を深めております。会えば話題は中高一緒に過ごした6年間の話題ばかり、同じ話を何度聞いても飽きない程充実したMEIJI生活を送っていたと、皆つくづく感じております。

明愛会は年男です！そろそろガタが来る身体にムチを打ち、同期のお店に集まったり、大学ラグビーを応援したりと、やっぱりMEIJIが好きな私達は、明愛会の仲間・先輩後輩を何より大事にしております。中高の同期っていいですね！と改めて思う今日この頃、まさに明愛会のテーマ「世代をこえる明治愛　～I　LOVE MEIJI～」です。11月24日の総明会懇親会は、皆でハイアットリージェンシー東京へ集まりましょう！そして頑張れ、快汗、どすこい塾！！

明仁会（めいじんかい） 平成3年卒

山口 一郎

昨年度の幹事学年を務めました明仁会です。この場を借りて、改めて関係者各位にその節の御礼を申し上げます。

さて、幹事学年という濃密な一年間を、（当然ではありますが）初めてのこと故、右往左往さらには周囲狼狽しながら何とか切り抜け、現在は、あの時期が実は一瞬の夢だったのではないか？と思えるほど穏やかな日々を過ごしております。とはいえ、幹事学年が夢ではなかったことは、卒業後27年間、交渉も絶えがちだった同期間において、久々の再会から新たに生まれた関係性や班クラブ同期でのこじんまりとした集まりが頻繁に発生するなど、その後の動きが証明してくれています。

そうそう、その流れで、この4月7日（日）には昨年度をもって明治高校を退任された安部友巳先生、清水克悦先生の恩師お二人の退任をお祝いする会を実施することができました。同期30余人の参加によって非常に盛況な集いとなりました。

といった様に、27年目の再会は、幹事学年を卒えるとともに終了するものではなく、むしろここから私たち明仁会の次のステージが新たに始まるのだと強く感じさせてくれるものでした。幹事学年制度に感謝するとともに、この一文を眼にした同期の新たな連絡を待っています。最後になりましたが、総明会総会・懇親会の盛会を祈念しております。

快汗、どすこい塾（かいかん　どすこいじゅく） 平成4年卒

福田 浩茂

平成元年に入学、同4年卒業して27年が経ち新元号「令和」の節目に運命的なものを感じながら幹事学年として活動を開始しました。総明会幹部・評議員・学校関係者皆様を始め、各年代の同窓会や班部OB会合などへ出席する際、必ず諸先輩方は私達を暖かく迎え入れ、ねぎらい励ましの言葉をかけくれます。母校の素晴らしい校風伝統が脈々と継承されている場面を直に体験し、改めて明治への深い愛情を感じております。4月に、卒業後出来ていなかった同窓会を29名参加でしたが、紫紺館にて恩師・田中徹太郎先生をお迎えし、実現することが出来ました。6月には調布校舎で関根正人先生による27年目の特別授業で「明高四天王計画」の検証など、THE男子校時代の雰囲気の中で先生と共に大変盛り上がりました。懇親会でも見かけ風貌は変わりましたが、中身は当時そのままの仲間と思い出話に花が咲き、楽しいひと時を過ごしました。我々「どすこい」は、令和元年に再キックオフとなります。団塊ジュニアど真ん中世代、縁あって出会った仲間で今後も太く長く付き合っていきたく、まだ連絡が取り合えていない皆さん、是非繋がっていきましょう！

結びになりますが、私達は素晴らしい総明会総会・懇親会となるよう力を結集し日夜準備に努めております。

諸先輩そして特に20～30代の皆様は是非仲間をお誘い頂き、久々に明治高校の薫りを感じにお越し下さい。

11月24日（日）ハイアットリージェンシー東京にてお待ちしております！

明鐘会（めいしょうかい） 平成5年卒

小岩井 賢一

はじめまして、平成５年卒「明鐘会」です。明治高校校歌の歌詞にある「眉秀でたる若人が　撞くや時代の暁の鐘」と、学生歌の「大気にさゆるニコライの鐘に心のかてをとり」の鐘にかけて、「明鐘会」と名付けさせていただきました。

現在は、応援指導班、スキー部、そしてバスケ部などを中心に不定期な飲み会、そして毎年紫紺祭初日（土曜）に定例会を開催し、昔の思い出話や近況報告、恩師の先生との懇親を深めています。

同期には「諸君！」で有名な生徒会長の長野がおり、中学高校の頃の真面目さを生かして現在、公務の場で活躍しています。名誉ある応援団長の安藤は、同期をまとめる頼もしいリーダーです。社会に出て、公務に就いたものもいれば、教育者として教鞭をとる者、バンドでメジャーデビューした者など、個性あふれる同期ですが、来年度の幹事学年に向け準備を始めています。まだ参加していない同期のメンバーも参加心待ちにしています。来年度は恩師や同窓生との再会の場として、東京オリンピックイヤー記念の年として、記憶に残る総明会を開催できるように心がけてまいりますので、皆様方のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

隆明会（りゅうめいかい） 平成6年卒

三保谷 建介

明治高校平成６年卒「隆明会」の懇親会が平成30年12月1日の土曜日、駿河台のビアレストラン「ヒナタガーデン」を前回に続いて貸切にさせて頂き、32人が結集しました。

回を重ねるごとに参加者も増加傾向にあり、高校を卒業してから凡そ四半世紀ぶりの再会と言う風景も今回はあちこちで見られました。冒頭では隆明会の名付け親であります山田伸夫先生からお言葉を頂き、乾杯の後はお店自慢の美味しい料理の数々に舌鼓を打ちながら、懐かしい話や今後の集まりのあり方など、過去から未来に向けて話の輪が広がって行きました。盛り上がりも最高潮に達した所で一同で校歌斉唱。お開きと相成りました。

令和元年の隆明会懇親会は12月7日(土)夕刻より「OAKSお茶の水」(千代田区神田淡路町2-10-6)にて開催予定です。詳細は三保谷(090-8740-5574)までお気軽にお問い合わせください。

平成7年卒

藤田　央

初めて総明会会報の同期会活動報告に登場させていただきます、平成7年卒（同期会名称は考え中です）でございます。同期会をやろうやろうと言いながら時が過ぎ、平成の時代が終わりを迎える前にやっとのことで重い腰を上げ、去る平成31年4月13日に「浅草ちゃんこ場」にて同期会を開催いたしました。

仕事や子育てなど年齢的には皆もっとも忙しい時期ではありましたが、FacebookやLINEなどの新しい連絡手段と、部活単位の連絡網という伝統的な(？)連絡手段の両方をフルに活用した結果、21名が集まることができました。高校卒業以来24年ぶりという顔合わせも多く、高校時代から全く顔が変わらない者はまだ良いのですが、体型が2倍になってしまった者、頭髪が寂しくなってしまった者もいて、自己紹介から同期会は始まりました。名前と顔が一致すればもう話は早い。高校時代の思い出話で盛り上がり、二次会も全員参加、そして校歌斉唱でお開きとなりました。

平成7年卒の皆様、今回は先生方をお呼びできませんでしたが、次回は先生方をお呼びして、大いに盛り上がりましょう。同期会の名称も次回は決めましょう。

Facebook、LINEでつながっていない同期の方、藤田央（応援団OB）fujita.hss@gmail.comまで連絡お願いいたします。

共楽会（きょうがくかい） 平成23年卒

三浦 直人

大学4年以来、教育実習メンバーの飲み会を（前後期合わせて）やりたいね、という話を多田（博）さんや田中（拓）さんと度々していたのですが、皆さんお忙しくてなかなか実現せず、あっという間に時が経ってしまいました。私も含め、何人かの同期は教育実習で高Ⅲの授業を担当したのですが、当時の生徒さんたちの一部が昨年教育実習生として、母校を訪れていました。どうりで年を食うわけだと思いました。

平田先生の明校就職を聞き、このチャンスを逃したらまた何年も経ってしまうということで、昨年9月ようやく飲み会を開くことが出来ました。写真に写っている以外にも、参加してくれた方がいます（学年も違う上に、教育実習生でもなかった方が1人混じっていますが、別にお祝いすべきニュースがあったので、どさくさに紛れてお呼びしました）。普段あまり会うことのない同期から、近況報告を聞けて良かったと思います。誰それが転職したらしいとか、誰それが結婚したらしいとか、たくさん聞きました。皆さん、おめでとうございます。当日来られなかった方、連絡が付かなかった方も多いので、忘れた頃にまた企画しようかと思います。

応援団OB会

幹事長 光岡 孝之 昭和63年卒

第55回総明会総会・懇親会の開催、誠におめでとうございます。また、幹事学年の「快汗、どすこい塾」のみなさま、本当にありがとうございます。

我々応援団は昨年、結成70周年、チアリーディング部創部10周年を迎え、「令和」の改元と共に新たな一歩を踏み出しました。

元号が平成から令和になったということは、OB会の主軸も昭和から平成世代に移行していかねばなりません。応援団OB会は数年前から、年末に平成卒業世代が主催する「望年会」を開催するなどその準備を進めてまいりました。昨年も平成30年12月29日に大学生～昭和世代までを集め、前述の周年記念事業の打ち上げも兼ねて大いに盛り上がりました。また、令和元年6月15日、OB会定時総会には今春高校を卒業した大学1年生8名も参加し、世代を“つなぐ”活動が順調にすすんでいます。

現役団員の活動に対しては、野球応援、夏・春合宿、紫紺祭、紫紺の下になど、積極的な支援をしております。現在、明治高校応援指導班は中・高生合わせて約50名の大所帯となり、特にチアリーディング部の班員、OG会員はこれからのOB会の主軸となります。そういったことも念頭に、今後も活動を進めてまいります。

応援団OB会の平成世代に期待しております！

吹奏楽班OB・OG会

深井 重男 平成2年卒

昨年の会報で御案内の通り、吹奏楽班は創立60周年を迎えました。節目となる第60回定期演奏会（別掲）は例年以上のOB・OGが人見記念講堂に来場してくれました。加えまして、3月23日には調布校舎内・鵜澤先生ホールに於きまして現役後輩とOB・OG総勢130名による合同バンドでの演奏を披露させて頂き、調布市民とりわけ近隣住民の方々を含む多くの来場者に、普段とは違う大編成の醍醐味を楽しんで頂けました。総明会の方々にも多く御来場頂きました。なお、特別ゲストに第3代目の常任指揮者である山本孝先生に客演頂き花を添えて頂くことも叶いました。

終了後は学生食堂カフェテリアに場所を移しての祝賀会。ご来賓を代表して明治白駿会前会長の依元様に乾杯の御発声を頂きまして、上は72歳の大先輩から下は大学1年生まで終始なごやかなパーティとなりました。また、これに先立つ定時総会では、現役後輩達に楽器（ファゴット）を贈呈することがOB・OG会会員の満場一致で承認されました。

60年前、我らが向殿先生やアントニオ古賀先輩、現在もマンドリン部を指導されている久保田先輩など、管楽器・弦楽器・合唱とジャンルを問わず活動していた部活から分離し班として独立してから早や60年。これからも70周年100周年と、現役へのサポートと会員の親睦を図る為OBOG会としても微力ながら声援・活動を続けて参ります。どうぞ総明会会員の皆様方も、定期演奏会や紫紺祭など足をお運び頂ければと存じます。

図書班OB会

昨年4月、明大那古寮（館山市）の管理人として学生の面倒を見てくださった櫻井利子さんが逝去されました。本稿は、昨年11月に図書班OBによる「櫻井さんを偲ぶ会」の際に、櫻井さんのご令嬢である上西睦美さんにご挨拶いただいたものです。男たちが眼に涙を浮かべて聞き入ったお話を会報に残すことができればと思い寄稿しました。（図書班OB）

母に寄せて 上西睦美

母が明大那古寮の管理人となったのは30代の頃でした。三度の食事の支度に掃除、洗濯と、学生のため一日中働いていたように思います。おばさんの料理はおいしい、楽しかった、また来ます。学生からの言葉を聞くたびに母は本当にうれしそうでした。コンパに呼ばれると、黒田節や武田節を踊って盛り上げて、皆さん楽しそうでした。そのなかでも、やはり明中高図書班の皆様との思い出は一番だったと思います。お腹を空かせてはいけないと、空になったおひつを見て、この次はもっと、また空になるともっともっと、しまいには下級生が「おばさん、ご飯を食べきれない」と訴えてきたとか。上級生に「出されたものを残してはいけない」と教えられて必死だったのですね。卒業されても母は皆様のご活躍を楽しみにしておりました。菊池さんには燻製の作り方を教えて頂き、桜井さんには結婚式にご招待頂き、川合さんがテレビ出演された際は録画を大事に残して自慢げに私に見せてくれました。母が病気になってから、平田さんにはお忙しい中、時間を作って来て下さり大変な作業をして頂きました。平田さんには、母の日に毎年お花を送って下さったこと、送って下さったサプリメントでひざの痛みがすっかり良くなったこと、最期に唯一口にしていた核酸ドリンクを欠かさず送って下さったことなど、感謝しきれないほどお世話になりました。まだまだ私の知らない他の方たちとの思い出も母にはたくさんあったと思います。忙しかったけれども、私の記憶にある母の一番輝いていた時が、皆さんと過ごしたあの頃だったと思っています。皆様の中で母が生きている気がしてとても幸せです。母は皆様のご活躍と充実した人生を願っていると思います。ありがとうございました。

野球部OB会 明球会（めいきゅうかい）

明球会会長　一泉 二郎　昭和51年卒

いつも明球会へのご支援を頂きまして誠に有難うございます。
明球会会報にも書かせて頂きましたが、今回は柳澤憲人氏（平成30卒・明大野球部2年・背番号29）のお話しです。令和元年5月12日のフレッシュリーグ（旧新人戦）東大戦にて先発し勝利投手。（明大3-1東大）。リズムに乗って柳澤憲人氏は2回より無難な投球で東大打線を寄せ付けず、結局5回を被安打2、三振6、四死球0のナイスピッチング。

令和元年6月4日の慶大戦は高橋聖人(小諸商2年)が先発するも慶大とドロー（明大6-6慶大）。翌5日の2勝1分での新人戦4カード目は優勝が懸かっている法大戦。

先発は柳澤憲人氏。制球力があり法大･古屋敷匠眞氏(八戸工大一・2年)との堂々の投手戦。5回を終了し、互いに1安打の0－0。迎えた6回、先頭の齊藤大輝氏(横浜・1年)に三遊間を割られ盗塁後、代打中原輝也氏(尽誠学園・2年)にセカンド右を抜かれ無死1・3塁。ここで3番神野大樹(天理・2年)を二ゴロに打ち取りながら内野安打となり先制を許す。尚も送りバントから1死2・3塁のピンチを迎えるが何とか後続を断ち、6回、被安打4、失点1で降板。（明大0-1法大）。

柳澤憲人氏は十分に期待に応える登板でした。柳澤憲人氏の今後益々の大活躍を祈念致しております。

水泳部OB会 明水会（めいすいかい）

小林 耕治　平成3年卒

昨年、総明会の幹事学年を担当させていただいたことをきっかけに、高校卒業以来全く参加しておりませんでした『明水会』の懇親会に参加させていただくようになりました。暑気払い、忘年会、総会と参加させていただき、中学・高校時代にお世話になった先輩だけでなく、初めてお会いする伝説の怖い先輩（笑）の方々とお酒を共にさせていただき、当時のつらい合宿（猪苗代・千葉など）の思い出や、『あいつ、いま何をやってるんだ？』のような話など、名前が出るだけで盛り上がる話、懐かしい話題で、楽しい時間を過ごすことができました。だいぶ雰囲気変わったな～と思う後輩もいましたが…（笑）

何年経っても、先輩後輩という関係は変わりませんが、お酒の力も借りながらぶっちゃけ話ができるのもOB会の楽しみではないでしょうか！！現役時代にはとてもとても言えなかったようなことも、お酒を飲んで言っちゃえば、まあ、先輩も笑って応えてくれる、そんな和気あいあいとした雰囲気を感じました。

『明水会』では若い方の参加が少ないということなので、是非、若い方にも参加していただき、世代を超えた楽しいOB会を続けていきましょう！！

スキーOB会 明雪会（めいせつかい）

小畑　啓　平成4年卒

私のキックの師匠が言ってました。「まだ全日本のチャンピオンになる前、水も飲まずに毎日皇居10周走ってた。一周3キロしかないからさっと走ってこい！」って言われて。スキー部、トレーニングハードだったなあ。皇居の周り走ったよなあ。よく考えたら皇居までの往復も走ってた…。

私の空手の師匠が言ってました。「100人組手やった時、99人目で松井(章圭 現館長)君が"ここまでは誰だってできるんだ"とか言うんだ」

何故か先生方からスキー部だって理由で理不尽な事を言われてたなあ。「部活後に柔道場に通って黒帯取った？やるねえ。部活はスキー部？初段なんか誰でも取れるんだよ！」学校以外の活動は？って聞いたから言ったのに…。昨年12月、初めて参加した明雪会。先輩方の変わらぬお姿を見てふとそんな事を思い出しました。あの頃と変わらぬ関係のまま話に花が咲く、世代を超えて大先輩と若手が談笑できる。そこは新旧の「懐かしい古い顔」が集まる素敵な空間でした。

“ああ、やっぱり6年間スキー部で良かった”LUNA SEAの河村隆一くんが言ってました。「あの頃の僕達は真っ黒な衣装に長髪でメイクをして。当時はちょっと好奇の目で見られていたけど、今でもカッコいいと思ってる。」デサントのスラロームパンツに同期で揃えたハーフコート。今でもカッコいいと思ってます。だけど、それよりも・・・“ああ、懐かしい古い顔”

バレー部OB・OG会

事務局長　樋田 哲次　昭和52年卒

7月5日 令和最初の総会

バレー部ＯＢ・ＯＧ会の新たな絆

今年7月5日（金）に開かれた総会の場で、満場一致で会の名称を「OB・OG会」に改称しました。共学になり11年が過ぎ、OGが誕生してから8年が経過し、他のクラブも早々に「OB・OG会」に改称していましたので、遅ればせながらバレー部も「OB・OG会」になりました。

今後は、ますますOGの皆様に会への積極的な参加を期待いたします。よろしくお願い致します。ちなみに、現役高校女子部も段々と力が付き、6校によるリーグ戦を勝ち抜き、2日目に駒を進めることが多くなりました。

また昨年に掲げました2つのテーマ　①現役ファースト、②バレーコートの絆を、今年もOB・OG会長の石田氏の元、OB・OG会の運営の二本柱として、注力しております。OB・OG会のHPについては、石田会長の同級である齋藤氏のご協力をいただき、HPを刷新し、試合の迅速な連絡・報告を行っています。　https://meikouvolley.jimdofree.com/

ぜひ、定期的にご覧になりますよう、お願いいたします。

フェンシング部OB・OG会

中村 信也　昭和45年卒

フェンシングのアジア選手権が今年6月に千葉県で開催され、日本は種目フルーレ団体で男子が10年ぶり、女子が史上初、そして個人でも男子フルーレと男子エペで優勝し、金メダル4つという輝かしい成績を残しました。来年の東京オリンピック2020に向けて弾みがついたようです。

ところで今回のアジア選手権では、大会運営において明治高校フェンシング部OBの浜野衛OB(昭和38年卒)、岩重哲雄OB(昭和41年卒、OB・OG会長)、近藤喜之OB(昭和50年卒)の3名が武器検査係として大会をサポートしておりました。東京オリンピック2020でも大会を支えていただきたいです。

思い返しますと昭和39年の東京オリンピックでは、明治大学フェンシング部のOBが日本チームの監督、コーチ、選手として大活躍しました。更にその2年後の昭和41年には石神修司OB(昭和42年卒)がインターハイ(高校総体)において個人サーブルで優勝しました。そして当時の活動が認められ、「同好会」から「部」に昇格した昭和39年(1964年)に作成されたものがこのバッジ（部章）です。あれから50年以上も経過しましたが、バッジは現在の有志フェンシング同好会の学生にも授与しており、「昭和」、「平成」、さらに「令和」の時代も引き継がれていくことを願っています。

バスケットボール部OB・OG会

山下 康彦　平成5年卒

男子・女子バスケットボール部OB・OG会では現役の高校生・中学生をサポートするために　**❶現役の指導協力　❷春/夏合宿での指導協力　❸大会での応援**の3つをメインに行なっております。

現役のサポートはOB・OGが個別に実施するのも良いのですが、**「OB・OGが一致団結することで持続的支援が可能になる」**をモットーにOB・OG同士の親交を深めるべく毎年以下のことを実施しています。

バスケットボールトーナメント（秋）　OB・OGガチンコトーナメントを実施（18歳から50歳代まで参加）、トーナメント終了後は選抜メンバーで現役高校生とも対戦。　**ゴルフコンペ（秋）**　バスケをしないOB/OGも参加できるよう開催。

OB・OG総会（冬）　新OB・OGを紹介し、縦のつながりを深めながら会食。

引退後もさらなるつながりを深めようということで2017年度から開始したのが**OB・OGチームを発足し、チームでの区民大会への参加**。

夏のシニア大会（40歳以上）・・・前島先生も特別参加。冬の通常の大会（18歳以上）

バスケットボール部はOB/OG一丸となって現役を支援しています！！

物理部OB会 明物会（めいぶつかい）

評議員　礒部　進　昭和45年卒

明物会は物理部のOB会です。文化部では珍しい、幅の広い年齢構成を誇っていますが、現役部員の少なさに危機感を持っております。

今年に入って、5月11日に新入会員歓迎会を開催しました。今年度は7人の新入会員を迎えることができ、内3名に出席して貰い大変嬉しく思っています。新入会員とお会いしたのは初めてである上、自分から見たら50歳近く離れている訳ですが、毎回感じるのは明物会の会員として違和感が無いことでした。これこそが、今年のテーマ「『つなぐ』～Meijiの薫りを令和へ～」なのかと、改めて感じた次第です。

OB・OG会として会員を増やすための努力や援助をしていきたいと思います。私達が現役だった頃の部活はアマチュア無線、HOゲージ、オーディオ、ラジコン等で、やっとコンピュータらしき物が出て来たところでした。もともと「男の趣味」としての色合いが強い活動内容が部員の増えない理由と考えましたが、それはそれで良い事と思っているうちに、現役の部活は、どんどん変化しているようです。

今年度を以って、評議員を交代しますが、新任の評議員には新しい風を送り込んでいただきたいと思います。
そのためには、井家上明物会会長を中心に、大学生から老人会員まで、更につながって行かねばならないと思います。

地理研究部OB・OG会

松浦　毅　平成3年卒

昭和23年に故・矢口清先生によって創設された地理研究部は、昨年、70周年の節目を迎えました。これを記念し、平成30年11月11日、地理研OB・OG会総会・懇親会を明治大学紫紺館にて開催し、櫻井正美先生、由井将雄先生、石川温之先生をはじめ、初代OBから現役大学生に至るまで、総勢53名が集まりました。総会では記念講演として、国立歴史民俗博物館名誉教授・上野和男先輩（昭和39年卒）にご登壇いただき、地理研の合宿で訪れた福島県檜枝岐村での地域調査を原点とする、社会人類学研究の足跡をお話ししていただきました。また、現役部員による活動報告も行われ、高知日曜市や水俣病問題等、ますます活発に調査活動を行っている様子が披露されました。

続けて開催された懇親会は、櫻井先生の今も変わらぬ朗々とした吟詠で幕を開けました。紫紺祭で展示された70年史年表ポスターを会場に展示したところ、参加者の皆様から思い出話が次々と溢れ、途切れることがありませんでした。そして今回、記念品として小冊子「地理研究部70年のあゆみ」を作成し、幅広い世代のOB・OGの皆様から貴重な写真のご提供や思い出に関するご寄稿をいただくことができました。これらの記念事業は、70年にわたってつながれてきた地理研の伝統をさらに後世へとつないでいく、大変よい機会になりました。ご協力いただいた皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。次回の総会・懇親会は来年（令和2年）の開催となりますが、令和の時代も地理研ならびにOB・OG会が末永く発展していくことを願ってやみません。

歴史研究部OB会

西場 健介　平成3年卒

去る6月22日土曜日、歴史研究部70周年記念OB会を紫紺会5階レストランフォレスト椿山荘にて盛大に催しました。前顧問の粟野副校長と顧問の田中先生をお招きし、大先輩から大学生まで一堂に会した和やかな記念の集いとなりました。

当日は参加者全員にアルタミラ洞窟壁画をモチーフにした「歴研バッジ」を記念品としてお渡しして、現役部員時代を回顧するとともに、女子学生にも対応できるように「ピンバッジ」に変更して作成されたことに感嘆の声も上がっていました。

今後も先輩・後輩・同期とのつながりを大切にしながら、歴史研究部を応援していきたいと思います。

「鵜澤總明博士 頌徳碑」顕彰記念ツアー

明治大学全国校友千葉県大会開催に伴い、大会実行委員会が主催で、明治大学総長（五期）・明治中学校初代校長・衆議院議員・極東国際軍事裁判日本側弁護団長を歴任された鵜澤博士の功績を顕彰し献花する「鵜澤總明博士頌徳碑　顕彰記念ツアー」が、２０１９年７月27日（土）に鵜澤博士頌徳碑のある新治小学校（千葉県茂原市、鵜澤博士の出身校）にて開催され、約40名の方が参加された。

当日は、主催者である明治大学校友会千葉大会実行委員会会長前田勝己氏が「主催者挨拶並びに顕彰の辞」を述べられ、引き続き「来賓挨拶」、鵜澤博士が敬虔なクリスチャンということから参列者による「讃美歌斉唱」・「献花」を行い、最後は「明治大学校歌斉唱」にて締めくくった。来賓者としては、「学校法人明治大学経営企画担当常勤理事　飯田和人氏」「明治大学校友会前会長・総明会名誉会長　向殿政男氏」「明治大学附属明治高等学校副校長　粟野哲也氏」「明治大学創立者　岸本辰雄氏御曾孫　岸本幸雄氏」「茂原市立新治小学校高校長　鈴木圭一氏」「茂原市文化財審議会委員長　小川力也氏」が参列された。

この頌徳碑は、１９５５年10月21日に博士の訃報の聞いた鵜澤博士の出身地である千葉県長柄郡新治村（現茂原市）の地元の方々が、頌徳碑建立に尽力され、「鵜澤總明博士頌徳碑建設協力会」を発足、その後、大学関係者、政財界、法曹界等の全国の名士へ呼びかけ、建設協力会が発起人となり、「鵜澤總明博士顕彰会」「鵜澤總明博士顕彰会千葉県推進協力会」が一体となって、建立に献身努力された。その結果、鵜澤博士出身地である現在の地に建立された。

初代校長でもある鵜澤博士は、「第一級の人物たれ」と忙しい時間を割いて、生徒に語りかけたと言われている。時代は、約１００年前の明治・大正時代と現代社会とは大きく異なった社会ではあるが、現在でも「第一級の人物たれ」という精神は通じるものがあり、今の明高・明中の「将来のキャリアにつながる４つの教育方針である「洞察力」「実践力」「社会力」「精神力」にも鵜澤博士の「第一級の人物たれ」の精神は引き継がれているのではないでしょうか。

なお、鵜澤博士の出身小学校である新治小学校は、生徒数が37名と極めて少なく、２年後に近くの小学校に統廃合される予定とのことである。

【鵜澤博士略歴】

（１８７２年９月４日～１９５５年10月21日）

１９００年東京帝国大学法科大学卒。法学博士。人権派弁護士として知られ、かかわった事件は、日比谷焼打事件、大逆事件、血盟団事件、帝人事件、相沢中佐事件など。戦後の東京裁判では弁護団長を務めた。１９０１年９月に明治法律学校（明治大学）の教壇に立つ。１９１２年に設立された本校の初代校長を務めたほか、明治大学法学部長、総長等を歴任した。

第9回ヤマダ大感謝祭

三保谷 建介　平成6年卒

平成の時代も大詰めを迎えた平成31年4月27日(土)、神田錦町の居酒屋「魚海船団・神田司町本店」にて「第9回ヤマダ大感謝祭」が開催されました。佐藤浩一郎氏(昭和54年卒)がお勤めになられているお店の一番大きなスペースをお借りして、山田伸夫先生をはじめ教え子や関係者など合わせて39名が結集しました。

合間には卒業年度ごとに参加者が前に出て、自己紹介や近況報告を次々と行い、旧交を温めてたり新たな出会いを果たしたりで大変に盛り上がりました。

また山田先生には日本酒が贈られ、先生はその場で真っ赤で大きい塗り物の盃を手に取り、注がれた日本酒を一気に飲み干され、参加者一同もヒートアップ。最後は荘司康夫氏(平成4年卒)のリードのもと、参加者全員による明治高校校歌の大合唱にて盛況のうちにお開きと相成りました。

次回の第10回(令和2年4月25日土曜日)は節目となります。より一層多くの方々にお越し頂きたく、Facebook等で情報を発信しております。詳しくは幹事・三保谷建介(090-8740-5574)までお気軽にお問い合わせ下さい。

銀座升本
銀座一丁目 並木通りの大衆酒場
三保谷(みほや) 建介(平成6年卒)
三保谷 和大(平成14年卒)
昼の部(定食) 11:15～13:30
夜の部 17:00～22:00(L.O.21:30)
定休日：土日祝日
東京都中央区銀座1-4-7 03-3563-2706

ヤマダ大感謝祭
4月の第4土曜日
記念すべき第10回は令和2(2020)年4月25日(土)開催予定
楽しい企画を用意して皆様のお越しをお待ちしております。
■お問合せ先
深井 重男(平成2年卒 明愛会) fukai.pc@gmail.com
荘司 康夫(平成4年卒 快汗、どすこい塾) y-syouzi@mtd.biglobe.ne.jp
三保谷健介(平成6年卒) mihoya@mtb.biglobe.ne.jp

祝 第55回総明会 総会・懇親会
昭和50年卒
明紫会

割烹 魚きく
亀井利一
(昭和50年卒 明紫会)
山岳部OB
Tel. 03-3386-6128
東京都中野区沼袋3-26-12

(有)太陽精器製作所
昭和50年卒・明紫会
代表取締役
世古俊之
材料から加工・熱処理・めっき研磨までワンストップが強みです。
今、下町ボブスレープロジェクトを盛り上げています。
HP：090-8892-5576

DIANA
ダイアナ株式会社
代表取締役社長 髙橋郁夫
(昭和50年卒 明紫会)
www.dianashoes.com

吉武孝生税理士事務所
昭和五十年卒 明紫会
〒121-0813 東京都足立区竹の塚六-九-七 オークビル四〇一
TEL〇三-五八五一-五一二八
FAX〇三-五八五一-五一二九
E-mail:t.y@tax-yoshitake.com

お車のトータルサービス
代表取締役社長 服部憲一
(昭和50年卒明紫会)
㈱服部自動車鈑金工業
〒179-0073
東京都練馬区田柄5-22-20
TEL03-3990-8541
FAX03-3998-0177
E-mail:ken@hattori-auto.com

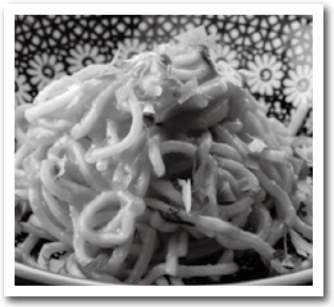
祝 第55回 総明会総会・懇親会
明々会
昭和51年卒

厨房のアメニティを創造する
津守興業株式会社
代表取締役 津守 徹
(昭和51年卒 明々会)
〒332-0001
埼玉県川口市朝日5-5-22
TEL 048－222-6187
FAX 048－222-8584
E-mail:tsumori@luck.ocn.ne.jp

昭和五十一年卒 明々会
総合不動産業
株式会社 エヌエフ・ヴィレッジ
代表取締役
吉田 博
〒177-0033 練馬区高野台一-三-七 NFプラザ
TEL〇三-五九一〇-一〇五五
FAX〇三-五九一〇-一〇五六

有限会社トラストワーズィ
金属・アクセサリー企画、製造
代表取締役社長　山田眞也（硬式野球部OB）
取締役専務　山田健一（硬式野球部OB）
〒一三一-〇〇四一
東京都墨田区八広四丁目八番一二号
TEL 〇三-三六一二-三三三八
FAX 〇三-三六一八-三九八三

祝　第55回　総明会総会・懇親会



表参道・南青山の
イタリアン有名店より
高級生パスタご用命

中華麺専門工場
株式会社 浅草開化楼

昭和50年 明紫会 坂上 進
〒111-0041 東京都台東区元浅草4-8-4
Tel 03-3844-0637 Fax 03-3841-4551

銀座線 外苑前駅すぐ
豆菓子・おかきの店
青山但馬屋
太田垣 政紀
(昭和51年卒 明々会)
〒107－0061
東京都港区北青山2－7－11
TEL.03－3401－2843
www.aoyama-tajimaya.co.jp

手打ち
如月 德
如月 徳（きさらぎ とく）
昭和 52 年卒　男子校根性組
石黒 理樹
TEL 03-3801-9001 荒川区荒川 7-26-9
Facebookで
チェックしてね

Mahaloa HAWAIIAN DINING BAR
ハワイアンダイニング&バー
マハロア
窪寺弘匡（昭和50年卒 明紫会）
東京都中野区新井1-23-21 プルメリア1F
TEL. 03-5345-5086
ハワイアンダイニング&バー マハロア

株式会社 大西静商店
取扱商品：貸事務所・パーティーグッズ
大西静士郎
男子校根性組(昭和52年卒)
〒101-0032
東京都千代田区岩本町2-2-13
TEL. 03-3866-6097
FAX. 03-3866-6098
http://www.rakuten.co.jp/osparty/

祝　第55回総明会 総会・懇親会
男子校根性組
昭和52年卒
http://dankon52.web.fc2.com
題字：小嶋眞作書

練馬　高野台
ネーチャーズフォーレストグループ
代表　横山茂樹（昭和52年卒男子校根性組）
本店　東京都練馬区高野台１丁目７番３号NFプラザ３－２１０
ＴＥＬ０３－３９９６－０６１２　ＦＡＸ０３－３９９６－０６３０
http://www.neritaka.net/ E-mail: nfsy@opal.famille.ne.jp

昭和52年卒
佐藤大英
曹同宗圓通寺
墨田区向島３－１１－６
Tel. 03-3622-7045
http://www.entuuji.or.jp

米田税務会計事務所
昭和53年卒（バスケット部）
税理士 米田晴彦
〒130-0026
墨田区両国2－17－3
（両国高橋ビル3F）
TEL 03-3631-8878
FAX 03-3632-3346
E-Mail:yonetakaikei@tkcnf.or.jp

V3 Kadoya
小川町スポーツ店街へようこそ
www.facebook.com/v3kadoya/
角谷幹夫
Mikio Kadoya
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3－2
TEL：03－3295－2525
FAX：03－3291－3564

株式会社 小島商会
CYCLE PARTS
自転車部品・用品卸
代表取締役
小島 隆司
昭和53年卒
東京都台東区上野1-6-5
TEL.03-3831-9792

パートナーズ総合事務所
司法書士
行政書士 菅原 誠
（S52年卒 男子校根性組）
〒110-0008
東京都台東区池之端1-1-1
池之端ビル8階
TEL. 03-3835-8041
FAX. 03-3835-8042
E-mail：ZVC00312@nifty.ne.jp

相続 遺言

行政書士 税理士 常住事務所（つねずみ）
☎03-3905-6981
〒115-0055 東京都北区赤羽西1-5-1-606
アピレ・赤羽アボードIビル内 FAX：03-5963-7430
E-mail：yutaka@tokyo.email.ne.jp
代表 常住 豊（昭和54年卒 明誠会）
日本行政書士会連合会 会長／東京都行政書士会 会長／公益社団法人成年後見支援センター ヒルフェ 理事

昭和53年卒 マンドリン部OB
弁護士 髙木 茂
銀座木挽町法律事務所
〒104-0061 東京都中央区銀座4-10-3 セントラルビル6F
TEL.03-6228-4487 FAX.03-6228-4489
URL http://kobikilaw.jp/

祝 第55回総明会 総会・懇親会
昭和54年卒同期会
明誠会
http://1st.geocities.jp/meiji_s54/index.html

昭和54年卒
明誠会
㈱朝倉鋳物
代表取締役
朝倉一寿

愛三電機株式会社
代表取締役
公認会計士
河合 洋
昭和54年卒 明誠会
〒101-0021
東京都千代田区外神田1-12-3
TEL. 03-3253-3611（代表）
http://www.aisan.co.jp

暮らしの衣料 まつざわ
株式会社
調布松澤屋
取締役
松澤和昌
（昭和54年卒明誠会）
〒182-0026
東京都調布市小島町1-34-12
TEL042-482-2634

昭和54年卒同期会
壱伍会
SINCE 1980
吉田雅博
埼玉県川口市

Wako Real Estate Investment Co., Ltd.
和光アールイーアイ株式会社
代表取締役
熊澤正幸
昭和54年卒
〒102-0072
千代田区飯田橋4-1-11 六洲社ビル
TEL.03-3512-0750
FAX.03-3512-0753
http://www.wako-rei.co.jp/

有限会社新星興業
星本 慎児
昭和54年卒（明誠会）
応援指導班OB
千葉県鎌ケ谷市軽井沢2097−3
TEL 047-446-7312

昭和54年卒
明誠会
株式会社 芝山
代表取締役
木村 誠

精密金属挽物加工
有限会社 髙埜製作所
代表取締役
髙埜雅信
昭和54年卒 明誠会
〒131-0045
墨田区押上3−15−6
TEL.03-3617-4365
FAX.03-3612-2368

矢ノ目忠税理士事務所
昭和54年卒 明誠会
〒135-0048
東京都江東区門前仲町
2−2−16 えとりビル3F
TEL 03-5639-7761
FAX 03-5639-7762
E-Mail：yanome@yanome.jp

有限会社 オフィス ダン
代表取締役 伊東正明
昭和55年卒 紫魂会
本 社：〒132-0031 東京都江戸川区松島3−32−1
銀座支店：〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-2
ティアラグレイス銀座タワー
TEL:03 3653 1366 E-mail:bellito@softbank.ne.jp

税理士
廣田 敦
昭和55年卒
廣田税務会計事務所
〒330-0841
さいたま市大宮区東町2-201
TEL. 048-641-6679
FAX. 048-647-8383

紫魂会
渡辺裕之

かばん・袋物 製造卸し （ビーボニー）
株式会社 B-BONNY
代表取締役 馬場栄一（昭和55年卒 紫魂会）
本社／〒273-0012 千葉県鎌ケ谷市東中沢4−8−53 Tel & Fax 047-412-3495
工場／〒273-0012 千葉県鎌ケ谷市東中沢4−8−50 mobile 090-8440-7002
E-mail b-bonny@gf7.so-net.ne.jp

包装資材販売・梱包請負
寺村梱包株式会社
代表取締役 寺村一義
（昭和56年卒 明翔会 バスケOB）
東京都文京区本郷2-19-11
TEL 03−3813-6686
FAX 03−3813-6689
http://www.teramura-pack.co.jp

株式会社東新理興

板硝子・理化学製品は斉木におまかせ!

昭和56年卒 明翔会

代表取締役 斉木 麻州男

〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-4
TEL.03-3814-7565　FAX.03-3818-0208

総合建設・不動産

正宗産業株式会社

代表取締役 市 川 洋 治 (56年卒)

〒210-0834
神奈川県川崎市川崎区大島5-8-13
電 話 044-244-1054(代)

税理士法人 狩野会計社
www.kanou-kaikeisya.com

代表社員　税理士

狩 野 智 雄

(昭 和 56 年 卒)

〒114-0002 東京都北区王子2丁目28番2号 Tel:03-3913-1964 Fax:03-3912-0835
Mobile:090-1534-8396 E-mail:tkanou@kanou-kaikeisya.com

昭和五六年卒(硬式野球部)
須藤司法書士事務所
司法書士
須藤貢一
〒一三五-〇〇四六
江東区牡丹二-九-一六-九一四
TEL〇三-三六四三-一六五〇

ヤマダ社会保険労務士事務所
社会保険労務士
山田 覚
Satoru Yamada
昭和56年卒 明翔会
〒245-0061
神奈川県横浜市戸塚区汲沢2-1-5-D607
TEL/FAX.045-865-6282

紙一般包装資材企画販売
近代紙業株式会社
〒340-0834埼玉県八潮市大曽根1420
http://www.kind-ai.co.jp
昭和５７年卒　明魂会
地理研究部ＯＢ会
小林　謙之
KENJI KOBAYASHI
k-koba@kind-ai.co.jp

総明開発株式会社
昭和57年卒 明魂会
硬式野球部OB会
代表取締役
染谷 貴男
〒340-0052
埼玉県草加市金明町473-4
TEL.048-946-2000
FAX.048-946-1700

革業界の料理人・袋物製造卸
株式会社 三和袋物
代表取締役
深山隆義
(昭和56年卒　明翔会)
東京都台東区元浅草1-4-12
電話：03（3844）0267
http://sanwa-wallet.com

みなと協和法律事務所
弁護士 鈴木一洋
(昭和56年卒 明翔会)
〒105-0001
東京都港区虎ノ門2丁目1番1号
商船三井ビルディング4階
TEL：03-5575-7157
FAX：03-5575-7158
E-mail：toxotes@hyper.ocn.ne.jp

昭和57年卒　明魂会　岩崎広人

今話題のPasar蓮田SAに翁の郷が出店！

埼玉名物肉汁うどん

お立ち寄りの際は
ぜひご利用ください。

翁の郷 OKINA NO SATO　株式会社 岩崎食品工業

日本料理　手打ちそば
浅草 十和田
冨永龍司
昭和58年卒　明輪会
台東区浅草1-13-4
TEL. 03-3841-7375

祝 第55回総明会総会・懇親会

明 魂 会

昭和57年卒　http://www.meikonkai.com

有限会社クリーニング
あかしや
昭和58年卒 明輪会
小野 洋
東京都目黒区鷹番3-7-18
TEL03-3714-0452

祝 第55回 総明会 総会・懇親会
明輪会（めいわかい）
昭和58年卒
こころのわ

有限会社共栄化工
一般装飾品鍍金
代表取締役
岩井孝之
昭和59年卒 明心会 バレー部OB
〒131-0041 墨田区八広2-18-13
TEL.03-3617-6050
FAX.03-3618-0711
http://www.kyoueikakou.com

白木そば
文京区本郷1-33-7
TEL：03-3812-4488
井上直樹
（昭和58年卒 明輪会）
都営三田線 水道橋駅
A6出口 徒歩5分

昭和58年卒
明輪会
遠藤憲治
有限会社 遠藤印刷
www.eqp.jp

昭和58年卒 明輪会
青木経営法務事務所
行政書士
青木 正美
東京都江戸川区南篠崎町4-25-4
TEL03−3676−5420
FAX03−3676−5421

株式会社 エヌエスビー
ウェブシステム開発／
サーバ保守・運用管理
代表取締役社長／公認会計士
根津 光弘
昭和59年卒 明心会
http://www.nsb.ne.jp/

伊東電機株式会社
電設資材、設備機器、
家電製品の卸販売
http://www.ito-den.com
代表取締役 伊東 稔（昭和59年卒 バスケット部OB）
本社所在地 〒132-0031 東京都江戸川区松島3-34-21
TEL. 03-3654-9241 FAX. 03-3654-9256
松戸営業所 〒270-0025 千葉県松戸市中和倉159-2
関連会社:千葉伊東電機(株) 〒273-0002 千葉県船橋市東船橋5-26-1

祝 第55回総明会 総会・懇親会
明心会（めいしんかい）
昭和59年卒
http://www.meishinkai.com/

昭和59年卒
大山 輝芳
明心会
硬式野球部OB
株式会社 横濱屋

一般社団法人 相続を考える会
あなたの相続に関するお悩み、
弁護士・税理士らの専門家が一緒に考えます。
昭和59年卒 税理士 田中重幸
〒279-0004 浦安市猫実3-5-14-104
TEL 047-323-6322

SHIMAMURA DESIGN
ホームページ・パンフレット制作
お客様のイメージをカタチにします。ご相談下さい。
グラフィックデザイナー 昭和59年卒 明心会
島村 武史
〒171-0052 豊島区南長崎3-31-14
TEL.03-5996-6828
E-mail.take-457@netjoy.ne.jp
ロゴマークデザイン
商品カタログ制作
広告・会社案内制作
その他いろいろ制作します。
http://www.shimamura-design.com/

著作権契約書なら
駒沢公園行政書士事務所
行政書士 大塚 大
（昭和60年卒 闘紺会）
柔道部OB
大田区南雪谷3-1-9-101
www.ootsuka-houmu.com

鋳造＋切削＋α＝【ヤマタイ】
株式会社 山泰製作所
取締役 営業部長 山本雅宣 昭和59年卒 バスケ部OB
〒949-6775 新潟県南魚沼市宮字西原 2294番8
TEL 025-773-3428 FAX 025-773-2763
masanobu-yamamoto@yamatai-mfg.co.jp

有限会社 山泰鋳工所
取締役 工場長 山本康平 平成2年卒
〒955-0152 新潟県三条市笹岡2841
TEL 0256-46-2722 FAX 0256-46-4771
kohei-yamamoto@yamatai-mfg.co.jp

昭和59年卒
エグゼクティブ ライフプランナー
渡邉文夫
ソニー生命保険株式会社
新宿ライフプランナーセンター第9支社
東京都渋谷区代々木2－1－5
JR南新宿ビル 15F
電 話 03－5358－1709
携 帯 090－4376－6146
SL 19-4290-0023

祝　第55回 総明会 総会・懇親会
昭和60年卒 闘紺会

有限会社忠建商事
不動産の有効活用 売買・賃貸・企画・管理
昭和59年卒 明心会 硬式野球部OB
代表取締役
渡辺 憲一
〒224-0001
横浜市都筑区中川7-17-18
TEL. 045-911-3011
http://www.chukenshouji.com/

Technology and Trust
闘紺会
株式会社立山電機工事
代表取締役 寺山 裕也 （昭和 60 年卒）
東京都江戸川区鹿骨四丁目 22 番 13 号
TEL 03-3670-0277　FAX 03-3670-3159
E-mail yuuya01@pop02.odn.ne.jp

宮沢孝昌
（S59年卒・水泳部）
珈琲亭 ルアン
〒143-0016
東京都大田区大森北1-36-2
Tel: 03-3761-6077
平　日　7:00～20:00（オーダーストップ）
日・祭日　7:30～18:00（オーダーストップ）
木曜定休

和食 玉寿司
東京シティ信用金庫新小岩支店前・定休日木曜日、第三水曜日
☎ 3691－3088
http://www.tamazushi.jp
手束 謙一（昭和 60 年卒 闘紺会）

ふぐ ちゃんこ
焼き鳥
鳥 義
氏家 喜久雄
（昭和 61 年卒 新世輝）
墨田区石原 3－17－3
TEL. 03-3626-4466

かやば町 鳥徳
代表取締役 鍋島 孝太郎
（昭和60年卒 闘紺会）
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-5-6
店舗 TEL. 03-3666-4692 info@toritoku.com
iphone 080-4294-9674
mail kotaro.nabeshima@gmail.com

昭和60年卒 矢澤 徹 YAZAWA
理化学器械・器具製造販売
株式会社 矢沢科学
http://www.yazawakagaku.co.jp
東京都文京区本郷2-13-8

鈴木税理士事務所
税理士 鈴木 裕朗
Hiroaki Suzuki
（昭和60年卒 闘紺会）
東京都墨田区業平 1-21-9 あさひ墨田ビル2F 〒130-0002
Tel: 03-3623-8703　Fax: 03-3623-8706
http://www.suzuki-firm.com/

Tickety
STORE
昭和60年卒業　植村成典

上野ハイボール無双
もつ鍋・馬刺し・串カツ・餃子
的場屋
総明会ワンドリンク無料!!
的場 尚（S60年卒・闘紺会）
上野アメ横店
台東区上野4-4-12
TEL 03-5812-2326

消火設備工事配管請負
三重工業株式会社
代表取締役
片桐泰裕
（S61年卒 新世輝）
y-katagiri@mie.email.ne.jp
〒141-0032
東京都品川区大崎3－6－17
TEL 03－3493－6731(代)
FAX 03－3493－6794

自動車 外装磨き 内装清掃 専門会社
対応車種 軽自動車～1BOX 輸入車 商業車 大型トラック・バス
外装ポリマー加工
水アカ除去磨き
タバコ消臭処理
革シート清掃
ルームクリーニング
CAR BEAUTY STATION SANKO Since 1967
株式会社サンコー商会 昭和60年卒 闘紺会 吹奏楽班OB
代表取締役 町側尚則
〒123-0872 東京都足立区江北3－38－1
TEL 03-3898-3501 FAX 03-3898-3701
mobile：080-3484-4466
mail：machigawa@gmail.com

計量システム・計量機器の総合商社 ハカリは共栄
共栄衡器株式会社
代表取締役 大森規雄（昭和61年卒）
東京都足立区千住河原町45番6号
TEL.（03）3882－8101（代）
FAX.（03）3882－8172
http://www.kyoei-koki.com/

家庭文化用品 荒物雑貨
輸出入竹工芸品全般 総合卸
株式会社 大園
代表取締役 大園正純（昭和60年卒 闘紺会）
本社 〒130-0014 東京都墨田区亀沢1丁目12番8号
電話 03(3624)5366(代)
FAX 03(3624)5368

各種機械 設計・製作・修理 及び 部品加工
株式会社 高橋機械製作所
Takahashi-kikai@nifty.com
代表取締役 高橋誠
（昭和61年卒 新世輝）
取締役会長 高橋郁三
（白駿会 顧問）
〒116-0011 東京都荒川区西尾久8-41-4
TEL 03(3893)8377 FAX 03(3893)8062
https://takahashikikai.co.jp

ふぐ・和風居酒屋
民芸茶屋 佐留丹
〒120-0034 足立区千住1-33-8
03-3882-7229
http://r.gnavi.co.jp/g418500/
http://www.facebook.com/sarutan1971
61年卒・新世輝 猿田尚弘

新世輝
俳優
高橋信康
（昭和六十一年卒）
（歴史研究部OB）

木材・新建材・住宅機器 販売
株式会社 昇栄
代表取締役
染谷昇司
（昭和61年卒 新世輝）
〒132-0015 東京都江戸川区西瑞江3-2-6
電話：03-3679-3681
FAX：03-3677-3174
E-mail：shoei.co@ceres.ocn.ne.jp
ホームページ http://shoei.tokyo/

鈴木税務会計事務所
税理士 鈴木博史
（昭和61年卒 新世輝）
〒133-0053
江戸川区北篠崎2－19－12
TEL 03－3670－1430
FAX 03－3676－1440

Hatoya Beans
鳩屋の豆菓子
お問い合せはこちら
TEL：050－3820－7534 受付時間：10：00～17：00（土日祝日を除く）
仕入・卸売ご相談下さい。TEL：0476-33-4468
http://hatoya-beans.com

みとしろ法律事務所
弁護士
山﨑雄一郎
（昭和62年卒 明猿会）
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町2-1-8
竹橋ビル2階
TEL 03-5282-3216
FAX 03-5282-3217
E-mail qwp01536@nifty.com
http://mitoshiro-law.jp/

がんばれ！ 快汗、どすこい塾！
S61年卒 新世輝 鵜飼友義 千代田区議会議員 chiyoda-ugai.com

高島屋さん真裏通り

日本橋 吉野鮨本店

中央区日本橋三―八―十一
電話 〇三―三二七四―三〇〇一

昭和六十一年卒 新世輝
吉野正敏

厳選したこだわりの素材

創業 明治12年

絶品の玉子焼き

変わらぬ伝統の味

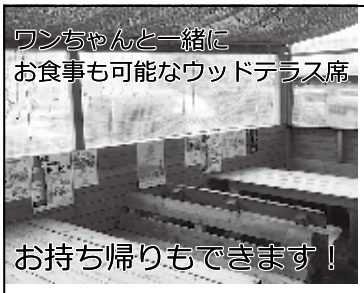
RESOL リソルグループ
リソルゴルフ株式会社

スパ＆ゴルフリゾート久慈（茨城県）
南栃木ゴルフ倶楽部（栃木県）
益子カントリー倶楽部（栃木県）
北武蔵カントリークラブ（埼玉県）
真名カントリークラブ（千葉県）
大熱海国際ゴルフクラブ（静岡県）
岡崎カントリー倶楽部（愛知県）
相生カントリー倶楽部（兵庫県）
作州武蔵カントリー倶楽部（岡山県）
瀬戸内ゴルフリゾート（広島県）
唐津ゴルフ倶楽部（佐賀県）
〈トーナメント開催コース〉
中京ゴルフ倶楽部 石野コース（愛知県）
運営提携ゴルフ場
伊香保ゴルフ倶楽部（群馬県）

「リソルゴルフガイド」はこちらから→

代表取締役社長 富樫孝之（昭和63年卒 スキー部）

弁護士 三神光滋（水泳部OB）
野本・吉葉法律事務所
（麹町 日テレビル前）
〒102-0084 東京都千代田区二番町4番地3
二番町カシュービル7階
TEL 03-3511-1111 FAX 03-3511-0222
mikami@nomotolaw.com
昭和63年卒 昭和戊辰乃会



http://pizzeria-robertino.com/

昭和63年卒 昭和戊辰乃会
安齋 聡
ピッツェリア ロベルティーノ
ご予約 044-788-5757
神奈川県川崎市高津区久末 402

祝 第55回
総明会 総会・懇親会
今年も新世輝は、
幹事学年 快汗、どすこい塾を
応援致します。
新世輝（しんせいき）
（昭和61年卒）49/101
http://sinseiki.jimdo.com

岡崎正和税理士事務所
岡崎正和
昭和63年卒
昭和戊辰乃会
マンドリン部OB
東京都墨田区横川2-2-10
岡崎ビル2階 〒130-0003
TEL：03-6240-4262
FAX：03-6240-4263
okazaki@setsu-zeirishi.com

帽子製造卸
株式会社 東栄
こだわりの帽子をトレードマークに
取締役会長 土田 饒（昭和31年卒 明楽会）
代表取締役 土田 正昭（昭和61年卒 新世輝）
〒103-0002
東京都中央区日本橋馬喰町1-3-5
TEL.03-3664-0810 FAX.03-3664-0033
E-mail.toei@beach.ocn.ne.jp

京急鶴見市場駅下車一分
大衆酒場
正木屋
横浜市鶴見区市場大和町3-17
Tel：045-511-0573
営業時間16：00から23：00
（10時以降入店可・日曜定休）

両国力士最中
両国 てし田
年田善政
（昭和62年卒 明猿会）
〒130-0026
東京都墨田区両国4-32-19
TEL：03(3631)5928
FAX：03(3631)5019

祝 第55回 総明会 総会・懇親会
ガンバレ!!
快汗、どすこい塾
〈昭和62年卒 明猿会一同〉

火曜定休（その他不定休あり）

桜なべみの家

http://www.e-minoya.jp

電話 03-3631-8298（ばにくや）

営業時間　平日 12 時～14 時／ 16 時～21 時

日・祝日 12 時～21 時

永瀬　守

（昭和62年卒 明猿会 水泳部OB）　都営地下鉄 大江戸線 新宿線「森下」下車

祝 第55回 総明会 総会・懇親会

昭和 63 年卒同期会

昭和戊辰乃会

しょうわぼしんのかい

川口市・蕨市のお部屋さがしは当店へ

株式会社 八光商事

代表取締役 田中一任

（昭和63年卒　昭和戊辰乃会）

（硬式野球部OB）

〒335-0002 埼玉県蕨市塚越２－３－１

電 話　０４８－４４１－８５８３

http://www.hakkoushouji.co.jp

info@hakkoushouji.co.jp

下町の住まい選びに夢を・・・

不動産の山下商事

ポータルサイト未掲載の当社物件を多数掲載!!

〒116-0012　東京都荒川区東尾久1-1-6

電話 03-3895-9494　FAX 03-3809-7779

http://www.yamashitashoji.jp

代表取締役 山下征隆

（昭和63年卒 昭和戊辰乃会）

歴史研究部　宅地建物取引士

2級ファイナンシャルプランナー技能士

祭・踊衣裳

日本の歳時記®

製造・発売元

株式会社佐藤万

佐藤　武

（昭和 63 年卒　昭和戊辰乃会）

東京都中央区日本橋久松町6番5号

TEL 03(3664)3611(代)

http://www.nihon-no-saijiki.co.jp

アパレル・ファッションの資材サポーター

株式会社 クロップオザキ

「ふぞくやのブログ」毎日更新中！

クロップオザキ　検索

代表取締役社長 尾﨑博之（昭和63年卒　昭和戊辰乃会）

〒101-0031　東京都千代田区東神田 2-1-11 第一坂本ビル（4F・5F）

電話 03-5820-0741（代）　FAX 03-5820-0742（代）　http://www.cropozaki.com

硬式野球部OB

代表取締役 郡司 晃浩

（昭和63年卒 昭和戊辰乃会）

建設資材・建築金物・錠前・電動工具・作業工具・エクステリア等の販売

株式会社 グンジ

〒340-0031

埼玉県草加市新里町 1192-1

TEL 048-927-2643

創業昭和15年 中安商店

北條勝彦（平成改元会・平成元年卒）

感性豊かで高品質なカットソー製品を新しい切り口でご提供致します。

株式会社ティアンドティ

〒133-0053 東京都江戸川区北篠崎2-3-23
電話 03-3677-1801 FAX 03-3678-7162

代表取締役 **安川琢哉**（昭和63年卒 昭和戊辰乃会）

○自社工場：江戸川サンプル工場、秋田比内工場
秋田鹿角工場、千葉東金工場

顧客満足度を高める事を基本にメイドインジャパンにあえてこだわり続け、それを理解、納得して選んでいただける企業を目指しております。

東京ガス指定工事店 LPガス販売

株式会社 タナカ商店
代表取締役 **田中丈士**
（明愛会 平成2年卒、明水会）

川口市中青木1-2-14
TEL 048-251-4044
FAX 048-251-4295

有限会社 三友金型
代表取締役
小柳貴裕 バスケット部OB 改元会（平成元年卒）

東京都墨田区東向島6-25-13
TEL. 03-3617-6683
FAX. 03-3610-1299
E-mail sannyuu@tj9.so-net.ne.jp

ゴム金型 設計・製作 短納期対応

業 種

マシニングセンター加工
NCフライス加工
NC放電加工
V33.V56.高速加工
U-GRAPH3次元コンピュータ

筒井綜合法律事務所

代表弁護士 **筒井 剛**（平成2年卒 明愛会）

〒271-0092 千葉県松戸市松戸 1336-7 東風園ビル 4 階
Tel. 047-308-5050 Fax. 047-365-2210
E-mail : tsutsui@tsutsui-lawoffice.com

株式会社オガワ

横浜でエクステリアのデザインから施工まで
横浜の中心部に、スピーディな生コンの供給

代表取締役 **小川和弘**
（平成元年卒 平成改元会）

横浜市保土ヶ谷区宮田町2-155-10
TEL：045-332-1411（代）
FAX：045-335-2421

日本産業規格表示認証工場
高強度コンクリート大臣認定取得

https://ogawa-yokohama.com

株式会社キノシタ
代表取締役社長 木下英樹
〔平成２年卒 明愛会〕

〔本社〕〒125-0032
東京都葛飾区水元 5-6-10
http://kinoshita-corp.jp

東神急送（トウカン）有限会社

東京陸運局認可 貨物自動車運送事業

平成２年卒 明愛会 硬式野球部OB
専務取締役 松尾 健司

〒134-0085 東京都江戸川区南葛西4-2-18
TEL 03-3878-7118 FAX 03-3878-4832
URL http://www.tohkan-ex.co.jp/index.html

人と緑をつなぐ

日章造園株式会社

〒153-0064 東京都目黒区下目黒３丁目８番５号
TEL. 03-3716-3221 FAX. 03-3716-3226

自然や緑を通じ
そこに住む皆様の心豊かな生活をご提案します。

代表取締役社長 **澤 村 大 樹**
（平成改元会 硬式野球部ＯＢ）

祝 第55回総明会
総会・懇親会

快汗、どすこい塾
応援してます

嶋田 剛久
平成改元会
吹奏楽班 OB
総明会組織委員

HEISEI KAIGENKAI
オレタチヨロシクゼンカイバリバリ

キッチンから厨房まで
本格志向の刃物店
あさがや しんかい
杉並区阿佐谷南1-35-21
(阿佐谷パールセンター商店街)
藤井達也(平成2年卒)
3/6

第55回 総明会 総会・懇親会の開催を心から御祝い申し上げます。ドスコイ！

第53回幹事学年
平成二年卒業
明愛会(めいあいかい)
I ♥ Meiji

明愛会

嗚呼なんと、
人の心の「やさしさ」よ
人の心の「あたたかさ」よ

同期諸君、総会懇親会で令和の幕開けに乾杯しよう！

※今年度の明愛会同期会は8/25に神保町で開催されました。来年も是非ご出席ください！

作業服、防災服、製鉄所炉前用前掛け、
オーバーシューズ、クリーンルーム用防塵服・
シート各種、野積用、自動車用
猪鼻繊維工業株式会社
代表取締役 山口嘉樹
(明愛会　水泳部 OB)
本社　東京都品川区南大井1-16-8
Tel. 03-3763-9651（代）
Fax. 03-3763-9659
E-mail : inohana@titan.ocn.ne.jp

美しく希少性の高いカラーストーンやダイヤモンドを、
リーズナブルな価格で取り揃えています。
株式会社 大柏

米国宝石学会鑑定士 (G.I.A G.G)
大崎裕和
明愛会　バドミントン部
09025542979

お酒のご用は
日本屋
銘酒「真澄」(長野)特約店

● 〒277-0005 千葉県柏市柏 1-1-3
TEL. 04-7163-3252（代表）
● 千葉県柏市柏 1-1-11　ファミリー柏1階
TEL. 04-7163-7161（柏駅前店）

明愛会（平成２年卒）
鈴木 宏房

和の野菜料理の店／ベジタリアン対応
味農家
https://minoyavege.com
店主 河原潤治（明愛会）
東京都台東区鳥越1−5−5
『おかず横丁』商店街内
Tel. 03-3866-3795
11:30~13:00/17:30~22:30
定休日　日・祝・月末日

昌平坂特許事務所
代表／弁理士
特定侵害訴訟付記 吉田信彦
（平成2年卒 明愛会）
yoshida@shohey.com
https://shohey.com/
東京都千代田区神田神保町 1-39-8
ハウス神保町 2F　〒101-0051
TEL 03-5259-0024

倉持法律事務所
弁護士 倉持政勝
（平成3年卒・硬式野球部）
〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-13-3
興和日本橋ビル2階
電話： 03-5614-1420
FAX： 03-5614-1421
http://www.kuramochi-law.jp

太鼓・神輿・祭礼具・神具の製造販売
創業元禄二年 南部屋五郎右衛門
平成2年卒　明愛会　歴史研究部OB　石渡浩司
東京都台東区元浅草2-10-10 Tel. 03-3843-3335 e-mail : nanbuya56@nifty.com
Rakuten 楽天　南部屋五郎右衛門 | 検索
太鼓・神輿の新調・メンテナンスの際は、是非当店にご相談下さい

祝 第55回 総明会 総会・懇親会
平成3年卒
人生の名人たれ 明仁会
ONE MEIJI ～ 明治はひとつ ～

不動産売買・仲介・管理
太明地所株式会社
代表取締役 浅倉太明
（平成3年卒　スキー部）
東京都中央区銀座8-8-15 青柳ビル5F
TEL 03-3571-0655
FAX 03-3571-0615
ginza@taimeijisho.jp

KOBA YASHI DENSO

建築物を彩るイルミネーションなどの
工事を手掛けるのが、私たち「小林電装」です
小林電装株式会社 www.kobadenn.co.jp/
〒111-0054　東京都台東区鳥越2−10−15
TEL. 03-3866-6311　FAX.03-3866-6302
代表取締役　小林 健太郎（平成3年卒）
MAIL　info@kobadenn.co.jp

SOKEN ENTERPRISE
床を「貼る」、壁を「貼る」
約束を守る、契約を実行する
快適な空間にこだわり続けること
ソーケンエンタープライズ株式会社 http://www.soken-ep.co.jp/
〒125-0062 東京都葛飾区青戸 4-18-12　TEL. 03-3603-8811　FAX. 03-3690-4641
代表取締役　小川 吾朗（平成 3 年卒）専務取締役　小川　滋（昭和 44 年卒）

税理士法人 オーケーパートナー
代表社員 大久保 俊治
（平成3年卒 明仁会 バレー部）
東京都荒川区町屋８－８－７
TEL. 03-3892-4426
ohkubo-kaikei@tkcnf.or.jp
http://okpartner.co.jp

繁栄する場を創る　建築・インテリアデザイン
SASSOU 株式会社
代表取締役 塩野目 明（平成3年卒）
東京都港区西麻布4-8-24-203
TEL : 03-6316-1822 / FAX : 03-6800-3778
E-mail : shionome@sassoujapan.co.jp
www.sassoujapan.co.jp
SASSOU Inc.

坂田税理士事務所
税理士 坂田　覚
（平成3年卒 明仁会）
〒173-0004
東京都板橋区板橋 3-41-3
都営三田線「板橋区役所前駅」徒歩6分
TEL 03-3962-6164

創業昭和2年 合繊織編物卸
三和繊維株式会社
代表取締役 小林 正典
（快汗、どすこい塾）
東京都文京区千石4-39-19 三和第一ビル
TEL. 03-3946-0248　FAX. 03-3946-0389

「S」= SURPRISE「W」= WONDERFUL なテキスタイルの発信をモットーに、豊富な情報力を武器に常に一歩先のテキスタイルを企画・生産・ストックし、1mからお客様に販売可能なデリバリー体制を構築しております。

ダイレクトメール　印刷物・商品等梱包発送代行一式

株式会社 TCS

本社 〒136-0071　東京都江東区亀戸1丁目42番18号
TEL:03-3636-2681(代)
FAX:03-3636-2684
URL:http://www.tcs-tokyo.com

有限会社 東宏商事
取締役 青木貴史
（平成３年卒 明仁会 ）
〒171-0033
東京都豊島区高田 3-10-21 東宏ビル
TEL. 03-3200-1370
Takashi.Aoki@toko-shoji.com

Law Office SORA
法律事務所 空
弁護士 栗田　隆
（平成3年卒 明仁会）
東京都千代田区神田神保町2－2
新世界ビル601号室　〒101-0051
TEL 03-3556-3035　FAX 03-3556-3036
kurita.t@lawoffice-sora.jp

日本蕎麦堀留町
尾張屋
藤﨑 信
（平成3年卒　バレー部）
東京都中央区日本橋堀留町1-11-7
TEL 03(3661)4488

横田公認会計士事務所
公認会計士・税理士
横田武久（平成3年卒 明仁会）
〒101-0047
東京都千代田区内神田3-4-10
氏家ビル 6階
TEL：03-6271-7981
FAX：03-6271-7982
E-mail : info@yokota-kaikei.com
http://www.yokota-kaikei.com

不動産管理・賃貸業　有限会社 明克
MEIKOKU
http://www.meikoku.co.jp
代表取締役 櫻井　崇
（平成3年卒 明仁会）
川崎市川崎区日ノ出2-16-1
TEL 044 (266) 8111

第55回 総明会 総会懇親会 ご来場心よりお待ちしております
快汗、どすこい塾
平成４年卒　幹事学年
『つなぐ』～Meiji の薫りを令和へ～

私世代のために今考えましょう。相続のこと
櫛田税務会計事務所
NPO法人 相続アドバイザー協議会認定会員
税理士・相続診断士 櫛田 実
（平成３年卒 明仁会 ）
〒273-0002
千葉県船橋市東船橋３丁目 36 番１号
TEL. 047-423-2545
kushida2010anchor@gmail.com

都市の安心と街の便利を高い技術力で強力にバックアップ
HOKUTO ENGINEERING
ホクト・エンジニアリング株式会社
HOKUTO ENGINEERING Co.,Ltd
〒120-0005 東京都足立区綾瀬3-14-6-304
TEL. 03-5682-5440　FAX. 03-5682-5789
http://www.hokuto-eng.com
平成4年卒　快汗、どすこい塾
廣村 昌寛

天野智充税理士事務所
www.amanozeirishi.jp
税理士 天野智充 バレー部OB
（平成4年卒 快汗、どすこい塾）
Mobile 090-2647-1224
Mail: amanozeirishi@juno.ocn.ne.jp
東京都豊島区南池袋 2-18-9
マシャンブル南池袋 302 号
TEL 03-5944-8636
FAX 03-5944-8710

川芙蓉
TEL03-3296-2988
川芙蓉イチオシの食べ飲み放題。
うれしいオーダー式の食べ放題♪
お一人様2,980円～(税別)

紫紺館から2分！
閉店した「アミ」の左隣！
東京都千代田区神田小川町3-16

2020年の教育改革に向けての入試情報、学習指導法、科学などの講演、お手伝いをします。
昭和女子大学研究員, 大学受験予備校講師
西村 能一（にしむら よしかず）
（平成4年卒　快汗、どすこい塾）
TEL　090-3961-7230
E-mail　nishimura@no-ichi.com
Twitter　@no_ichi_

～ヘアケアのトータルソリューションメーカーをめざして～
おかげさまで創業80余年
TENSTAR
株式会社 三宝
東京都豊島区池袋2-51-13　佐久間製菓ビル４F
TEL. 03-3987-8210　FAX. 03-3987-8213
URL　http://www.tenstar.jp
森　直樹（平成４年卒・硬式野球部 OB）

株式会社マンデラ
～感動を創造する添乗
オーナー　梁瀬昌宏
快汗、どすこい塾（H4 年卒）
応援指導班 OB

URL http://www.mandela.jp/

造園設計施工管理
株式会社 グリーンタス
greentas+
Good Garden Works

代表取締役社長 **後藤充宏**
（平成4年卒 快汗、どすこい塾）
神奈川県藤沢市亀井野 2020-2
TEL & FAX 0466-51-4553
mail : 510@greentas.jp

第 55 回総明会総会・懇親会　幹事学年

平成4年卒（快汗、どすこい塾）
硬式野球部OB一同

安達　幸彦	石山　賢	今本　辰広
浦　和正	大山　聡	栗生　孝雄
相良　明	佐々木敦史	佐藤　英雄
高橋　信秀	寺土　博昭	福田　浩茂
藤井　広之	牧野英太郎	森　直樹

下町の小さな飾り屋さん
美を結ぶ
むすびの
～MUSUBINO～
下町の小さな飾り屋さん 髪飾品製造卸 有限会社 大野商店®
代表取締役 大野光照　平成4年卒 快汗、どすこい塾
〒111-0054 東京都台東区鳥越 2-7-12
TEL & FAX 03-3851-9929

amazon店
BASE店
たま～に更新してます
Instagram

SURPASS
サーパス工業株式会社
代表取締役社長 **今 井 高 志**（平成5年卒）
〒361-0037 埼玉県行田市下忍2203
Tel.048-554-9760（代表）Fax.048-554-9772
e-mail　t-imai@surpassindustry.co.jp

国産・輸入車各種、自動車部品販売、
オーディオ、オプション品、工具等

有限会社 大佐自動車部品
〒134-0081 江戸川区北葛西 3-3-2
TEL:03-3680-8447　FAX 03-3689-6672

代表取締役　**大山　聡**
平成 4 年卒　快汗、どすこい塾
硬式野球部 OB

太平洋セメント株式会社特約店
生コン・壁材料・左官工具及機械
有限会社 福田商店
代表取締役 **和田康正**
（平成5年卒・バスケ部）
東京都墨田区押上2-7-8
TEL 03-3625-3309
FAX 03-3625-8395

D E N
hostel DEN は、「DEN」本来の意味である「書斎や趣味の部屋、隠れ家のような部屋」から転じて「ゲストに自分の家のようにリラックスした時間を過ごして欲しい」というコンセプトを持ったホステルです。

藤井 広之　平成４年卒 硬式野球部ＯＢ
〒103-0023 東京都 中央区日本橋本町 4-13-8
Tel. 03-6661-2067　Fax. 03-6662-2067
小伝馬町、新日本橋駅至近　屋上で BBQ もできます

https://hostel-den-jp.book.direct/　hostelden　hostel DEN

SAKURA Group
株式会社SAKURA-TRUST
代表取締役 **熊木達朗**
（平成6年卒）
〒105-0012
東京都港区芝大門1-5-2須田ビル3F
TEL 03-5472-7400　FAX 03-5472-3500
関連会社　株式会社さくら航産
株式会社さくら管財

祝 第55回総明会 総会・懇親会
平成5年卒 同期会　明 鐘 会　総明会 次期幹事学年
meishokai.1993@gmail.com

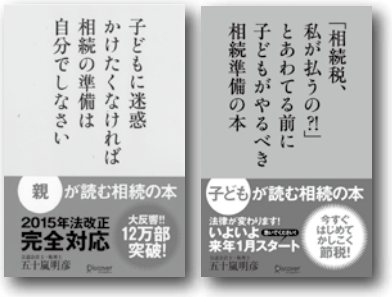
松島俊行
税理士事務所
代表社員
松 島 俊 行
平成 8 年卒
吹奏楽班 OB

Tax·Is

税理士法人 タックス・アイズ

代表社員 五十嵐明彦（平成6年卒）

〒101-0041
東京都千代田区神田須田町1-28 フォーラス神田3F
TEL: 03-3255-0551 FAX: 03-3255-0552



総合建設業
株式会社 吉田工務店

代表取締役社長 吉田浩士

平成８年卒　吹奏楽班OB

〒331-0052
埼玉県さいたま市西区三橋6-152-10
TEL. 048-623-4711
FAX . 048-623-8944

STEP 国際特許事務所

代表 弁理士 高橋 豊
（平成6年卒 隆明会 物理部OB）

東京都千代田区九段南 4-7-10
九段藤山ビル２階
電話 03-6268-9906
y.takahashi@step-pat.com

株式会社 宮本卯之助商店

創業 文久元年

宮本卯之助

宮本卯之助
（昭和35年卒業）

〒111−0035 （西浅草店）
東京都台東区西浅草2−1−1
TEL 03-3844-2141
FAX 03-3844-6730

omori

大正13年創業。ご要望の建築資材を、タイムリーに。
オオモリ・マテリクスは、お客様に「信頼」をお届けしています。

株式会社オオモリ・マテリクス

代表取締役 大森清嗣（長男 大森貴之 平成21年卒 野球部OB）

本　　社 〒101-0023 東京都千代田区神田松永町18番
TEL 03-3253-9411 FAX 03-3253-9418
営業本部 〒135-0053 東京都江東区辰巳2丁目3番1号
TEL 03-5534-7700 FAX 03-5534-7708

土屋依正税理士事務所

税理士 土屋依正
（平成12年卒 明瀑会）

東京都豊島区南池袋 2-47-14
聖和ビル３階 〒171-0022
TEL 03-5927-1614
FAX 03-5927-1138
tsuchiya@tsuchiya-tax.jp

弁護士・通関士
増井陽一
（平成12年卒 バスケ部OB）

横木増井法律事務所
東京都港区虎ノ門5丁目2-6
虎ノ門第2ワイコービル 5F
TEL：03-6277-6359
https://ym-partners.com/

清水裕貴 伝説の防士 バスケ部

クオリティの高い映像作品づくりで数々の実績！情熱的なクリエイティブ軍団
TV 番組・CM・web 等映像の企画・制作及びクリエイターのエージェント

株式会社 東京コンテンツラボ　高木征太郎（平成5年卒）

東京都港区南青山 6-13-2
ブルジョン南青山 6 階
☎ 03-6427-9130

Tokyo Contents Laboratory
グループ会社
株式会社ブレインウォッシュ・株式会社高木通商

顧問契約・SPC業務・各種アウトソーシング
AOJ税理士法人

代表社員 出澤貴人（いでさわ たかひと） H3卒
税理士・不動産証券化協会認定マスター

東京都中央区八丁堀4-2-10
BRICKGATE京橋3F
TEL 03-5542-0137 FAX 03-5542-0138
E-Mail t-idesawa@aojtax.or.jp
https://aojtax.or.jp

令和元年度 総明会活動報告

令和元年度 総明会 役員一覧

（敬称略）

委員会・役職	年　卒	氏　名
名誉会長	昭和36年	向殿　政男
名誉顧問　明治大学理事長		柳谷　孝
名誉顧問　明治大学学長		土屋　恵一郎
顧問	昭和29年	山浦　晟暉
顧問	昭和32年	山崎　敬生
顧問	昭和41年	尾島　育四郎
顧問	昭和43年	佐久間　洋一
顧問	昭和44年	服部　雄二
顧問	昭和44年	関谷　芳久
顧問　明治高校校長		安藏　伸治
会長	昭和45年	吉田　耕太郎
副会長	昭和50年	山崎　秀樹
副会長	昭和51年	井家上　哲史
専務理事	昭和54年	熊倉　章雄
常務理事	昭和50年	近藤　敏彦
会計	昭和50年	吉武　孝生
事務局長	昭和59年	平野　一哉
副事務局長	昭和61年	土田　正昭
総会委員会　委員長	昭和60年	町側　尚則
副委員長	昭和61年	栗本　宣長
副委員長	昭和63年	山下　征隆
副委員長	平成元年	嶋田　剛久
広報委員会　委員長	昭和57年	関川　一浩
M発刊総括　担当理事	昭和56年	衛藤　雅一
ホームページ総括　担当理事	昭和59年	島村　武史
会報発送印刷　副委員長	昭和59年	田中　重幸
学校PTA担当　副委員長	平成2年	遠藤　克彦
ホームページ　副委員長	昭和59年	佐藤　昌彦
会報構成編集　副委員長	昭和62年	高橋　雅之
幹事学年指導　副委員長	平成3年	山口　一郎
M編集　副委員長	平成23年	三浦　直人
企画委員会　委員長	昭和54年	志村　和哉
明朗会　担当理事	昭和61年	横山　一実
チャリティゴルフ　担当理事	昭和63年	安川　琢哉
チャリティゴルフ　副委員長	昭和61年	清水　孝浩
明朗会　副委員長	昭和63年	尾崎　博之
チャリティゴルフ　副委員長	平成元年	小柳　貴裕
明朗会　副委員長	平成2年	今泉　仁
チャリティゴルフ　副委員長	平成2年	松尾　健司
組織委員会　委員長	昭和61年	鵜飼　友義
副委員長	昭和58年	高橋　浩
副委員長	平成元年	福島　維規
副委員長	平成元年	村嶋　健児
副委員長	平成元年	瀧　慎一郎
総務委員会　委員長	昭和63年	光岡　孝之
副委員長	昭和52年	大西　静士郎
副委員長	昭和56年	須藤　貢一
副委員長	昭和61年	野津　真男
名簿委員会　委員長	昭和56年	鴨下　裕彦
監事	昭和44年	中河　孝樹
監事	昭和56年	狩野　智雄

令和元年度 総明会 評議員一覧

同期会

卒業年	名称	氏名	氏名
昭和12年		中富　光国	
昭和19年	明中２８会	新田晃太郎	
昭和21年	午巳の会	小林　昭雄	
昭和24年		内藤　功	
昭和25年	明二会	小田川玉城	
昭和26年	猿楽会	熊井　実	
昭和27年	明高会	米山　耕右	渡邉　幹夫
昭和28年	明窓会	戸田　一郎	佐藤　欣生
八丈島高校	八明会	持丸　孝雄	高橋　和夫
昭和29年	29会	山本　峰司	橋崎　正義
昭和30年		宇田川雄弘	
昭和31年	明楽会	佐藤　健一	大出　育男
昭和32年	明治会	長野　敏樹	太田　喜久
昭和33年	三三会	鈴木　寿雄	藤田　義茂
昭和34年	旧雨会	秋山　義昭	希代　章
昭和35年	珊瑚の会	倉林　貞夫	天野　洋一
昭和36年	明駿会	加藤　眞義	谷　正之
昭和37年	37会	戸谷　誠樹	中村　哲士
昭和38年	二年に一会	三浦　昭生	服部　紀夫
昭和39年	三九会	佐藤　仁	堺　健一
昭和40年	明優会	阿部　正行	大関　清人
昭和41年	41明友会	廣瀬　準	菊本　哲也
昭和42年	M41	後藤　孝男	新村　秀男
昭和43年	紫讃会	志村　一夫	小田嶋保男
昭和44年	男坂倶楽部	寺田　康夫	藁谷　豊
昭和45年	獅子の会	比留間竹郎	山形　英明
昭和46年	明潮会	木村　茂	金子　敏一
昭和47年	四七四七同志酔会	戸張　毅	
昭和48年	波の会	海老根一介	雨海　重明
昭和49年	翼明会	佐藤　眞弘	大前　実之
昭和50年	明紫会	三森　勲	雨宮　弘典
昭和51年	明々会	前田稲一朗	山田　眞也
昭和52年	男子校根性組	佐藤　大英	角谷　幹夫
昭和53年	紫友会	加藤　裕之	竹越　利之
昭和54年	明誠会	矢ノ目　忠	
昭和55年	紫魂会	大迫　好孝	渡辺　裕之
昭和56年	明翔会	寺村　一義	蓬田　裕一

業年	名称	氏名	氏名
昭和57年	明魂会	岩崎　広人	田中　幹浩
昭和58年	明輪会	秋間　聡	高橋　浩
昭和59年	明心会	田中　重幸	渡邉　文夫
昭和60年	闘紺会	和田　直弘	矢澤　徹
昭和61年	新世輝	池田　曜	高橋　誠
昭和62年	明猿会	赤岩　大輔	中澤彰次郎
昭和63年	昭和戊辰乃会	芳澤　徹	川角　光太
平成元年	改元会	横島　高之	杉山　純也
平成2年	明愛会	今泉　仁	神保桂一郎
平成3年	明仁会	山口　一郎	斎藤　直宏
平成4年	快汗､どすこい塾	小畑　啓	福田　浩茂
平成5年	明鐘会	安藤　高利	長野　吉克
平成6年	隆明会	三保谷健介	熊木　達朗
平成7年		石田　頼央	金子　敦史
平成8年		青木　大樹	
平成9年	紫雲会	小谷　健志	香川　満洋
平成10年	紫98倶	秋山　光億	平田　健
平成11年	明哲会	石川　一仁	戸邊　寛
平成12年	明瀑会	玉木万理夫	保科　大輔
平成13年	明治２１	大橋　弘頌	岡庭　朋威
平成14年		上原　康仁	下田　良征
平成15年		武　雄一郎	
平成16年		杉田　将平	徳竹　正憲
平成17年		室井　純	荒川　佳史
平成18年	白雲会	山崎　裕貴	角田　隆悟
平成19年		横倉　光輝	大竹　惇
平成20年		渡辺　圭	早川　慎吾
平成21年		加藤　敦	大森　貴之
平成22年	明雄会	亀屋　将紀	佐藤亨太郎
平成23年	共楽会	平田　裕貴	三浦　直人
平成24年		三浦　彩	市川　陸
平成25年		師岡　忠寛	押田　華穂
平成26年		岡田　尚也	柴田加菜子
平成27年		赤坂　菜摘	渡邉　直人
平成28年			
平成29年		佐藤　陸	小栗　未琴

班クラブOB会

名　称	氏　名
生徒会本部	（休会）
応援指導班	廣野　宏士
新聞班	西山　光彦
吹奏楽班	斉木麻州男
図書班	平田　幸彦
放送班	宮田　健
剣道部（見心会）	鈴木　幸男
硬式野球部（明球会）	世古　俊之
サッカー部	大室　智
柔道部	小川　洋一
水泳部（明水会）	中村　明彦
スキー部（明雪会）	岡本　雅仁
卓球部（明卓会）	高橋　正侑
庭球部	奈良部利昭
バレー部	樋田　哲次
フェンシング部	岩重　哲雄
陸上競技部	櫻井　勝也
バスケットボール部	木戸　基満
囲碁部	田島　弘資
化学部	森　八一
物理部(明物会)	礒部　進
マンドリン部	赤岩　大輔
地理研究部	大塚　和哉
歴史研究部	山下　征隆
アイスホッケー愛好会(明氷会)	武藤　仁
JRC	横谷　昌明

昨年1年間ご連絡を取れなかった評議員の方はお名前を記載できませんでした。
お気づきの方は、総明会事務局まで、ご連絡を頂けますようお願いいたします。

令和元年度 活動報告

総明会 専務理事
熊倉 章雄

第54回総明会総会・懇親会は、平成30年11月25日（日）ハイアットリージェンシー東京にて３５０名を超える方々が参加し盛大に行われました。ご来賓の皆様、参加された皆様、誠にありがとうございました。

今回の幹事学年は、平成3年卒「明仁会」の皆さんで、「ＯＮＥ ＭＥＩＪＩ ～明治はひとつ～」というテーマのもと、会報誌「紫紺の詩」の記事には、退職された先生が残された『学級通信』や現役生徒へのインタビュー、『師弟愛』『親子愛』などが載せられました。

また、懇親会の前に行われた「講演会」や「就活会」には大勢の方が参加して、有意義な企画になりました。幹事学年の皆さん本当にお疲れさまでした。

さて総明会では今年度も以下の活動をしてまいりました。3月10日の卒業式には本部役員が参加し、２８８名の卒業生の中で、学業だけでなく、班・クラブ活動において顕著な活躍をした5名に「総明会賞」を授与しました。5月25日には総明会チャリティーゴルフ大会を開催し、幅広い世代から１１７名の参加があり、交流を深めました。7月6日には「評議員・班クラブOB・OG懇親会」を行い、9月16日には「明朗会」と称し『大相撲観戦』にて大先輩方にお楽しみいただきました。

対外的な活動としては、明大中野校友会「武陵会」と2月22日に懇親会を行い、5月25日には「武陵会総会」に参加しました。

6月15日にはＰＴＡのＯＢ会である「白駿会総会」にも参加しております。

若手との接触も活発で、高校Ⅲ年生への総明会説明会や卒業生との昼食会、大学４年生との交流会も進めております。

近年、各委員会の委員長と副委員長の若返りが顕著で、新たな企画や活動が活発になっております。今後益々総明会が発展していくことを期待していただき、活動報告とさせていただきます。

2019年度 総明会年間行事予定

1月25日（金）	第1回理事会
2月8日（金）	第1回評議員会
2月15日（金）	顧問会
2月19日（火）	高校3年生対象の出張講義 高校3年生対象の総明会説明会
2月22日（金）	武陵会との懇親会
3月1日（金）	第2回理事会
3月10日（日）	明治高校卒業式／総明会賞授与5名 卒業記念祝賀会
3月16日（土）	高校3年生と食事会
3月22日（金）	第2回評議員会
4月6日（土）	明治高校入学式
5月10日（金）	第3回理事会
5月25日（土）	第24回総明会チャリティーゴルフ 武陵会総会
6月7日（金）	会計監査
6月15日（土）	白駿会総会
7月6日（土）	評議員/班・クラブOBOG会 懇親パーティー
7月19日（金）	第4回理事会
9月16日（月・祝）	明朗会
9月28・29日（土・日）	紫紺祭
10月4日（金）	第5回理事会
11月1日（金）	第3回評議員会
11月24日（日）	第55回総明会総会・懇親会
12月7日（土）	役員忘年会

総会委員会 活動報告

総会委員会 委員長
町側 尚則

本年度、我々総会委員会は昨年度に引き続き、委員長の町側（昭和60年卒）を筆頭に栗本副委員長（昭和61年卒）、嶋田副委員長（平成元年卒）、本間委員（昭和61年卒）、山崎委員（昭和62年卒）、永瀬委員（昭和62年卒）、山下委員（昭和63年卒）高山委員（平成2年卒）の布陣にて分科会での意見交換や定例会、総会・懇親会当日における幹事学年のサポートを行っております。

昨年度の幹事学年「明仁会」の皆さんが準備を進めてくれた、第54回総会・懇親会が平成30年11月25日（日）新宿にあるハイアットリージェンシー東京にて盛会のうちに開催されました。総明会総会委員会として、ご参加いただいた総明会会員の皆様には厚く御礼を申し上げるとともに、約一年にわたり、総会・懇親会を企画、運営するため準備に奔走してくれた幹事学年「明仁会」の皆様には改めて心から感謝申し上げます。

後藤 実行委員長を中心に「ＯＮＥ ＭＥＩＪＩ～明治はひとつ～」をテーマとして同期がまとまり、恒例となった就活会、特別講演会、ライブセッション等こだわりの企画を緻密にそして大胆に催した結果、盛会につながったと得心しています。

本年度も幹事学年である「快汗、どすこい塾」が「『つなぐ』～Ｍｅｉｊｉの薫りを令和へ～」をテーマに平成4年卒の同期が一丸となって総会・懇親会に向けた準備を進めてくれております。

本年度の総会・懇親会は、令和元年11月24日（日）ハイアットリージェンシー東京にて開催されます。

幹事学年は同期仲間と知恵を絞りながら、ご参加いただく皆様に楽しんでもらえる企画を考えております。今年も一人でも多くの総明会会員の皆様に総会・懇親会会場へ足をお運びいただけるように心よりお願い申し上げます。幹事学年共々、お待ち申し上げております。

令和元年度 会計報告

総明会 平成30年度 一般会計報告（自）平成30年4月1日～（至）平成31年3月31日

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	12,646,306円	会議費	371,100円
新入会員入会金	2,880,000円	交流費（学校・他）	1,314,975円
新入会員永久会費	4,320,000円	会報発送費用	1,497,630円
学年会費	885,000円	事務通信費	148,826円
雑入（会議費・他）	510,000円	各委員会活動費	1,280,839円
雑入（ゴルフ委員会）	0円	財政基盤基金へ組入れ	1,000,000円
預金利息	986円	次年度繰越金	15,628,922円
合　計	21,242,292円	合　計	21,242,292円

総明会 平成30年度 基金会計報告（自）平成30年4月1日～（至）平成31年3月31日

基金区分	平成29年度末残金	平成30年度増減額	摘要	平成30年度末残金
事業遂行基金	14,347,206円	0円		14,347,206円
財政基盤基金	6,016,000円	1,000,000円	一般会計から繰入	7,016,000円

上記の通り報告いたします。　平成31年3月31日　会長　吉田耕太郎　会計　吉武　孝生
監査の結果相違ありません。　令和元年6月30日　監事　中河　孝樹　監事　狩野　智雄

総明会 令和元年度 一般会計予算（案）（自）平成31年4月1日～（至）令和2年3月31日

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	15,628,922円	会議費	530,000円
新入会員入会金	2,610,000円	交流費（学校・他）	1,420,000円
新入会員永久会費	3,915,000円	会報発送費用	1,720,000円
学年会費	930,000円	事務通信費他	290,000円
雑入（会議費・他）	600,000円	各委員会活動費	1,742,000円
雑入(寄付金・利息）	10,000円	財政基盤基金へ組入れ	4,837,724円
設立50周年記念事業	1,200,930円	次年度繰越金	14,355,128円
合　計	24,894,852円	合　計	24,894,852円

総明会 令和元年度 基金会計予算（案）（自）平成31年4月1日～（至）令和2年3月31日

基金区分	平成30年度末残金	令和元年度増減額	摘要	令和元年度末残金
事業遂行基金	14,347,206円	652,794円	一般会計から繰入	15,000,000円
財政基盤基金	7,016,000円	2,984,000円	一般会計から繰入	10,000,000円
周年行事基金	0円	1,200,930円	一般会計から繰入	1,200,930円

第54回 総明会 特別会計報告（自）平成30年4月1日～（至）平成31年3月31日

収入の部		支出の部	
総会会費収入	2,930,000円	総会関係費	6,594,717円
総明会より助成金	1,797,630円	会報関係費	4,309,394円
寄付・広告	8,388,006円	運営関係費	2,211,525円
合　計	13,115,636円	合　計	13,115,636円

第55回 総明会 特別会計予算（案）（自）平成31年4月1日～（至）令和2年3月31日

収入の部		支出の部	
総会会費収入	3,000,000円	総会関係費	6,600,000円
総明会より助成金	1,800,000円	会報関係費	4,300,000円
寄付・広告	8,400,000円	運営関係費	2,300,000円
合　計	13,200,000円	合　計	13,200,000円

総明会設立50周年事業会計報告（自）平成25年11月10日～（至）平成31年3月31日

収入の部		支出の部	
学年・班・クラブ寄付金	1,752,000円	会報作成費用	7,847,458円
個人寄付金	4,691,000円	消耗品費	211,857円
チャリティゴルフ寄付金	150,000円	事務通信費	88,926円
企業広告収入	3,000,000円	保管料	244,503円
預金利息	674円	次年度繰越金	1,200,930円
合　計	9,593,674円	合　計	9,593,674円

広報委員会 活動報告

広報委員会 委員長
関川 一浩

広報委員会は、「紫紺の詩」・「M」の発刊、「ホームページの運営」を柱に活動をしております。

・「紫紺の詩」発刊活動

本年も、幹事学年の学年テーマに沿った編集内容の会報誌となるよう、1月から月1回の頻度で活動を行っております。

本年は、「『つなぐ』～Ｍｅｉｊｉの薫りを令和へ～」をテーマとし、特集企画記事を組んでおります。幹事学年が総明会全ての世代の会員の皆様に興味を持っていただけるような内容となるよう、幹事学年の思いが詰まった内容となっておりますので最後まで是非お楽しみください。

また、来年度は、若年層の各学年の寄稿を増やすべく、組織委員会とも連携をとりながら活動していきます。

・「M」発刊活動

衛藤担当理事のサポートのもと、平成23年卒から平成30年卒までの多彩なメンバーで、活動を行ってまいりました。総明会会員のなかでも若年層会員の方々に、より総明会を理解していただけるよう若手メンバーが独自に企画・編集しておりますので「紫紺の詩」同様こちらもお楽しみください。

なお、「M」につきましては、「紫紺の詩」同封にて皆様のお手元に届けさせていただきました。

・ホームページの運営

島村担当理事を中心に、総明会活動報告・各種告知、同期会・班クラブＯＢ・ＯＧ会開催の案内、連絡先不明の同期の皆様への呼びかけ等を行っております。

総明会活動の各種情報提供の場としてタイムリーな情報発信をしてまいりますので、是非、同期の方々へホームページの紹介をお願いします。

広報委員会では、今後も皆様へ様々な情報をお伝えする活動を進めてまいります。お気づきの点や、ご意見・ご要望等がございましたらホームページの「お問い合わせ」からお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、取材・インタビュー・情報提供等にご協力いただきました会員の皆様及び関係者、並びに学校関係者各位に厚く御礼を申し上げます。

総務委員会 活動報告

総務委員会 委員長
光岡 孝之

総明会会員の皆さま、いつも総明会活動にご協力いただきまして誠にありがとうございます。幹事学年「快汗、どすこい塾」の皆さま、総会・懇親会の準備・運営、本当にありがとうございます。

本年度の幹事学年のテーマは「『つなぐ』～Ｍｅｉｊｉの薫りを令和へ～」ということですが、まさに現在、総明会は幹事学年以下の若い世代の掘り起こしを行っております。総明会には11月の総会のほか、年3回の評議員会、初夏に開催される評議員・班クラブＯＢＯＧ会という年間5回の参加機会があります。特に、評議員会は総会に次ぐ、議事決定機関です。しかし、幹事学年未経験の世代には評議員会そのものが何なのかが伝わっておりません。

そこで総務委員会は「評議員会および評議員の認知」を目的とし、「出席率と出欠ハガキの返信率の向上」を目標に一年間活動を行ってまいりました。

その一環として、今期より写真のように案内状に「開催内容」と「評議員であること及び代行者を選定できること」を明示しました。是非とも開封の上、ご出席賜ります様よろしくお願いいたします。また、先輩諸兄におかれましては、あたたかく迎えていただきますよう引き続きお願い申し上げます。

これからも、総務委員全員誇りをもって活動してまいります。

年間活動

①年3回（1月、3月、10月）の総明会評議員会の準備及び運営、議事録作成
②評議員・班クラブＯＢＯＧ会懇親会（7月）の準備及び運営
③総会（11月）での議事録の作成
④忘年会（12月）の準備及び運営

この案内状を受け取ったあなたは学年、団体を代表する評議員です。

組織委員会 活動報告

組織委員会　担当理事
瀧　慎一郎

この会報が皆様のお手元に届くと、恒例の懇親会もそろそろです。同期・恩師・先輩・後輩…たくさんの懐かしい、ふるい顔が思い出され、待ち遠しさが昂ってくるという方も少なくないと思います。

そして、その懇親会と同じ日に開催している「就活会」の試みも今年で4年目。本会にご賛同される方も少しずつ増えてきているのではないかと感じています。回を重ねて来ていますので、当初、学生の立場で参加したOB・OGも、今や社会人の若手として活躍されていて、今度は、自らの体験を振り返りながら、社会人側の立場で参加される、といったサイクルも期待されるところです。

就職は、人生での一大イベント。不安と期待に揺れる若人が社会の入り口で決断を迫られるときです。そのような大切な場面で、先輩が後輩に向け親身になって相談に乗り、自らの人生を思い返しながら経験を語る、そして、それが後進の道標となっていく…近いうちに本会を通じ、先輩と同じ会社に決めた！という後輩たちが現れてくるはずです。そのような実績が徐々に積まれていけば、総明会のより強い絆が築かれていくものと考えます。

中国の五行思想というものによれば、人は「青春」を謳歌した後、「朱夏」というステージを迎えることになるようです。古人は、時代は違えど人生での本当に熱い季節は「青春」の後に待ち構えているということを知っていたのでしょう…。

学業や理論を離れ、実業や実践の場に移っていく…「朱夏」にこそ、厳しく険しいチャレンジが待ち受けています。就活会に集まる後輩たちは、まさにそのチャレンジに挑もうとしています。

人生における二つのステージ「青春」と「朱夏」をつなぐ。そのような架け橋的な役割を少しでもお手伝いさせていただくことができれば幸いです。『燃ゆる希望』を秘め、『高き理想の道を行く』後輩たち。彼らをサポートすべく、より良い会を企画・運営していく所存です。

昨年の「就活会」。今年も開催します！

「はじめての総明会」今年 明治高校を卒業したばかりの学年幹事と昼食会。最も年下の総明会会員です。

名簿委員会 活動報告

名簿委員会　委員長
鴨下　裕彦

名簿委員会では、毎年会員の皆様へお届けしております会報『紫紺の詩』の発送をはじめ、評議員会、ゴルフ、明朗会等への宛名シール、情報の提供を行っております。

会報『紫紺の詩』は、現住所が判明している会員（２０１８年度発送件数は１２、３２４件）に送付しておりますが、毎年さまざまな理由で多くの会報が返送されて参ります。ちなみに２０１８年度の返送数は５８０件でした。理由は宛先不明、不在期限切れ、旧住所表示の為配達不能、受取拒否、逝去により返却というものでした。名簿は毎年更新しておりますが、返送数は2年前が４４５件、昨年が５７８件でやや増加傾向です。会員の皆様の手元にお届けできないものが５％近く存在することが名簿委員会としてとても残念です。

ご本人による受取拒否、ご逝去による返却に関しては仕方ないとしても、宛先不明、不在、旧住所表示等の理由に関しては少しでも減らし、『出来るだけ多くの方に同窓会の会報を読んで頂きたい』そんな思いで名簿の管理をしております。ご自身のお引越しの時は勿論、同期の方の転居のご案内等の情報がございましたら是非ご一報ください。

今年から元号が『令和』となり新しい時代が始まりましたが、これからも永遠につながる同窓会であるためには正確な名簿は要（かなめ）となります。皆様のご協力をお願いいたします。

本年も同期会、班クラブのＯＢＯＧ会などの案内を出されます幹事の皆様、ご連絡頂ければ宛名シールを出力致しますので是非ご活用ください。恐縮ですが、宛名シールの出力は1回１、０００円をいただいています。ご了承ください。

名簿は大切な個人情報ですので、これからもプライバシーポリシーのもと厳格な管理を心がけて参ります。皆様のご協力を引き続きお願い致します。

住所変更・宛名シール出力等の連絡先
総明会事務局長　昭和59年卒　平野一哉
メールアドレス：k_hirano@motoyuki.jp
FAX：047-354-7070
※口頭での誤認防止のため、恐れ入りますが
FAX、メールでのご連絡をお願いします

企画委員会 活動報告
明朗会

企画委員会　担当理事
横山　一実

平成30年9月8日（土）、「第21回明朗会」を開催いたしました。

今年は趣向を変え、有名なものまねタレントを数多く輩出している新宿「そっくり館キサラ」にて、「総明会　ものまねショー」を企画いたしました。

当日は、60歳以上の大先輩を中心に、多くの先輩方が集まってくださり、大変賑やかな会となりました。

ものまねタレントの方々はテレビでもおなじみの方が多数出演され、笑いの絶えないひと時を過ごしました。

最後に恒例の校歌。そして全員揃っての集合写真を撮り、笑顔のうちにお開きとなりました。

これもひとえに皆々様のご協力、ご支援の賜物と思っております。企画委員を代表いたしまして、この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

また、今回も多くの方からご寄付をいただきましたので、ここでご報告させていただきます。

山浦晟暉様（昭和29年卒）・明楽会様（昭和31年卒）・吉田耕太郎様（昭和45年卒）・近藤敏彦様（昭和50年卒）・吉武孝生様（昭和50年卒）・岡本雅仁様（昭和51年卒）・小林謙之様（昭和57年卒）・平野一哉様（昭和59年卒）・土田正昭様（昭和61年卒）・明仁会様（平成3年卒）。

この度は、過分なるご支援をいただき、誠に有難うございました。

今後も明るく朗らかな会を企画してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

企画委員会 活動報告
チャリティゴルフ

平成4年卒　快汗、どすこい塾
大山　聡

本年度の開催で25回目の節目となるチャリティゴルフ大会が5月25日(土)、千葉県市原市の「米原ゴルフ倶楽部」にて雲一つない晴天の下総勢115名の参加により行われました。

夏を思わせる強い日差しの中、一人も体調を崩す事無く昭和30年卒から平成21年卒までとなる幅広い世代の参加をいただき、明治高校の歴史を改めて感じるゴルフ大会となりました。

競技は「新ペリア方式」で行われ、例年通りの【個人戦】【大名人戦】【名人戦】【学年、班、クラブ対抗戦】と様々な副賞、また今年は改元を迎え節目の年ならではの【昭和平成賞】【令和賞】が新たに設けられました。

結果は【個人戦】「蓑田克己氏(紫魂会／昭和55年卒)【大名人戦】「山内研氏」(明水会／昭和36年卒)【名人戦】「若松弘昌氏」(三九会／昭和39年卒)【学年、班、クラブ対抗戦】「紫魂会／昭和55年卒」がそれぞれ優れた成績にて優勝されました。

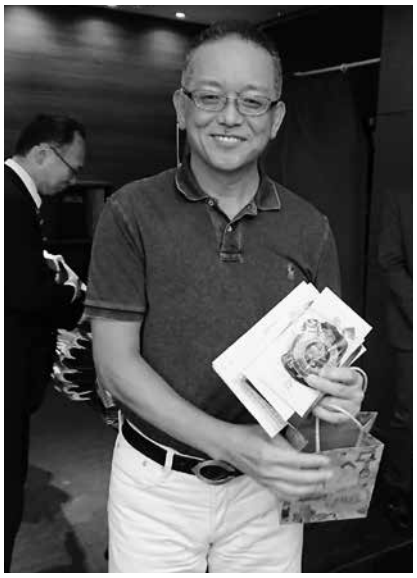
またその他の副賞におきましても幅広い世代から該当者が出ましたが、まだまだ平成卒の頑張りが足りないのか、諸先輩方の活躍が目立つ結果となりました。

そして今回も豪華賞品を取り揃えて盛大な表彰式を行うべく準備してまいりましたが、例年に比べスタート時間が遅く、参加者が楽しみにしている表彰式が盛り上がらないのではないかという心配がありました。

しかし、やはりここは「総明会」。我々の心配をよそに一致団結、旧友とのゴルフ談義や積もる話で最後まで笑いの絶えない表彰式となり、個人戦優勝の蓑田氏の代理として企画委員の志村氏へのプレザー贈呈、最後はお馴染みの校歌斉唱を応援団OB平成4年卒荘司氏のリーダーでクライマックスを迎え閉会となりました。

最後になりましたが、母校への「総明会チャリティゴルフ」の盛会に向けて多大なご協力、ご寄付を賜りました皆様にゴルフ委員会を代表して心より御礼申し上げます。

また「快汗、どすこい塾」のテーマは「つなぐ」となっておりますので、来年度の第26回大会へつなぐ架け橋となる様に微力ながらサポートさせて頂きます。来年度のチャリティゴルフへのご参加宜しくお願い申し上げます。


個人優勝　蓑田 克己 氏

名人戦優勝・個人戦準優勝 若松 弘昌 氏

大名人戦優勝 山内 研 氏

寄付ご報告（金一封）

山浦　晟暉	様	金壱萬円	熊倉　章雄	様	金壱萬円
佐藤　健一	様	金壱萬円	鴨下　裕彦	様	金壱萬円
山崎　秀樹	様	金壱萬円	平野　一哉	様	金壱萬円
吉武　孝生	様	金壱萬円	光岡　孝之	様	金壱萬円
近藤　敏彦	様	金壱萬円	廣田　拓郎	様	金壱萬円
井家上哲史	様	金壱萬円			

学校チャリティー報告

寄付 11 万 5 千円

賞品寄贈

明楽会一同	様	パター
中村　正容	様	タオル
栗田　　茂	様	バット他
堀　　眞壽	様	バッグ他
宮井　俊樹	様	アースモンダミンカップ観戦チケット
寺山　裕也	様	東京ドーム巨人戦観戦チケット
今泉　　仁	様	アースモンダミンカップ観戦チケット
米原ゴルフ倶楽部	様	お米　5kg x 6

※今回もたいへん多くの寄付と協賛を頂き、誠にありがとうございました。

		氏　名	卒業年	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
個人順位戦	優　勝	蓑田　克己	S55	42	38	80	9.6	70.4
	準優勝	若松　弘昌	S39	44	42	86	14.4	71.6
	3　位	斎藤　康弘	H2	44	48	92	20.4	71.6
	ベスグロ	鈴木英一郎	H4	39	40	79	6.0	73.0

		卒業年	代表選手名	NET
学年対抗戦	優　勝	S55 紫魂会	蓑田　克己	218.8
			加藤　　誠	
			志村　和也	
	準優勝	S43 紫賛会 チームM	橘　　晶男	222.4
			荻　　誠一	
			国井　孝重	
	3　位	S63 闘紺会 チームM	平林　康稔	224.6
			山口　達明	
			宮島　　賢	

		氏　名	卒業年	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
名人戦	優　勝	若松　弘昌	S39	44	42	86	14.4	71.6
	準優勝	橘　　晶男	S43	42	43	85	13.2	71.8
	3　位	木村　　茂	S46	40	41	81	8.4	72.6

		氏　名	卒業年	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
大名人戦	優　勝	山内　　研	S31	46	45	91	15.6	75.4
	準優勝	北川　恵一	S36	51	50	101	22.8	78.2
	3　位	山田　伸夫	先生	49	51	100	21.6	78.4

総勢115名の先生、父母会による「個人戦」、計31チームがエントリーした「学年対抗戦」のほか、昭和39年～昭和48年卒の先輩方26名による「名人戦」、昭和38年以前卒の先輩方11名による「大名人戦」が行われました。
4位以下の方はスペースの関係上、省略させていただきました。

前年度幹事学年挨拶

第54回総明会 実行委員長
平成3年卒　明仁会

後藤　朝英

第55回総明会総会・懇親会の開催に際しまして、明仁会一同、心よりご祝福申し上げます。

今年度は、第55回という節目になる「総会・懇親会」です。先輩方が永きにわたり紡いできた伝統の重みを感じながら、この一年『快汗、どすこい塾』の皆様は準備を進められてきたことと思います。忙しい中、準備を進めた「総会・懇親会」を、ご自身たちでも楽しみながら運営いただきたいと思います。

今年度のテーマ「『つなぐ』～Ｍｅｉｊｉの薫りを令和へ～」は、平成から令和へと元号が変わり時代が移り行くなかでも、明治の伝統を引き継いでいこうという思いが伝わる良いテーマだと考えます。

改めて振り返ると我々、明仁会にとって前年度幹事学年としての活動期間は、途切れかけていた同窓生とのつながりを取り戻した一年でした。明治高校を卒業してから27年の間、みんな様々な会社で働き、色々な立場に置かれ、家族を持ったり、いまだ独身であったり、親の介護をしていたりなどと、それぞれが色々なものを背負いながら生きていて、なかなかみんなと顔を合わせる機会はありませんでした。それが、幹事学年となったことで、みんなが集まり、同じ目標に向かって活動することで、改めて同窓のみんなとつながりができ、まさに総明会が我々を「つなぐ」役割を果たしてくれました。

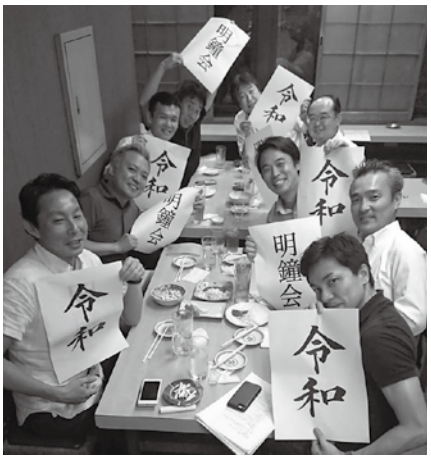
総明会の一番の魅力は、諸先輩方、後輩の皆さん、明治高校の先生方、在校生と「つながる」ことができることです。明治高校というアイコンのもと、みんなが集まる。このような学校を卒業したこと、また、素晴らしい先輩方が作ってくれたこの総明会の会員となったことをとても誇りに思っています。

『快汗、どすこい塾』の皆様も、今後同窓生とのつながりを大切にしながら、総明会の会員として、引き続きこの会を発展させていくことにご協力いただければと思います。

次年度幹事学年挨拶

第56回総明会 実行委員長
平成5年卒　明鐘会

横尾　克久



令和元年、「つなぐ」をコンセプトに日々活動されております「快汗、どすこい塾」の先輩方の活動を目にし、わずか1歳差にもかかわらず、先輩方の行動力、団結力の素晴らしさに驚くと共に感動、尊敬の眼差しで拝見しております。令和元年の総明会総会がどのような素晴らしい会になるのか、今から期待に胸を膨らませております。本年のどすこい諸先輩方の活動をしっかり目と心に焼きつけ、次年度に活かしてまいります。

私ども、平成5年卒は「明鐘会」と名付けました。校歌でお馴染みのフレーズ「撞くや時代の暁の鐘」から頂戴致しました。大学卒業後、有志10～20名程度で毎年紫紺祭初日に同期会を細々と行ってまいりましたが、命名においては、多くの候補から数年悩み抜いた末、昨年皆の総意で決めたのが、「明鐘会」であります。在校時代からそのように称されていたような、懐かしさとしっくり感とともに、明治プライドを一同強く意識しております。

評議員として理事会活動、明鐘会リーダーとして同期を引っ張っているのが元応援指導班、第49代応援団団長、安藤高利であります。昨年沖縄転勤となり、明鐘会活動の大半がオンラインとなっておりますが、このピンチは明鐘会のチームワーク野球でリカバリーしていく所存であります。

卒業後26年が経ち、仕事、家族を持ち、各々がコミュニティで活躍しています。こうして、かけがえのない友といまだ過ごすことができる幸せ、正に明高力を切に感じています。在校中、向殿先生の課外授業において〝同じ釜の飯を食った仲間は一生の友〟であるというお言葉を頂戴しましたが、その言葉を実感し反芻しております。今年は、明治高校への感謝と恩返し、明鐘会一同の結束力強化元年とし、来年オリンピックイヤー、記憶にのこる総明会に向け飛躍の1年としていく所存であります。諸先輩、諸先生のお力添え何卒よろしくお願い致します。

明鐘会各位　全員野球は僕らから！
集まらにゃ始まらない！
飲みに行こう！

本年度幹事学年挨拶

第55回総明会 実行委員長
平成4年卒 快汗、どすこい塾
小畑 啓

●時は来た

橋本真也、武藤敬司、蝶野正洋の3名は1984年に新日本プロレスの門を叩きました。1990年、東京ドームにおいて橋本の〝時は来た〟の発声とともに、彼ら闘魂三銃士は不動の地位を確立します。ちなみに近くの猿楽町では、どすこい'90が開催されましたよ。

●離れていてもつながっている

その後、橋本は新日本プロレスから解雇され、武藤は全日本プロレスの社長に、残った蝶野は新日本プロレスの現場責任者就任とそれぞれ別の道を歩みます。そして残念なことに2005年、橋本真也急逝。しかし6年後、息子である橋本大地のデビュー戦では蝶野が対戦相手として名乗りを上げ、武藤が解説者として駆けつけるのです。そう、彼らは「道」が別となり、友が亡くなってもちゃんとつながっていました。

巻頭掲載の本年のテーマ「『つなぐ』～Ｍｅｉｊｉの薫りを令和へ～」の説明文にもエッセンスが入っておりますが、明治大学の使命には「『個』を強め、世界をつなぎ、未来へ」とあります。闘魂三銃士が一時、離れ離れになってしまった様に見えたのは個を強める為。それすら大きな視点で見直すと、プロレス界全体をつなぐ為にひとつ上のステージで活躍を始めたとも取れるのです。

もいろクローバーZもシングル「青春賦」のカップリング曲「Ｌｉｎｋ Ｌｉｎｋ」で最後にこう歌っています。

〝離れていても想いはＬｉｎｋ〟

我々の掲げたテーマ『つなぐ』は直接接触して繋がる〝ｊｏｉｎ〟ではなく、何かを媒体としてしっかりとコネクトする〝Ｌｉｎｋ〟なのです。

●次年度幹事学年明鐘会の皆さん、総明会は青春です

では最後に、青春賦の流れで皆さんと想いをＬｉｎｋさせましょう。

事例1、今日は紫紺祭。2人組の異性と話が弾み、たまたま同じ帰り道。声をかけてきたのはこっちの人。でも私をずっと見ているのは…。あれからひと月経ったけど、これってもしかして付き合ってる?それとも勘違いかな…。このなんとも言えない感じ、青春ですね。

事例2、「プロレスって八百長なんでしょ?」「いやいや確かにお約束のムーブがあったりするけども。完全にショーという訳ではないし、総合格闘技の様に秒殺で腕が折れたりというのが毎回ある訳でもない」なんていうの、このグレーな感じ。…あ、プロレスって青春だ!

事例3、「毎週毎週、〝ソウメイカイ〟ってどうせ飲んでるだけなんでしょ?仕事じゃないんだから早く帰ってきて子供の面倒見てよ!」「確かに毎回飲んでるけどむしろ打ち合わせの時間の方が長いし、お金にはならないけど寄付広告を集めたり返礼品の準備をしたりと仕事といえば仕事だし!」「なにその中途半端な言い方!オフホワイトとか言う気?」…はい、そうです。総明会は青春なのです。

まずは「プロレスって八百長なんでしょ?」に対して「いや、プロレスは青春なのさ」と答える練習をしていただき、ご家族から「総明会って仕事なの?遊びなの?」と聞かれたら「総明会は青春なんだよ」と答えてみてください。「はぁ?」って言われると思います。

この「紫紺の詩」と総会懇親会をきっかけとして、同期のつながりだけでなく「総明会という財産」「あらたな誇り」「世代を超える明治愛」を育んでいただきたいのです。頼もしい先輩方、在校生を含む後輩達とともに何度目かの青春を謳歌し、Ｌｉｎｋしたその姿こそ「ＯＮＥ ＭＥＩＪＩ」。どうか皆さんも「Ｍｅｉｊｉの薫り」をつなぐべく、一年間の幹事学年活動を満喫して下さい。

第55回総明会 御寄付者一覧

（敬称略・8月末現在）

◎総明会行事
チャリティゴルフ大会
大会参加者有志一同
金　八万二千円

班・クラブOB会
金　六万五千円

◎学校関係
明治白駿会有志一同
金　十一万円

◎同期会・班クラブ
OB・OG会等
旧雨会（昭和34年卒）
金　一万円

紫讃会（昭和43年卒）
金　三万一円

男坂倶楽部（昭和44年卒）
金　十六万二千円

獅子の会（昭和45年卒）
金　四万二千円

明紫会（昭和50年卒）
金　八万五千円

明々会（昭和51年卒）
金　七万円

男子校根性組（昭和52年卒）
金　三万五千円

明誠会（昭和54年卒）
金　二十万円

紫魂会（昭和55年卒）
金　七万円

明翔会（昭和56年卒）
金　九万四千円

明魂会（昭和57年卒）
金　八万六千円

明輪会（昭和58年卒）
金　七万九千円

明心会（昭和59年卒）
金　十二万二千円

闘紺会（昭和60年卒）
金　九万二千円

新世輝（昭和61年卒）
金　十一万六千円

明猿会（昭和62年卒）
金　七万四千円

昭和戊辰乃会（昭和63年卒）
金　八万円

平成改元会（平成元年卒）
金二十五万三千円

明愛会（平成2年卒）
金　二一万一千円

明仁会（平成3年卒）
金　二十万円

明雪会
金　四万九千円

卯ノ木会
金　五万四千円

吹奏楽班OB・OG会
金　三万八千円

明球会
金　三万一千円

マンドリン部OB会有志一同
金　四万二千円

明水会
金　六万八千円

放送班OB会(田村会有志)
金　五万四千円

地理研究部OB会
金　四万六千円

歴史研究部OB会
金　七万一千円

応援団OB会
金　五万五千円

フェンシング部OB会
金　四万六千円

ヤマダ大感謝祭
金　十二万九千円

硬式野球部激励会
金　五万二千円

中学野球部OB会
金　八万八千円

◎個人
金十万円
平野　一哉　昭和59年卒
金　二万円
水上　泰良　昭和54年卒
金　一万円
小田川玉城　昭和25年卒
山崎　敬生　昭和32年卒
比留間竹郎　昭和45年卒
廣野　宏士　昭和47年卒
後藤　勇三　昭和50年卒
岡本　雅仁　昭和51年卒
塚谷　昌哉　昭和54年卒
星本　慎児　昭和54年卒
狩野　智雄　昭和56年卒
染谷　貴男　昭和57年卒
長島　健児　昭和58年卒
眞野　大　昭和58年卒
町側　尚則　昭和60年卒
池田　曜　昭和61年卒
山下　征隆　昭和63年卒
中山　真一　（明治中学・高校事務長）

幹事学年 寄付者一覧

天野　亨　櫻井　崇博
天野　智充　佐々木敦史
有森　毅　佐々木卓哉
五十嵐昭彦　柴田　亮介
石倉　学　荘司　康夫
岩堀　博　神　克彦
牛島　伸介　洲崎　雅年
梅澤　聡　鈴木英一郎
浦　和正　鈴木　英介
海老塚拓彦　関根　義幸
大野　光照　高木　基樹
大山　建次　田中　大輔
大山　聡　寺土　博昭
岡永　健二　冨樫　展広
岡本　紀彦　富永　進也
長田　正人　中沢　祐一
小澤　紘人　永野　大輔
尾田　康弘　中村　繁信
小畑　啓　中村　光春
風間　昭男　西村　能一
片岡　善明　長谷川　靖
門田　武士　平林　亮
金井　渉　福田　浩茂
金高　正之　藤井　広之
岸　哲也　本間　勝智
木下　泰之　牧野英太郎
久保田和哉　増田　和弥
倉持　秀一　松波　宏和
倉持　昌彦　松本　光司
栗生　孝雄　森　直樹
暮地　朗宏　梁瀬　昌宏
後藤　充宏（マサノリ）　屋比久将典
小林　正典（マサフミ）　吉田　雄介
小林　正典　米川　幸次
小森谷正俊　渡邊　邦幸
今田　善丈

以上71名

御礼

この度は第55回総明会総会及び懇親会開催、並びに会報誌「紫紺の詩」の発行にあたり、大変多くの皆様からご寄付及び広告掲載を賜り、誠にありがとうございました。深く感謝申し上げます。

今年は平成4年卒業の同期会である「快汗、どすこい塾」のメンバーで、寄付、広告掲載をお願いさせていただきました。活動中は不慣れや連携の悪さから、あれっ？と首を傾げられる点もあったかと思いますが、ご海容いただけると幸いです。

明治中学・高校の同窓生というだけで、多くの同期会や班クラブのOB・OG会に参加させていただきましたが、多くの方から励ましの声をかけていただきました。卒業してから27年が経ち、初めて母校の真価を理解することができました。

奇しくも、私たちが明治高校に入学した平成元年から幹事学年になった今年で平成が終わりました。氷河期世代、調布移転、共学化など、令和時代の総明会の寄付広告活動は変化していく要素がたくさんありますが、幹事学年として、多くの方々と出会い、母校の歴史をつないでいく仕組みは素晴らしい経験をできるチャンスなので残していってほしいと思います。

来年は明鐘会が幹事学年です。引き続き、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

最後に、明治中学校・高校並びに総明会の益々の発展を祈念いたしまして、御礼のあいさつとさせて頂きます。

快汗、どすこい塾　寄付広告委員長　荘司　康夫

総明会（明治大学付属明治高等学校同窓会）会則

第1章　総　則

（名称）
第1条　本会は、総明会と称する。

（目的）
第2条　本会は、会員相互の結束と親睦を図り、且つ母校のためにこれを賛助することを目的とする。

（事業及び会計処理）
第3条　本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。
1　母校に対する賛助活動を推進すること。
2　会員名簿を整備、管理すること。
3　会報などの広報物を発行すること。
4　同期会の結成を助成し、奨励すること。
5　班部ＯＢ会の開催を助成し、奨励すること。
6　その他、本会の目的を達成するために必要なこと。

②前項に定める事業はすべて一般会計として処理する。ただし、会長は、理事会の議決と評議員会の承認を得て、前項1号ないし6号に定める一部もしくは全部を特別会計として処理することができる。

（事務局、所在地）
第4条　本会の事務を行うために事務局を設ける。

②事務局は、明治大学付属明治高等学校内に置く。

第2章　会　員

（会員資格）
第5条　本会は、旧制、新制明治中学校、明治大学八丈高等学校もしくは明治高等学校の卒業生ならびに同校に在籍したことのあるものを会員とする。

（入会金及び終身会費）
第6条　会員は、入会の時に入会金及び終身会費を本会に納入するものとする。入会費及び終身会費の額ならびにその徴収の方法は、理事会が明治大学付属明治高等学校校長（以下「校長」という）の同意を得て定める。

（特別会員）
第7条　母校の教職員であるもの及びその職にあったものを特別会員とする。

②特別会員は、本会が行う事業に参加することができる。

第3章　役　員

（役員の種類及び定員）
第8条　本会に理事10人以上20人以内及び監事2人を置く。

②本会に会長1人、副会長3人以内、専務理事1人、事務局長1人、会計1人を置く。

③必要であれば、本会に常務理事を若干名置くことができる。

（役員の選任）
第9条　会長及び副会長の選任は、別に定める「会長及び副会長選出規定」に基づいて選定し、理事会及び評議員会の承認を受け、総会の決議をもってこれを選任する。会長及び副会長はその就任と同時に理事となる。但し、任期中途で会長及び副会長を補充すべき場合は、「会長及び副会長選出規定」に準じて選定し、理事会及び評議員会の承認を得て選任することができる。この場合は選任直後の総会において承認を得るものとする。

②会長及び副会長以外の理事並びに監事（以下「会長選任役員」という）は、会員の中から、会長が選任する。会長選任役員は、選任後最初の評議員会の承認が得られなかったときは、選任されなかったものとみなす。これにより会長選任役員に欠員が生じたときは、会長は欠員のないように直ちに役員を選任しなければならない。

③専務理事、常務理事及び事務局長並びに会計は、副会長の同意を得て、会長が理事の中から選任する。

④役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

⑤会長は、副会長の同意を得て、いつでも会長選任役員を解任することができる。これにより会長選任役員に欠員が生じたときは、会長は欠員の無いように直ちに役員を選任しなければならない。

⑥理事は評議員を兼務できない。

（理事会）
第10条　本会の会務の執行は、理事会がこれを決する。

②理事会は理事をもって構成する。

③理事会は会長がこれを招集する。

④理事会の議長は、会長又は会長が指名したものがこれにあたる。

⑤理事会の議事は、出席理事の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

⑥理事は書面により理事会の決議に加わることができる。

⑦監事は、理事会に出席し意見を述べることができる。

（会長等の職務）
第11条　会長は本会を代表し、会務を総理、執行する。

②副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名した順位にしたがい会長の職務を代行する。

③専務理事は、会長の指揮のもとに会務を総括してつかさどり、かつ事務局を総括する。

④常務理事は、専務理事を補佐する。

⑤事務局長は、専務理事の指揮のもとに事務局を統括する。

⑥会計は、本会の会計及び財産の状況並びに会務の執行を行う。

⑦理事は、会務を分担する。

（監事の職務）
第12条　監事は、本会の会計及び財産の状況並びに会務の執行を監査する。

②監事は、監査の結果を定時総会に報告する。

（名誉役員）
第13条　本会に名誉会長、名誉顧問及び顧問、相談役を置くことができる。

②名誉会長、名誉顧問及び顧問、相談役は、本会又は母校に永年にわたり特別に功労のあったものの内から理事会が推薦し、評議員会の承認を得て会長がこれを委嘱する。

③学校法人明治大学の総長、学長は、その在任中、名誉顧問としてこれを推戴する。

④明治大学付属明治高等学校の校長は、その在任中、顧問をそれぞれ推戴する。

⑤相談役は、会務に永年にわたり功労のあった者の内から理事会が推薦し、評議員会の承認を得て会長がこれを委嘱する。

第4章　総会及び懇親会

（総会の招集）
第14条　定時総会は毎年1回開催し、臨時総会は必要のあるときに開催する。

② 総会は、会長がこれを招集する。
③ 総会の招集は、本会が発行する会報に掲載し、もしくはその他の方法で会員に通知して行う。

（総会の議事）
第15条 総会は、この会則に定める事項及びその他の重要な事項のうち理事会が提案し、評議員会が必要と認めた事項を総会における審議事項として決議する。
② 総会の議長は、会長又は会長の指名したものがこれにあたる。
③ 総会の議事は、出席会員の過半数でこれを決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

（懇親会の開催）
第16条 懇親会は、会員の懇親を目的として毎年1回開催する。
② 懇親会の開催に関する事項は、理事会が決定し、評議員会の承認を得て、会長が会員に通知する。この通知は、総会の召集通知に準じて行う。

第5章 委員会

（委員会の設置）
第17条 本会は、第2条の目的の達成及び第3条の規定に掲げる事業の遂行のために必要な事項を調査、研究、審議し、または実施する機関として委員会を設けることができる。
② 委員会は、会則に定めるほか理事会の決議により設置する。
③ 委員会は、委員長1人及び委員2人以上をもって構成する。
④ 委員長は、理事会の承認を得て会長がこれを委嘱し、委員は、会員及び特別会員の中から会長の同意を得て委員長がこれを委嘱する。
⑤ 委員会は、委員長がこれを主宰する。
⑥ 委員長は、その就任と同時に理事となる。

第6章 評議員及び評議員会

（評議員）
第18条 本会に、卒業学年毎に2人以内の評議員を置く。同期会は、同期会の会員のうちから評議員を選任して本会に届けるものとする。また、総明会に登録した班部OB会毎に1人の評議員を置くことができる。評議員を選任した場合は、本会に届けるものとする。
② 同期会が結成されていないか、もしくは同期会において評議員を選任できない事情があるときは、会長は、当該学年のために同学年の中から仮評議員を選任できる。
③ 総明会に登録すべき班部OB会が結成されていないか、もしくは班部OB会に評議員を選任できない事情がある場合は、評議員を置くことができない。
④ 同期会の評議員と班部OB会の評議員は兼任できない。

（評議員の職務）
第19条 評議員及び仮評議員は、評議員会に出席するほか、本会の事務のうちその属する学年もしくは同期会及び班部OB会の関係で必要な事務を処理する。
② 評議員及び仮評議員は、適宜代行者を選任して評議員会への出席、その他の事務処理を代行させることができる。

（評議員会）
第20条 評議員会は、この会則に定める事項及びその他の重要な事項につき議決する。
② 評議員会は、会長が適宜これを招集する。
③ 評議員会の議長は、会長もしくは評議員の中から会長があたり、その進行は事務局長が行う。
④ 評議員会の議事は、出席評議員、仮評議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第7章 同期会

（同期会）
第21条 会員は、学年ごとに同期会を組織するものとする。
② 同期会は、同期会名簿を整備し、運営に関する準則を定めるものとする。
③ 同期会は、その選任した評議員の職務の執行を助けなければならない。
④ 同期会は、同期会の総会を開催したときは、本会に報告するものとする。

第8章 班部OB会

（班部OB会）
第22条 会員は、在学中在籍した班部ごとに班部OB会を組織することができる。
② 班部OB会は、OB会名簿を整備し、運営に関する準則を定めるものとする。
③ 班部OB会は、その選任した評議員の職務の執行を助けなければならない。
④ 班部OB会は、OB会の総会を開催したときは、本会に報告するものとする。

第9章 会計

（会計の分類と会計年度）
第23条 本会の会計処理は、一般会計と特別会計に区分して行い、特別会計はこの会則に定めのある場合の他、理事会において特に定めた会計に関する会計処理、一般会計は特別会計を除いたすべての会計処理とする。
② 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

（基金）
第24条 理事会は、本会の財政基盤を安定させ、また第3条に定める事業の遂行資金を形成するため基金を積立てる努力をしなければならない。
② 基金は、特別会計（以下「基金特別会計」という）で処理する。
③ 入会費、寄付金のうち理事会で基金に組入れることを決議したもの、並びに基金へ組入れることを目的とする寄付金（以下「特別基金」という）は、基金として基金特別会計に計上し、この会則に定めのある場合を除き支弁することはできない。
④ 基金は、財政基盤基金と事業遂行基金をもって構成する。
⑤ 基金への組入金は、財政基盤基金の総額に満つるまで優先してこれに充当する。
⑥ 財政基盤基金の総額は、総会の決議により決定しもしくは変更する。この場合、第26条の定め（特別決議）を準用する。
⑦ 財政基盤基金は、原則として取崩すことができない。ただし、総会において承認を得た場合はこの限りではない。この場合、第28条の定め（特別決議）を準用する。
⑧ 基金のうち、財政基盤基金の総額を超える額を事業遂行基金とする。
⑨ 事業遂行基金は、第3条1項1号に定める事業もしくは理事会で決議した事業に支弁するため、理事会及び評議員会の決議によりこれを取崩し、当該事業のために支弁することができる。
⑩ 会長は、緊急に対処を要すると認めた事項（以下「緊急処理事項」とい

う）のために、副会長の同意を得て、事業遂行基金を取崩し緊急処理事項に支弁することができる。この場合、会長は、緊急処理事項が生じた後、最初に開催される総会において、当該事項の緊急性及び事業遂行基金取崩しの必要性を説明し、取崩しについて承認を得なければならない。

⑪ 事業遂行基金を支弁して行う事業を検討するため、本会に基金事業委員会を設置する。第17条4項の定めにかかわらず、この委員会は委員長1人と委員8人をもって構成し委員は理事の中から委員長が選任する。

（経費）

第25条　本会の経費は、入会費（ただし基金組入れ分を除く）、終身会費及び寄付金（ただし基金組入れ分を除く）並びに一般会計に属する財産から生じる果実その他特別会計に属さない収入をもって支弁する。

（予算）

第26条 会長は、会計年度の終了する前に、理事会の承認を得て翌会計年度の予算を作成する。翌会計年度の予算は、評議員会の承認を得て、総会に提出してその承認を得なければならない。

② 前項により、会長は、その会計年度の最後に開催される評議員会に翌会計年度の予算を提出し、その承認を得た場合は、翌会計年度の初めから総会開催の日までの間、その予算を執行できるものとする。

（決算）

第27条 本会の収入支出の決算は、監事がこれを監査し、会長がこれを総会に提出して報告しなければならない。

② 基金特別会計の決算報告においては、財政基盤基金と事業遂行基金を区別し、それぞれの収支の概要及び決算時の在り高のほか、特別基金の累計額を報告するものとする。

第10章　補　則

（特別決議）

第28条 本会の会則の改正は、総会における出席会員の4分の3以上の多数による決議によらなければならない。

（届出）

第29条 会員は、氏名、住所及び職業を変更したときは本会に届け出るものとする。

② 同期会は、同期会員名簿及び役員名簿を本会事務局に届け出るものとする。

③ 班部ＯＢ会は、ＯＢ会名簿及び役員名簿を本会事務局に届け出るものとする。

附　則

（経過措置1）

第1条（年会費同期会）

前回の会則の改正が施行された平成11年1月1日以前に会員となった者で構成される同期会（以下「年会費同期会」という）が納入する年会費については、次に会則改正のあるまで改正前の第7条の定めによるものとする。

第2条（年会費）

同期会の納入する年会費は、第25条の定める経費に支弁する。

（経過措置2）

第1条（年会費班部ＯＢ会）

班部ＯＢ会は、本会を運営する費用に充てるための年会費を納入するものとする。年会費の額及びその納入方法は、評議員会で定める。

第2条（年会費）

班部ＯＢ会の納入する年会費は、第25条の定める経費に支弁する。

（施行期日）

この会則の改正は、平成18年12月3日より施行する。

（参考）

改正前第7条（年会費）

同期会は、本会を運営する費用に充てるための年会費を納入するものとする。年会費の額及びその納入方法は、評議員会で定める。

総明会会長及び副会長選出規定

会則第9条1項に基づき、会長及び副会長の選出は本規程により行う。

（選出委員会の設置、解散、委員の選出）

第1条 会長及び副会長の選出を行う場合は「選出委員会」（以下委員会という）を設置する。

② 委員会は役員改選又は補充の時期に合わせて、十分な期間を考慮し、理事会が設置する。

③ 委員会の構成は、委員長1人、委員6人とする。委員の選出は理事会及び評議員会で各々3人とする。委員長は会長が指名したものがこれにあたる。

④ 委員会の解散は、総会において会長及び副会長が選出された時点とする。

（会長、副会長の選出、承認について）

第2条 委員会は、会長及び副会長の選出にあたり、推薦及び立候補を受付け、その者をもって候補者とする。

② 候補者の中より、会長及び副会長候補者を選出する。選出においては全員一致を原則とするが、定員に絞り込めない場合は、その状態で選出終了とする。

③ 理事会は、委員会より選出された候補者の承認を行う。

④ 評議員会は、理事会で承認された候補者の承認を行う。

⑤ 評議員会において承認された会長、副会長は、総会の決議をもって、これを選任する。

（理事会の承認）

第3条 委員会より選出された会長候補者が1名の場合、理事会において過半数の信任をもって承認されたものとする。

② 委員会より選出された会長候補者が2名以上の場合、理事会において投票を行い、最も得票数の多い候補者を会長候補者として承認する。

③ 委員会より選出された副会長候補者が3名の場合、理事会において過半数の信任をもって承認されたものとする。

④ 委員会より選出された副会長候補者が4名以上の場合、理事会において投票を行い、得票数の多い順に3名を副会長候補者として承認する。

（評議員会の承認）

第4条 理事会より選出された会長及び副会長候補者は、評議員会において過半数の信任をもって承認されたものとする。

（会長、副会長の資格）

第5条 会長及び副会長の資格は次の各号のいずれをも満たすものとする。

1 総明会会員として20年以上在籍していること。

2 評議員又は理事を経験していること。

3 立候補届出締め切り時の年齢が70歳未満であること。

この規定は、平成26年11月16日より施行するものとする。

ベンチャー企業さまを中心に
マスおよびデジタル領域のマーケティングプランニングから広報・PR 活動支援、
TV CM を始めとするクリエイティブ制作やメディアバイイングまで行います。
また、タレントやアーティスト、俳優、モデル、文化人など、
年間 500 名を超える著名人のキャスティングを実施しています。

FIREBUG

Entertainment Startup

株式会社FIREBUG
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-32-11 Kビル3F
TEL:03-6300-6771 / FAX:03-6300-6774

代表取締役 CCO **佐藤詳悟　平成13年卒　サッカー部OB**
執行役員 Vice President **塚田晃作　平成 8 年卒　バスケ部OB**

MEIJI
UNIV' LACROSSE TEAM

祝 第55回 総明会総会・懇親会開催
明治大学体育会ラクロス部OB一同

平成2年卒　坂入 洋人
平成3年卒　佐久間 進、中山　将、山本 英二、山口 一郎
平成4年卒　大山 建次、木下 泰之、森田 慶次郎

株式会社 山口商店
代表取締役 山口　隆（昭和48年卒）
総合研究大学院大学 山口孝明（平成26年卒）
〒143-0016
東京都大田区大森北1-17-2
TEL 03-3761-4838

建物に関するご興味がございましたら、お気軽にご連絡下さい。
建築士として全国どこでも直接対応させて頂きます。

●相続税対策をそろそろお考えの方
●お建て替えをお考えの方
●アパート経営や店舗・事務所・診療所等のご計画の方
●現住居の簡易耐震診断をご希望の方
●お土地探しからご検討の方
●土地の有効活用にご興味のある方
●売却や住み替えをお考えの方

SEKISUI HOUSE

担当：一級建築士 **片岡善明**（明治高校平成４年卒） ※各種優遇内容等は、ご連絡ください。
Tel: 080-8132-5428　Mail: kataokay@swa.sekisuihouse.co.jp

街の身近な建築士を目指し営業 × 設計を一人二役でハイブリッド対応実施中

SEKISUI HOUSE 積水ハウス株式会社 千葉支店 ～戸建住宅建築実績No.1 ～
〒260-0025 千葉市中央区問屋町 1-35（千葉ポートサイドタワー 10F）☎ 043－246－3337㈹

TANAKA KENSO
ARCHITECT PLANNING
田中建装株式会社
東京都杉並区高円寺南 1-22-6
TEL 03-3315-0280
www.tanakakenso.co.jp
原田　崇（H8年卒 水泳部OB）

明日をつなぐ色の世界へ
MARUSHIN
株式会社マルシン
代表取締役 近藤　旭
（平成 9 年卒　バスケ部）
埼玉県草加市青柳 2-11-39
TEL 048（931）5200
http://kk-marusin.com/

【編集後記】

真夏の「Ｍｅｉｊｉの薫り」

会報委員長（平成４年卒）　木下 泰之

幹事学年の招集があったのが、昨年４月。明治高校を卒業して以来、母校には何一つ恩返しをしていなかったので何かはしようとは考えておりましたが、まさか自分が会報委員長を務めるとは思っておりませんでした。自分自身、高Ⅲの時に過程の企画委員を経験しましたが、特段、文章が上手い訳でもなく編集についても全くのド素人だった為、とにかくアイディアを出す為に最初は平成30年間を棚卸して、企画候補を沢山出しました。ことごとくボツになりましたが（笑）。会報製作のため、調布校舎を訪れる度に卒業した校舎ではないのにも関わらず自分も調布校舎で学んだなという、不思議な感覚が芽生えたこともありました。

会報のメインテーマは改元前に『つなぐ』で決めており、サブタイトルをどうするかは、新元号の発表後に決めるつもりでいました。「令和」が発表された後、ピンと来なかったため、サブタイトル無しで行こうと一度決めましたが、周囲からの意見も聞き掘り下げた結果、３週間後に「Ｍｅｉｊｉの薫りを令和へ」で決まりました。このサブタイトルの決定後、色々と取材ネタやアイディアが沸いて来たことを考えると、あの３週間は無駄ではなかったと思っております。

幹事学年テーマについては、冒頭１ページにある説明が全てでありますが、個人的には、あの説明にはない「Ｍｅｉｊｉの薫り」を、いつしか探しておりました。この半年で自分の地元・下町江東区から何度も神田駿河台と調布へ通っているうちに、神田祭りや時代を感じさせる建物等、広い意味での「江戸の薫り」が神田駿河台近辺にまだ残っていると感じました。会報編集も終盤時、線香花火の山縣商店の話を聞いて、これは私達の会報に載せなくてはという直感から取材をさせていただきました。「江戸の薫り」を感じられる国産線香花火の話と、その伝統を令和に継いだ大先輩の話を会報に添えることができました。山縣商店で購入した花火を、この夏にどすこい塾でも楽しませていただきました。

最後になりますが広報委員会の先輩方を始め、お会いさせて頂きました先生、ＯＢ・ＯＧ、現役生、そして、どすこい塾の皆様、会報編集という素晴らしい経験をさせていただきまして、本当にありがとうございました！

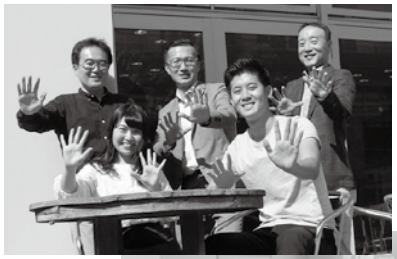
半年間の苦労が報われた会報

会報副委員長（平成４年卒）　神 克彦

「そんなに大変なんだ……。」

毎年送られてくる会報を読む度、そう思わざるを得ませんでした。母校を懐かしませ、読み手を引き込むクオリティの高さ、その為の企画検討や取材活動・・・。一年前迄は、人ごとのように考えていました。昨年末に同期からの誘いもあって、会報委員として携わることになりました。この一年弱の期間、忙しかったけれども楽しかったです。会報作成に向け、情熱を傾けている先輩方との出会い、これはとても貴重な経験でした。毎回の広報委員会で頂戴するご指摘の厳しさ、それが終われば一変、飲み会での温かい激励のお言葉等、会報委員に関わっていなければ「幹事学年として携わることの良さ」を知ることは出来ませんでした。職場では「ジャニーズよりも忙しい（自称・笑）」立場で、取材や執筆活動との両立は決して楽ではありませんでしたが、今は「やって良かったな」というのが正直な感想です。

委員長の木下君、そして一緒に携わってきた牛島君・倉持君・今田君・増田君、校正会の時に参加してくれた同期の皆さんにも本当に感謝です。苦労した甲斐があった会報が完成したと思います。ぜひ、ご一読頂くことで母校を懐かしみ、良き思い出を心の中に巡らせるきっかけとなって下されば幸いです。



深まった母校愛

会報委員（平成４年卒）　倉持 秀一

会報委員としての最初の活動は３月２日の安部友巳先生と清水克悦先生のご退任インタビューでした。３時間半にわたる先生方のご高説を、それぞれたった２ページでどうまとめたらよいものか…。文字起こしの中、絶望感に苛まれながら幸福感にも浸るという不思議な感覚を経験しました。調布校舎には、その後も、各種取材で何度も足を運びました。ひたむきな現役生や立派に活躍する若手ＯＢ・ＯＧの話を聞くたびに深まっていった母校愛。自分もこの学校の卒業生なのだと誇りを感じることができました。完成した会報を見て、会報委員を務めさせていただき本当に良かったと心から思います。関係した全ての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

第55回 総明会実行委員会
「快汗、どすこい塾」平成4年卒

実行委員長
小畑　啓

実行副委員長
福田　浩茂
有森　毅

事務局長
冨樫　展広

会　計
天野　智充

ゴルフ委員長
大山　聡

式典委員長
米川　幸次

式典委員
牧野英太郎
後藤　充宏
岡永　健二
大野　光照
坂野　慎哉

寄付広告委員長
荘司　康夫

寄付広告委員
中村　光春
藤井　広之

就活会委員長
田中　大輔

会報委員長
木下　泰之

会報副委員長
神　克彦

会報委員
牛島　伸介
金井　渉
倉持　秀一
今田　善丈
増田　和弥

発　行：明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会・総明会
〒182-0033 東京都調布市富士見町4-23-25
明治大学付属明治高等学校内
TEL.042-444-9100
http://www.meiji-soumeikai.com/
編集長：木下　泰之
アートディレクター：島村　武史（昭和59年卒）
制作進行：田嶋　慎治（昭和63年卒）
印　　刷：ふじ・プリント
2019年10月1日発行

お礼とお詫び

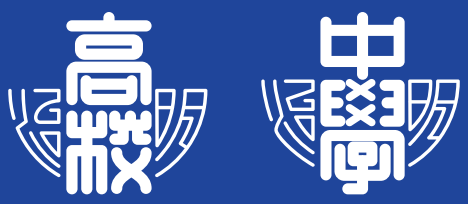
この会報誌発行にあたり、多くの総明会の皆様から、ご寄稿及び貴重なお写真の提供をいただきました。広報委員会一同心よりお礼申し上げます。
紙面の都合上、全てを掲載することができませんでした。この場を借りてお詫び申し上げます。また、文章中においても、万人が読みやすい表現に統一をはかるため、広報委員の責任で割愛・表現の変更をさせていただきました。
広報委員全員で文章を校正致しましたが、至らぬ点もあるかと思います。
何卒ご了解いただきます様お願い申し上げます。
※本誌掲載の記事、写真、イラスト、図表の無断転載は固くお断りいたします。
乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

住所変更時のお願い

総明会では、総明会会報・総明会からのお知らせが皆様のお手元に、一通でも多く確実に届くよう各学年の評議員を通じて総明会会員名簿の管理を行っております。
お引越し等で住所が変わられた方はお手数ですが、右記総明会事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。

連絡先：
総明会 事務局長 **平野 一哉**
TEL 047-351-1511
FAX 047-354-7070
（勤務先：株式会社もとゆき 代表取締役）
E-mail：k_hirano@motoyuki.jp

2019年総明会会報『紫紺の詩』



明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会